

○鈴鹿工業高等専門学校教員選考規則

〔平成16年7月12日〕
規 則 第 6 5 号

最終改正令和6年1月10日

鈴鹿工業高等専門学校教員選考規則

(趣旨)

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の採用及び昇任に係る選考は、高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）に定めるもののほか、この基準の定めるところによるものとする。

(教員の選考)

第2条 教員の採用及び昇任については、校長が運営会議に提案する。

2 教員の採用及び昇任は、運営会議で選考実施を審議し、承認を得た後、教員選考委員会の議を経て、校長が決定する。

3 教員の採用は、公募により行う。

(教員の資格の特例)

第3条 教員として採用する者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学科の教員は、博士の学位を有する者又はこれと同等以上の学位を有すると認めた者とする。

(2) 教養教育科の教員は、修士以上の学位を有する者又はこれと同等以上の学位を有すると認めた者とする。

2 前項第1号の規定にかかわらず、学科の助教は、博士の学位又はこれと同等以上の学位を取得する見込みの有る者も含むことができるものとする。この場合において、独立行政法人国立高等専門学校機構における期間を定めて雇用される常勤の教職員の範囲に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第74号）第2条第1項第4号により、期間を定めて採用するものとし、期間は採用された日から5年間に達する日までを上限とする。

(教員選考の審査基準)

第4条 教員選考の審査基準は、次の各号により行うものとする。

(1) 選考審査は、教育（学生指導を含む。）、研究及び社会貢献並びに人物の総合評価により行う。

(2) 教員の採用及び昇任に当たり、教授、准教授、講師、助教となることのできる者は、それぞれ次の基準を満たしていなければならない。ただし、教育（学生指導を含む。）上特に優れていると教員選考委員会が認めた場合には、基準を緩和することがある。

イ 教授

区 分	学 位	著 書・論 文 等
学 科	博 士	過去5年以内に3編以上
教養教育科	修 士 以 上	過去5年以内に2編以上

ロ 准教授

区 分	学 位	著 書・論 文 等
学 科	博 士	過去5年以内に3編以上
教養教育科	修 士 以 上	過去5年以内に2編以上

ハ 講師

区 分	学 位	著 書・論 文 等
学 科	博 士	過去5年以内に2編以上
教養教育科	修 士 以 上	過去5年以内に1編以上

ニ 助教

区 分	学 位	著 書・論 文 等
学 科	博 士 (前条第2項に該当する場合は、取得見込みを含む。)	過去5年以内に1編以上
教養教育科	修 士 以 上	過去5年以内に1編以上

上記イからニの「過去5年以内」とは、本規則第2条第1項の「校長が運営会議に提案した」月を基準月として過去60月の期間とする。また、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の労働時間、休暇等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第9号）に規定する、産前休暇、産後休暇、育児休業及び介護休業の期間においては、過去60月の期間に含めない。

(選考審査の方法)

第5条 選考審査の方法は、次の各号により行うものとする。

- (1) 教員の採用及び昇任に係る選考は、応募書類及び面接（教員選考委員会委員及び教員選考委員会が選任した教員が当たる。）により審査する。
- (2) 教員選考委員会は、教員の採用及び昇任に係る応募書類について、事前審査を学科長又は教養教育科長に依頼することができる。

附 則

この規則は、平成16年7月12日から施行する。

附 則

この規則は、平成１７年１２月５日から施行する。

附 則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附 則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附 則

この規則は、平成３０年１２月５日から施行する。

附 則

この規則は、令和３年８月４日から施行し、令和３年７月１５日から適用する。

附 則

この規則は、令和６年１月１０日から施行する。

令和6年度 年度計画

独立行政法人国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校

(序文)

独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第31条の規定により、鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）の中期目標を達成するための年度計画を次のとおり定めるものとする。

【1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置】

1.1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- ①-1 WEB サイトおよび SNS を活用して情報を発信する。
- ①-2 ホームページ、地元のマスコミ等を通じて広く本校の PR 活動を行う。
- ①-3 三重県の各市の広報誌に鈴鹿高専等のイベントの掲載を依頼する。
- ①-4 入試説明会、オープンキャンパス、学習塾対象説明会の実施や中学校主催の進路指導説明会に参加する。
- ①-5 三重県内および近隣県の中学を訪問し広報活動を行う。
- ①-6 近隣高専（鳥羽商船高専、近大高専など）と連携した広報を検討する。
- ②-1 女子志願者を確保するため、オープンキャンパス、高専祭、各種体験教室等の機会を活用し、広報に努める。
- ②-2 女子学生の比率向上およびキャリア教育の充実を図る取組みを継続して実施する。
- ②-3 全国国立高専による私費外国人留学生対象の3年次編入学試験の実施に協力する。
- ③ アドミッションポリシーを反映した学力入試の選抜方法を継続し実施する。また、最寄り地等受験制度およびWeb出願を継続実施する。

(2) 教育課程の編成等

- ①-1 運営会議を中心に学科の強みを生かしつつ、分野横断・複合融合の教育を進める。
- ①-2 KOSEN（高専）4.0 イニシアティブで採択された「産業界が求めるロボット技術者を育成するためのロボット工学教育」、「卓越したグローバルエンジニア育成事業」および「地域の情報セキュリティレベル向上に貢献する人材の育成」の取組みを継続して実施する。
- ①-3 専門学科を幹にして他の専門分野も幅広く学び、複合・融合領域へ挑戦できる人材の育成を行う。

- ①-4 高い専門知識と豊富な実験技術を活用した学科教育の高度化・質保証に努める。
 - ①-5 生成 AI 講座等、産業界等と連携した教育を実施する。
 - ①-6 CBT 型学習到達度試験を実施し、数学・物理等の教授法向上に反映させる。
 - ①-7 学生による授業評価アンケートを前期と後期の年 2 回実施し、その結果を受けた改善案の公開、その案に基づいて行った改善授業の評価をさらに次のアンケートで検証し、その結果を公開する。
 - ②-1 語学力の向上をめざしたネイティブによる少人数英語教育を継続して実施するとともに、各種海外研修プログラムを継続的に実施する。
 - ②-2 実践型エンジニアリングデザイン科目として導入している、2 年生での「デザイン基礎」、4 年生での「創造工学」を継続して実施する。
 - ②-3 国際的に活躍できる人材を育成するため、グローバルエンジニアプログラムの充実を図る。また、トゥルク応用科学大学との交換留学生プログラム協定などを活用することにより、学生が海外で活動する機会を後押しすると共にキャンパスの国際化を図る。
 - ②-4 英語能力の向上のため、技術英検、TOEIC 等の受験支援を継続して行う。
 - ②-5 高専機構が主催する海外インターンシップへの参加を推進する。
 - ②-6 アントレプレナーシップの素養をもつ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシップ I 等を通して高専機構のグローバル・アントレプレナーシッププログラムを支援する。
 - ②-7 R5 年度からスタートしたグローバルキャンプは、対象を全国の高専生にまで拡大し継続・実施する。
 - ③-1 エコカーレース、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、ディープラーニングコンテスト、高専 GCON および体育大会等に参加する。
 - ③-2 学内パテントコンテストや、弁理士を招へいした知的所有権の重要性を学ぶ講義(知財セミナー)などの、知的財産教育を充実させることで、知財教育・学習のなお一層の促進・推進を図る。
 - ③-3 「豊かな人間性と社会性」の涵養を図るべく、新入生研修等での社会体験活動を推進する。
 - ③-4 地域主催のイベント等への積極的なボランティア参加を推奨する。
- (3) 多様かつ優れた教員の確保
- ①-1 公募制を堅持し、優れた教員の確保に努める。
 - ①-2 専門科目については博士の学位等の高度な資格をもつ者、理系以外の一般科目については修士以上の学位をもつ者あるいは高度な実務能力をもつ者等、優れた教育研究力を有する者の採用に努める。また、採用については教員の年齢構成にも配慮する。
 - ①-3 標準人員枠(73 名)を超えての教員配置となる場合は、暫定人員枠を一時的に措置し、第 5 期中期目標・中期計画期間中に計画的な解消に努める。

②-1 本校以外の教育機関、研究機関、企業等で勤務経験がある等、多様な背景を持つ人材の採用に努める。

②-2 産学官協働研究室に配属されている企業技術者を客員教授等に任命し、非常勤講師として採用することにより、企業のノウハウを本校の教育、研究に活用する。

③-1 女性教職員の就業環境改善のための懇談会を開催する。

③-2 引き続き女性教員の積極的な採用に努める。

④ 外国人教員の積極的な採用に努める。

⑤ 高専・両技科大間教員の交流を図る。

⑥-1 本校の教員が国内外の教育研究機関に長期にわたって勤務(研修)できる制度を活用し、教員交流の推進を検討する。

⑥-2 三重県教育委員会と連携した中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会や中学・高等学校合同指導会等に参加・活動することを通じて、学生生活の質および教員の指導力の向上を図る。

⑥-3 全教員対象のFD講演会を実施するとともに、ライフステージに応じたFD講演会等も検討する。

⑥-4 高専機構のみならず、三重県等の外部機関が主催するシンポジウムや講演会等に参加し、教職員の意識向上を図る。

⑦-1 令和3年度に見直しを行った教員評価基準教職員表彰の取扱いに基づいた教職員表彰を行う。

⑦-2 教員の教育業績等に関する評価の取扱い等に基づき、教員に対し評価を行い、その結果を賞与等に反映させる。

⑦-3 職員についても独立行政法人国立高等専門学校機構職員人事評価実施要領を基礎として、本校における職員評価制度を実施するとともに、評価結果に基づき賞与等に反映させる。

(4) 教育の質の向上及び改善

①-1 モデルコアカリキュラム本案に沿った授業内容を継続して実施する。また、改定MCCに対応するため授業内容の確認を行う。

①-2 教務委員会に設置されているFD担当を中心に教務主事補と連携しアクティブラーニングを推進する。

①-3 ICTの活用およびBYODを意識した教育を推進する。

①-4 鳥羽商船高専との学生交流を継続して実施する。

①-5 他高専の学生寮役員との交流を継続して実施する。

①-6 特色ある優れた教育実践として、従来実施している学科を越えたエンジニアリングデザイン教育の「創造工学」、低学年向けに導入している「デザイン基礎」を継続して実施する。

①-7 社会ニーズを考慮しDP等の見直しを検討する。

②-1 自己点検評価および機関別認証評価結果について、ホームページによる公開を行う。また、令和7年度受審予定の機関別認証評価および令和9年度受審予定

の KIS 評価に向け準備を行う。

- ②-2 本校の PDCA サイクルが円滑に機能するように見直し、本校独自に作成した評価項目に沿った自己点検評価シートおよび多角的評価に向けた自己点検評価システムを継続する。
- ②-3 毎年度末に運営諮問会議を定期開催し、外部の運営諮問委員の意見を反映させることで教育の質の向上を図る。
- ②-4 学習・教育の成果を確認し改善を図るために学内外関係者への達成度・満足度評価のアンケート調査を実施する。
- ③-1 SUZUKA 産学官交流会、本校を支援する企業交流会である鈴鹿高専テクノプラザおよび産学官協働研究室の企業との連携を強化し、効果的なインターンシップの実施を推進する。
- ③-2 SUZUKA 産学官交流会や鈴鹿高専テクノプラザに加盟の企業技術者、産学官協働研究室等の企業技術者および OB 技術者を講師としたエンジニアリングデザイン教育の充実を図る。
- ③-3 「地域の情報セキュリティレベル向上に貢献する人材の育成」で開発した教材を活用した教育実践を行う。
- ④ 連携教育プログラム推奨のため、対象学生に対し、年度当初にプログラム実施方針に関する周知を行うとともに、専攻科入試募集期間満了日までに履修希望者の募集を行う。また、実践力強化科目となる地域企業等と本校および大学での共同研究をテーマとした特別研究指導を実施する。

(5) 学生支援・生活支援等

- ①-1 学生指導員による自転車通学指導を継続し自転車通学マナーの向上に努める。
- ①-2 寮生の安全確保と効果的な生活指導を行うため、全教員による指導体制を継続する。
- ①-3 防災訓練および救急救命法講習会を実施し、非常時の対応を検証して寮生の安全体制の構築を図る。また、本校全体として実施する防災訓練中に安否確認訓練も行い、安否確認システムへの回答率も把握する。
- ①-4 寮については寮監の外部委託を実施しており、これによって生じた課題を検証し、寮生自身による自主自律的な学寮運営へ繋げる。
- ①-5 「学校適応感尺度調査」結果を活用するとともに、臨床心理士、カウンセラーと連携し、メンタルヘルスに関する取り組みを推進する。
- ①-6 体罰、いじめ、ハラスメントに対するアンケートを継続して実施する。また、いじめ防止等対策委員会において、いじめ等防止の年間プログラムを策定し実施する。
- ①-7 引き続き、Q-U テストを全学年に適用する。
- ①-8 メンタルヘルスに関する講習会等に教員を派遣する等、学生支援のための知識の獲得に努める。
- ①-9 三重県教育委員会(中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会)との連携協力によ

り学生支援の取組みを強化する。

- ①-10 各教職員が能力を十分に発揮できるように就労環境の維持のための研修会や講演会を実施し、ハラスメント防止およびアンガーマネジメントによるメンタルヘルスの向上に繋げる。
- ② 日本学生支援機構奨学金および三重県高等学校等修学奨学金の募集並びに授業料免除制度等をクラス掲示および学級担任を通じて周知をするとともに、ホームページを通じて保護者へも周知する。
- ③-1 インターンシップの重要性を考慮し、それら業務の担当者間で連携した学生指導を行う。
- ③-2 就職・進学したOB・OGを招いたキャリアガイダンスを行う。
- ③-3 「高専女子フォーラム」を活用して、女子学生のキャリア形成支援の充実を図る。
- ③-4 5年生の就職・進学活動体験を中心とした低学年向けガイダンスを継続して実施する。
- ③-5 進路ガイドブック等の冊子の作成と学生への配布を継続して実施する。
- ③-6 進路支援委員会を中心に、学科第1学年から専攻科2年次までを対象としたキャリア教育の計画・実施を継続して行う。
- ③-7 学生の就職・進学活動を支援しつつ、県内就職率の向上に努める。
- ③-8 オフィスアワーズを継続して実施する。

(6) 教育環境の整備・活用

- ①-1 学寮(第2・4青峰寮、青峰寮A)の現状を調査し、入居率を考慮し、維持管理費の削減を考慮した整備計画を進めており、第4青峰寮は、令和7年度概算要求(令和6年度)に反映する。
- ①-2 吹付アスベストを保有する居室は、定期にアスベスト粉じん濃度の測定を実施する。
- ①-3 専攻科棟は大規模改修と合わせてEV設置の計画を進めており、令和7年度概算要求(令和6年度)をすることとしており、機械工学科棟・マルチメディア棟および青峰会館等の2階建ての建物は階段に昇降装置の設置によるバリアフリー化を検討する。
- ②-1 建屋各所で、特に安全衛生面で必要となる修繕・保守を行う。雨漏りしている建物の営繕要求を行い、環境改善を図る。
- ②-2 光熱水費の削減に向けて、教室等の経年劣化した照明をLED化および空調機の更新を実施する。
- ②-3 屋外環境改善のため、夜間暗く危険となっているところがあれば外灯を設置する。また、経年劣化した外灯を順次、LED化を進める。不審者の隠場となるような樹木は剪定・伐採により見通しを良くする。
- ③-1 各棟の空室となった教員室や実験室の調査を行い、産学官協働研究室等の学内方針に従い、施設の有効利用を図る。
- ③-2 利用率等については、継続的にその向上に向けた検討を実施するとともに、

令和5年度の調査に基づき稼働率の低い居室について順次改善を進め、施設の有効利用に繋げる。

- ④-1 安全衛生委員会で安全パトロールを定期的実施し、要改善箇所の対策を講ずる。
- ④-2 教職員に対し、救急救命法講習会を実施する。
- ④-3 組換えDNA実験安全管理規則の運用を継続して行う。
- ④-4 全学科において実験実習科目の実施時の安全教育に「実験実習安全必携」を活用する。
- ④-5 排水管理WGを中心に学生のみならず、教職員に対しても実験用薬液等の管理方法・教育を徹底させる。
- ④-6 全レベルに対応したバイオハザード指針に沿って整備した「研究微生物安全管理規則」の運用を引き続き進める。
- ④-7 化学薬品の適切な管理・運用のため、「化学物質管理責任者」及び「保護具着用管理責任者」の設置やリスクアセスメントの実施法などについて検討する。
- ⑤ 女子学生向けのキャリア形成支援事業への学生の参加を推奨する。

1.2 社会連携に関する事項

- ①-1 科研費申請スケジュールの説明会、高専機構主催の科研費講演会等、科学研究費補助金等外部資金獲得のためのサポートを行う。
- ①-2 科学研究費補助金の申請率や採択率を向上させるため、機構本部が実施する査読ネットワークの活用および本校が行う申請書の事前レビューを実施する。
- ①-3 校長裁量経費の有効利用等により、教員が積極的に競争的資金の獲得を目指す環境づくりを行う。
- ①-4 高専連携プロジェクトによる技術科学大学との共同研究を実施するとともに、鈴鹿医療科学大学との医工連携により、地域課題解決型の取組みを推進する。
- ①-5 GEAR5.0 マテリアル「K-CIRCUITが牽引する高度先端マテリアル社会実装研究・教育」の取組みから他高専との研究活動を推進する。
- ②-1 産学官協働研究室を活用し、共同研究体制の充実を図る。
- ②-2 共同研究、受託研究等の受入れ件数や受入額を向上させるため、地元企業のみならず、大手企業とのマッチングを図る。
- ②-3 本校と鈴鹿高専テクノプラザやSUZUKA産学官交流会との共同活動を活用し、会員企業等からの共同研究等の受け入れを推進する。
- ②-4 保有特許の棚卸を継続して実施し、不要な知的財産であると判断された場合は、科学技術振興機構(JST)の知財活用支援事業を活用する。
- ②-5 教育研究等拠点(設備活用型)として認定された全国高専共同利用マテリアル分析センターとしての役割を担うため、装置維持費の確保に向けた検討を開始すると共に、全国高専や技術科学大学等との研究機器共有を実現する。
- ②-6 カーボンニュートラル(CN)の実現に貢献する次世代の人材を育成・確保するため、三重県及び県内に本社を置く日本自動車部品工業会会員企業と連携・協

力し、「創造工学」において、県内企業が抱える CN の課題をテーマとする取り組みを実施する。

- ③-1 本校ホームページに掲載のある「教員一覧」、研究者データベースである「Researchmap」や「国立高専研究情報ポータル」の情報更新を毎年度1回教員に促し、研究活動の意識向上に努めるとともに、研究・技術シーズとして情報発信を行う。
- ③-2 毎年度、「技術だより」を発行する。
- ③-3 本校の地域貢献、地域交流活動等をホームページに掲載するとともに、文教ニュースへの掲載やプレスリリース配信等を行う。
- ③-4 本校の地域貢献、地域交流活動等を地元報道機関、および全国紙にも情報を提供する。
- ③-5 公式 Facebook の作成を継続し、広報活動に努める。
- ④-1 鈴鹿市教育委員会を通じて、中学校等に出前授業を継続して実施する。
- ④-2 鈴鹿市少年少女発明クラブの活動を積極的に支援し、本校でも小中学生の発明力向上を支援するイベント等を実施する。
- ④-3 鈴鹿市教育委員会を始め関係団体と連携し、STEAM 教育支援を実施する。

1.3 国際交流に関する事項

- ① 機構本部が行う、諸外国への「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の導入支援にあたっては、教職員の参加等の支援を推進する。
- ② 日本高専生の外国高専訪問や、教員の派遣について、参加及び応募を推進する。
- ③-1 今後の世界情勢により判断し、学術交流協定等を結んでいる海外の教育機関と、オンラインも含む可能で有効な交流活動を実施する。
 - (1) アメリカ・オハイオ州立大学へ教職員・学生を派遣する。
 - (2) 専攻科学生を語学研修のため、カナダ・ジョージアンカレッジに派遣する。
 - (3) フィンランド・トゥルク応用科学大学との交換留学プログラムを実施する。
- ③-2 他高専が主催する技術英語研修や海外インターンシップ、高専機構が主催する海外インターンシップへの参加を支援する。
- ③-3 在外研究員制度を利用し教員の海外派遣を推奨する。
- ③-4 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム等への学生の応募を推進する。
- ③-5 ISTS および ISATE における技術英語研修・発表等への参加者を募り、支援を継続する。
- ③-6 アントレプレナーシップの素養をもつ人財を育成するため、グローバル・アントレプレナーシップ I 等を通して高専機構のグローバル・アントレプレナーシッププログラムを支援する。(再掲 1.1-(2)-②-6)
- ③-7 R5 年度から実施しているグローバルキャンプは、全国高専生を対象とし拡大継続実施する。(再掲 1.1-(2)-②-7)
- ④-1 留学生の学習補助や学生生活全般のサポートを行うために、日本人学生によるチューター制度を継続して行う。

- ④-2 留学生に対し、日本語を読む・書く・話す・聞く能力を高める授業を継続して行う。
- ④-3 専門教育の基礎的な部分を補うために、留学生の個々の学力を確認しながら、第2学年までの専門科目の補講を行う。
- ④-4 留学生関連行事として、実地研修旅行、校長との懇談会、進路支援相談会、留学生交流会を引き続き実施する。
- ④-5 本科第3学年への外国人留学生の受入れのほか、本科第1学年や専攻科1年次への受入れを推進する。
- ④-6 第3学年に編入学してくる留学生に対して、低学年で学ぶ専門分野を復習するため、学級担任が中心となって、各学科で週1コマ実験実習を含めた多角的な講義を行い、留学生の学力の到達度を確認しながら、他の同学年学生と同水準になるように努める。
- ⑤ 全国国立高専による私費外国人留学生対象の3年次編入学試験の実施に協力する。(1.1-(1)-②-3再掲)

【2. 業務運営の効率化に関する事項】

2.1 一般管理費等の効率化

- ①-1 教育・研究・管理運営等の業務において、鳥羽商船高専との連携強化に努めるとともに、第3ブロック内の高専との連携の在り方を探る。
- ①-2 予算の効率的な運用を策定し、運営費交付金の縮減に対応する。
- ①-3 管理運営に関する効率的運用や事務組織との緊密な連携により、一般管理費の縮減の節約に努める。
- ①-4 新規事業の開拓や既存事業の新たな発展に向け教職員の積極的な参画を図るとともに、GEAR5.0による他高専との連携を強化するなどして、外部資金の獲得を推進することで、一般管理費からの配分を抑える。
- ①-5 学内ライフラインを整備したことによる公共下水への接続に伴う下水道料金の増分を考慮し、本校全体の光熱水の使用量を、平成30年度を基準として、より一層の節約に努める。

2.2 給与水準の適正化

※独立行政法人国立高等専門学校機構に属する全高専に係る事項により、本校では年度計画として定めない。

2.3 契約の適正化

- ① 原則として一般入札で対応することとし、真にやむを得ない場合を除き随意契約を行わないことを徹底する。

2.4 情報通信技術を活用した業務の効率化

- ① 業務の省略化、自動化、電子化を行うためにICTを導入する。また、必要に応じて規則改正や業務フローの改善を行い、業務効率化を推進する。

【3. 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画】**3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理**

- ①-1 共同研究、受託研究、寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。
- ①-2 高専機構全体の運営交付金が減少となることに伴い、適切な予算計画を樹立し、無駄のない予算執行に努める。
- ①-3 事務費の削減のため、ペーパーレス化、電子化の促進などを推奨する。

3.2 外部資金、寄付金その他自己収入の増加

- ①-1 共同研究・受託研究については、技術相談や GEAR5.0 による他高専との連携を強化するなどして、その件数の増に努める。また、その件数増については、鈴鹿高専テクノプラザ等を活用するとともに、SUZUKA 産学官交流会との連携をすることにより、実現へと導く。
- ①-2 科学研究費補助金等外部資金への応募推進のための学内ガイダンスを実施する。
- ①-3 科学研究費補助金への申請率向上に向けた取組みを強化し、採択件数の増に努める。
- ①-4 奨学寄付金については、可能な限り間接経費を徴収することとし、自己収入確保の一環とする。
- ①-5 学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保する。
- ①-6 予算が厳しい状況にあるため、研究費等の外部資金の獲得を推奨するとともに、対前年度比の予算状況を教職員に提示し、更なる学内予算の節減に努める。
- ①-7 校長裁量経費の活用により、学科横断的な取組み、高等教育機関との連携などから、共同研究を推進する。

【4. 短期借入金の限度額】

※本校該当なし

【5. 不要財産の処分に関する計画】

※本校該当なし

【6. 剰余金の使途】

- ① 発生した剰余金は、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の充実、産学連携の推進等の充実に充てるように、予算配分計画を樹立する。

【7. その他業務運営に関する重要事項】**7.1 施設及び設備に関する計画**

- ①-1 女子学生の受入の推進に伴い、女子寮1棟だけでは、定員をオーバーすることとも予想されるため、男子寮も含め、居住環境の検討を行い、必要に応じて寮全

体の整備計画の検討を図る。

- ①-2 学寮(第2・4青峰寮、青峰寮A)の現状を調査し、入居率を考慮し、維持管理費の削減を考慮した整備計画を進めており、第4青峰寮は、令和7年度概算要求(令和6年度)に反映する。(1.1-(6)-①-1再掲)
- ①-3 吹付アスベストを保有する居室は、定期にアスベスト粉じん濃度の測定を実施する。(1.1-(6)-①-2再掲)
- ①-4 専攻科棟は大規模改修と合わせてEV設置の計画を進めており、令和6年度概算要求(令和5年度)をすることとしており、機械工学科棟・マルチメディア棟および青峰会館等の2階建ての建物は階段に昇降装置の設置によるバリアフリー化を検討する。(1.1-(6)-①-3再掲)
- ①-5 建屋各所で、特に安全衛生面で必要となる修繕・保守を行う。雨漏りしている建物の営繕要求を行い、環境改善を図る。(1.1-(6)-②-1再掲)
- ①-6 光熱水費の削減に向けて、教室等の経年劣化した照明をLED化および空調機の更新を実施する。(1.1-(6)-②-2再掲)
- ①-7 屋外環境改善のため、夜間暗く危険となっているところがあれば外灯を設置する。また、経年劣化した外灯を順次、LED化を進める。不審者の隠場となるような樹木は剪定・伐採により見通しを良くする。(1.1-(6)-②-3再掲)
- ②-1 安全衛生委員会で安全パトロールを定期的の実施し、要改善箇所の対策を講ずる。(1.1-(6)-④-1再掲)
- ②-2 教職員に対し、救急救命法講習会を実施する。(1.1-(6)-④-2再掲)
- ②-3 組換えDNA実験安全管理規則の運用を継続して行う。(1.1-(6)-④-3再掲)
- ②-4 全学科において実験実習科目の実施時の安全教育に「実験実習安全必携」を活用する。(1.1-(6)-④-4再掲)
- ②-5 排水管理WGを中心に学生のみならず、教職員に対しても実験用薬液等の管理方法・教育を徹底させる。(1.1-(6)-④-5再掲)
- ②-6 全レベルに対応したバイオハザード指針に沿って整備した「研究微生物安全管理規則」の運用を引き続き進める。(1.1-(6)-④-6再掲)
- ②-7 化学薬品の適切な管理のため、「化学物質管理責任者」及び「保護具着用管理責任者」の設置やリスクアセスメントの実施法などについて検討する。(1.1-(6)-④-7再掲)
- ③-1 各棟の空室となった教員室や実験室の調査を行い、産学官協働研究室等の学内方針に従い、施設の有効利用を図る。(1.1-(6)-③-1再掲)
- ③-2 利用率等については、継続的にその向上に向けた検討を実施するとともに、令和5年度の調査に基づき稼働率の低い居室について順次改善を進め、施設の有効利用に繋げる。(1.1-(6)-③-2再掲)

7.2 人事に関する計画

(1) 方針

- ①-1 管理運営に関する各種委員会の再編による効率的運用や事務組織との緊密な連携により、教員の教育研究に対する質の向上に努める。

- ①-2 各クラブ活動において、教員の業務負担軽減のため、および学生への実技指導や引率等のために学外指導者を採用し、その活動を支援する。また、平日の17時以降は教員の輪番による、休日は課外活動支援員による緊急時対応を行い、学生の安全を確保しつつ勤務時間外に多数の教員が関与することを防ぐ。
 - ② 事務職員等の採用・人事交流にあたっては、近隣の国立大学法人等との計画的な交流を実施することで多様性のある人材の確保に努める。
 - ③ 若手教員の人員確保および教育力強化のために、教員人員枠管理の弾力化を行う。
 - ④-1 本校以外の教育機関、研究機関、企業等で勤務経験がある等、多様な背景を持つ人材の採用に努める。(1.1-(3)-②-1 再掲)
 - ④-2 専門科目については博士の学位等の高度な資格をもつ者、理系以外の一般科目については修士以上の学位をもつ者あるいは高度な実務能力をもつ者等、優れた教育研究力を有する者の採用に努める。また、採用については教員の年齢構成にも配慮する。(1.1-(3)-①-2 再掲)
 - ④-3 高専機構として実施する新任、中堅、管理職対象の研修や情報系の研修会に積極的に参加する。
 - ④-4 高専機構のみならず、三重県等の外部機関が主催するシンポジウムや講演会等に参加し、教職員の意識向上を図る。(1.1-(3)-⑥-4 再掲)
 - ④-5 事務職員および技術職員の能力向上を図るため、地方自治体、民間等外部団体主催の研修に積極的に参加する。
 - ④-6 女性教職員による交流会を開催し、支援する。
 - ④-7 女性教職員の就業環境改善のための懇談会を開催する。(1.1-(3)-③-1 再掲)
 - ⑤-1 高専機構制定の「高専間職員交流制度実施要項」に基づき、他高専との人事交流を実施する。
 - ⑤-2 第3ブロック内で人事交流の連携強化に努める。また、再雇用制度を有効活用するため、定年退職者を再雇用教員として受入れる。
 - (2) 人員に関する指標
- ※独立行政法人国立高等専門学校機構に属する全高専に係る事項により、本校では年度計画として定めない。

7.3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて

- ①-1 学内ネットワークの円滑かつ安全な利用を目的とした学生・教職員向けの講習会（セキュリティー講習会等）を継続する。
- ①-2 学生向けのネットワークセキュリティ講習会、或いは教職員向けの講習会を実施する。なお、情報インシデントへの対応については、運営会議および教職員会議での注意喚起のほか機会あるごとに情報提供等を行う。
- ①-3 情報セキュリティ管理委員会等と連携し、学内ネットワークサービスの安全な運用を図る。

7.4 内部統制の充実・強化

- ①-1 本校の運営規則に基づき、校長は各種委員会におけるその活動状況について担当委員長から活動実績を報告させ、効果的な学校運営を行う。
- ①-2 第3ブロックの校長会議、事務部長会議等を通じて、様々な連携・情報交換を行う。
- ② 教職員会議等で意識啓発を行うほか、コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。
- ③-1 本校独自の評価基準に基づく、自己点検評価および第三者評価に対応する「自己点検評価一覧」を活用し、点検評価・改善を継続的に実施する。
- ③-2 点検評価活動に資するため、各種会議等の議事録について、学内ウェブページへの掲載を継続する。
- ③-3 高専機構の方針に従い、他高専との相互間監査を通じて、監査の強化を図る。
- ④ 本校の内部監査と特別監査を継続実施し、公的研究費等に関する不正使用等の防止に努める。
- ⑤ 年度計画の策定にあたっては、本校の特性に応じ具体的な目標を設定し、定期的な見直しを実施する。

独立行政法人 国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校 材料工学科 教員公募

1. 職名及び人員

講師または助教 1名

2. 所属学科

材料工学科

3. 専門分野

有機材料及びその合成を専門分野とする方

4. 担当科目

有機化学, 有機反応化学, 有機材料, 有機機能材料, 有機工業化学, 高分子科学, 高分子物性などから複数科目を担当

ものづくり実習, 材料工学序論(分担), 材料工学実験(有機合成のテーマ), 創造工学(分担)を担当

卒業研究Ⅰ(本科4年生), 卒業研究Ⅱ(本科5年生), 特別研究Ⅰ(専攻科1年生), 特別研究Ⅱ(専攻科2年生)は, 学生配属後から担当

5. 応募資格

- (1) 博士の学位を有する方 (採用までに学位取得見込みを含む)
- (2) 高等専門学校における学生の教育 (学級担任, クラブ顧問, 学寮での学生指導を含む) 及び研究に熱意があり, 健康な方
- (3) 本校の教育理念に基づき, 運営等に協調して参画できる方

6. 採用予定年月日

2025年4月1日

7. 提出書類

- (1) 履歴書 (様式1)
- (2) 教育の指導歴等 (様式2)
- (3) 研究歴 (様式3)
- (4) 著書・論文等一覧 (様式4)
- (5) 主要論文の要約 (各200字程度, 3編以内, 様式自由)
- (6) 主要論文の別刷り各1部 (3編以内, コピー可)
- (7) 教育・研究に対する抱負等 (様式5)
- (8) 応募者について所見を伺える方2名の氏名・連絡先 (氏名, 所属, 住所, 電話番号, E-mail アドレス) を明記した書類
- (9) その他参考となる資料 (任意)

8. 応募期限

2024年8月30日 (金) 17時必着

9. 選考方法

- (1) 書類審査
- (2) 面接及び模擬授業(書類審査合格者)

※ 面接等に関わる旅費等は応募者負担とします。

10. 応募書類提出先

〒510 0294 鈴鹿市白子町

鈴鹿工業高等専門学校総務課人事給与係 Tel 059-368-1712

※ 封筒表面に「材料工学科教員応募書類在中」と朱書きし簡易書留で郵送すること。原則として応募書類は返却いたしません。
なお、応募者の個人情報は鈴鹿工業高等専門学校の教員を採用する目的のために利用するものであり、第三者に提供または公表することはありません。

11. 問い合わせ先

鈴鹿工業高等専門学校 材料工学科長 ■■■■■

Tel ■■■■■ E mail ■■■■■

12. その他

- (1) 本校では採用に際して男女共同参画に配慮していますので、女性の積極的な応募を期待します。業績(教育業績, 研究業績, 社会的貢献, 人物を含む)の評価において同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。
- (2) 応募に必要な各様式については、鈴鹿工業高等専門学校ホームページ(<https://www.suzuka-ct.ac.jp>)の「教職員採用情報」からダウンロードして利用してください。
- (3) 応募に際し、見学を希望される場合には上記問い合わせ先までご連絡ください。
- (4) 業務上の必要があるときは、他の国立高等専門学校等へ異動することがあります。

令和 年 月 日

鈴鹿工業高等専門学校長 殿

(申請者)

学 科 等 名

学科長 氏 名

印

教 員 の 昇 任 に つ い て (申 請)

下記の者の昇任について、関係書類を添えて申請します。

記

1. 学科等名

学科

教養教育科 (科目名 :)

2. 職 名 (現在の職名)

3. 添付書類

- (1) 履歴書 (様式1)
- (2) 教育の指導歴等 (様式2)
- (3) 研究歴 (様式3)
- (4) 著書・論文等一覧 (様式4)
- (5) 教育・研究に対する抱負等 (様式5)
- (6) 推薦書
- (7) その他参考資料

(様式1)

履 歴 書

ふりがな 氏 名		(写真を貼付)
生年月日	昭和 年 月 日生 (歳)	
学 歴 (高等学校以降)		
年 月 日	事 項	
学位取得年月日・学位名		
平成 年 月	例：博士（工学）三重大学	
職 歴		
年 月 日	事 項	
学会及び社会における活動（社会貢献）等		
年 月 日	事 項	
賞 罰		
年 月 日	事 項	
上記のとおり相違ありません。 令和 年 月 日 氏 名 印		

(様式2)

教 育 の 指 導 歴 等

氏 名		
専門分野		
現 在 の 担当科目		
担当可能 な科目名		
過 去 に 担当した 科 目 名		
教 育 の 指 導 歴		
期 間	教育機関、授業科目名、対象等	
教 育 に 関 す る 発 表 及 び 論 文		
演 題 名 (発表者名及び共同発表者名)	学会等名	発表年月

(様式 3)

研 究 歴

氏 名	
研 究 内 容 及 び 研 究 機 関	

(様式4)

著 書 ・ 論 文 等 一 覧

氏 名			
著 書 一 覧			
著 書 (著者名及び共著者名)		発 行 所 名	発 行 年
特 許 等 リ ス ト			
論 文 一 覧			
学位論文 (論文名及び概要)			
一 般 論 文			
論 文 題 名 (著者名及び共著者名)		発 行 誌 名	発 行 年

(備考) 主要論文の別刷又は写を添付すること。

(様式5)

教 育 ・ 研 究 に 対 す る 抱 負 等

氏 名	
教 育 に 対 す る 抱 負	
研 究 に 対 す る 抱 負	
そ の 他	

令和 年 月 日

鈴鹿工業高等専門学校長 殿

(応募者)

住 所

氏 名

印

専 任 教 員 へ の 応 募 に つ い て

下記学科等への採用を希望しますので、関係書類を添えて応募します。

記

1. 希望学科

2. 希望職位

3. 赴任希望月日

4. 添付書類

- (1) 履歴書 (様式1)
- (2) 教育の指導歴等 (様式2)
- (3) 研究歴 (様式3)
- (4) 著書・論文等一覧 (様式4)
- (5) 主要論文の要約
- (6) 主要論文の別刷り
- (7) 教育・研究に対する抱負等 (様式5)
- (8) 推薦者の氏名・連絡先
- (9) その他参考資料

5. 連絡先

郵便番号：

住 所：

電話番号：

E - m a i l：

(様式1)

履 歴 書

ふりがな 氏 名		(写真を貼付)
性 別	男 ・ 女	
生年月日	年 月 日生 (歳)	
本 籍 地	都・道・府・県	
現 住 所		
勤務先等		
学 歴 (高等学校以降)		
年 月 日	事 項	
学位取得年月 年 月	学位名 (例: 博士 (工学) ○○大学)	
職 歴		
年 月 日	事 項	
学会及び社会における活動 (社会貢献) 等		
年 月 日	事 項	
賞 罰		
年 月 日	事 項	
上記のとおり相違ありません。 令和 年 月 日 氏 名 印		

(様式2)

教 育 の 指 導 歴 等

氏 名		
専門分野		
現 在 の 担当科目		
担当可能 な科目名		
過 去 に 担当した 科 目 名		
教 育 の 指 導 歴		
期 間	教育機関、授業科目名、対象等	
教 育 に 関 す る 発 表 及 び 論 文		
演 題 名 (発表者名及び共同発表者名)	学会等名	発表年月

(様式 3)

研 究 歴	
氏 名	研 究 内 容 及 び 研 究 機 関

(様式4)

著 書 ・ 論 文 等 一 覧

氏 名			
著 書 一 覧			
著 書 (著者名及び共著者名)		発 行 所 名	発 行 年
特 許 等 リ ス ト			
論 文 一 覧			
学位論文 (論文名及び概要)			
一 般 論 文			
論 文 題 名 (著者名及び共著者名)		発 行 誌 名	発 行 年

(備考) 主要論文の別刷又は写を添付すること。

(様式5)

教 育 ・ 研 究 に 対 す る 抱 負 等

氏 名	
教 育 に 対 す る 抱 負	
研 究 に 対 す る 抱 負	
そ の 他	

独立行政法人 国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校 教養教育科(化学) 教員公募

1. 職名及び人員 准教授, 講師, 助教のいずれか1名
2. 所属学科 教養教育科
3. 専門分野 化学
4. 担当科目 化学及び化学実験(高校に準じる化学及び大学教養レベルの化学)
5. 応募資格
 - (1) 修士の学位を有する方(博士の学位を有することが望ましい)
 - (2) 本科における化学の講義及び化学実験の担当が可能で、大学への編入試験対策の指導ができる方。また、自身の研究活動を教育に還元し、ICTを利用した教育にも意欲的である方。
 - (3) 心身ともに健康で、クラス担任等、高等専門学校における低学年からの学生の教育(クラブ指導、学生寮の学生指導を含む)に理解と熱意を持っている方
 - (4) 学生及びその保護者と良好なコミュニケーションがとれる方
 - (5) 本校の教育理念に基づき、運営等に協調して参画できる方
6. 採用予定年月日 2025年4月1日
7. 提出書類
 - (1) 履歴書(様式1)
 - (2) 教育の指導歴等(様式2)
 - (3) 研究歴(様式3)
 - (4) 著書・論文等一覧(様式4)
 - (5) 主要論文の要約(各200字程度、3編以内、様式自由)
 - (6) 主要論文の別刷り各1部(3編以内、コピー可)
 - (7) 教育・研究に対する抱負等(様式5)
 - (8) 応募者について所見を伺える方2名の氏名・連絡先(氏名、所属、住所、電話番号、E-mailアドレス)を明記した書類
 - (9) その他参考となる資料(例: 自主編纂の教科書、問題集、e-learning教材など)
8. 応募期限 2024年10月31日(木) 17時必着
9. 選考方法
 - (1) 書類審査
 - (2) 面接及び模擬授業(書類審査合格者)※ 面接等に関わる旅費等は応募者負担とします。
10. 応募書類提出先 〒510-0294 鈴鹿市白子町
鈴鹿工業高等専門学校総務課人事給与係 Tel 059-368-1712
※ 封筒表面に「教養教育科教員応募書類在中」と朱書きし簡易書留で郵送すること。
原則として応募書類は返却いたしません。なお、応募者の個人情報、鈴鹿工業高等専門学校の教員を採用する目的だけに利用するものであり、第三者に提供または公表することはありません。

11. 問い合わせ先 鈴鹿工業高等専門学校 教養教育科 教授 [REDACTED]
Tel [REDACTED] E-mail [REDACTED]
12. そ の 他
- (1) 本校では採用に際して男女共同参画に配慮した採用選考を行います。業績（教育業績，研究業績，社会的貢献，人物を含む）の評価において同等と認められる場合には，女性を優先的に採用します。
 - (2) 応募に必要な各様式については，鈴鹿工業高等専門学校ホームページ（<https://www.suzuka-ct.ac.jp>）の「教職員採用情報」からダウンロードして利用してください。
 - (3) 業務上の必要があるときは，他の国立高等専門学校等へ異動することがあります。

○鈴鹿工業高等専門学校教員評価実施要項

令和7年4月15日 校長 裁定

鈴鹿工業高等専門学校教員評価実施要項

(趣旨)

第1条 この要項は、鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の教育、研究、社会貢献及び学校運営等の業績を適正に評価するとともに、業績評価の結果を給与等に反映することにより、職務遂行に対する意欲を高め、教育研究その他の活動の活性化及び質の向上を図ることを目的として実施する教員評価に関し、必要な事項を定める。

(評価の対象)

第2条 評価の対象となる教員は、本校に常時勤務する教員のうち、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員給与規則の適用を受ける教授、准教授、講師、助教（以下「対象教員」という。）とする。ただし、特別な事情がある場合は、校長が別に定めるところにより、対象教員の範囲を変更することができる。

(評価の実施)

第3条 評価は、毎年10月における教育・研究活動報告書をもって実施する。

2 評価の対象となる期間（以下「評価期間」という。）は、評価実施年度開始の日の5年前の日から評価実施年度の前年度の末日までの在職期間とする。ただし、評価期間における在職期間が6月に達しない者にあつては、対象教員となった日から在職期間が6月を経過した日の属する年度の末日までの期間とする。

(評価の基準)

第4条 教員評価は、諸活動の実績、取組状況等をもって、対象教員個人の活動状況を評価するものとする。

(評価項目分類)

第5条 評価は、原則として次の各号に掲げる項目分類により実施する。

- 一 教育活動
- 二 研究活動
- 三 地域貢献・国際貢献
- 四 校務・課外活動
- 五 資格の取得
- 六 その他

2 前項にかかわらず、校長は、対象教員の職務内容に応じて、前項に代わる評価項目分類を定め、又は前項各号に定めるもののほか必要と認める評価項目分類を加えて教員評価を実施することができる。

(評価結果の運用)

第6条 対象教員は、評価結果を自己の教育研究その他の活動の活性化及び質の向上のために活用する。

2 校長は、評価結果を次に掲げる事項の運用に反映させることができる。

- 一 昇任
- 二 特別昇給
- 三 勤勉手当の成績率
- 四 教員顕彰の推薦

五 その他校長が特に必要と認めたこと

(面談等)

第7条 校長は、必要に応じて、対象教員に資料の提出を求め、面談等を実施することができる。

(評価結果の公表)

第8条 教員評価の結果については、個人情報として取り扱い、原則として公表しない。

(その他)

第9条 この要項に定めるもののほか、教員評価に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、令和7年4月15日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

令和6年10月9日

教員各位

(有期雇用教員及び再雇用教員を除く。)

校長

教育・研究活動報告書の提出について(依頼)

各教員の教育・研究活動等を把握し、今後の学校運営及び教育の改善、教員評価等に反映するとともに、高専機構の教員顕彰の候補者選定の参考にもすることを目的に、今年も標記報告書を作成願います。

できるだけ皆さんの労力を軽減するために、以下の(1)～(5)に留意し、昨年提出して頂いた報告書に追加・修正して頂くようお願い致します。

(1) 昨年度提出された報告書のファイル：以下に保存されています。

¥¥aspen¥group¥share¥提出用¥人事給与係¥教育・研究活動報告書(R5年度)

(2) ✕切：10月21日(月)までにご提出下さい。

(3) 提出先：追加・修正したファイルを下記提出先フォルダに保存して下さい。

¥¥aspen¥group¥share¥提出用¥人事給与係¥教育・研究活動報告書(R6年度)

(4) 追加、修正の留意点

- ・ 追加・修正箇所が分かるように朱書き等で記載して下さい。
- ・ 自由記載は直近5年間(平成31年度～令和5年度)の実績を中心に記載してください(それ以前の実績も含めて結構です)。記載事項はご自身のPDCAに活用して頂くと共に、高専機構の教員顕彰や本校の表彰制度の参考資料にしますので、積極的にアピールをお願いします。枠は必要に応じて伸縮してください。
- ・ オフィスアワーズ・補講・課題(レポート)採点の数値は昨年度(令和5年度)の実績を記載してください。
- ・ 論文等業績は、Research Mapから情報を把握しますので、この報告書とは別に、そちらの内容の更新をお願いします。

* **お願い**：昨年度、報告書の冒頭の [] 部分(下記の [] の内容)の削除をお願いしましたが、まだ削除いただけていない場合は、恐れ入りますが今回削除いただきますようお願いいたします。(古い内容のため削除したいのですが、人事給与係が当該報告書を編集すると、編集権限が変わり、各教員が編集できなくなるため、**教員各自で削除**をお願いいたします。)

削除して下さい

- * 自由記載について、直近5年間(平成29年度～令和3年度)の成果を中心に、これまでの実績を記載してください(それ以前の実績も含めて結構です)。
- * 数値記載の箇所は、昨年度(令和3年度)の実績について記載してください。
- * 記載事項はご自身のPDCAに活用して頂くと共に、高専機構の教員顕彰や本校の表彰制度の参考資料にしますので、積極的にアピールをお願いします。
- * 本報告書の内容は、毎年、追記修正して頂く予定です。
- * 枠は、必要に応じて、伸縮してください。
- * 論文等業績に関しては、Research Mapから情報を把握しますので内容の更新をお願いします。

教育・研究活動報告書

所属学科 ・ 氏 名

① 教育活動

授業担当時間数等に関しては、事務にて情報収集します。

(1) オフィスアワーズ・補講・課題（レポート）採点

昨年度の学生対応時間のトータル

←以下から該当する番号を選んでください

①50時間以上，②40時間－50時間，③30時間－40時間

④20時間－30時間，⑤10時間－20時間，⑥10時間未満

(2) 授業について、授業担当・教材開発・教育方法・FD活動等の教育活動全般について、工夫した点・努力した点・効果が上がった点・他教員に波及した点を記載してください。（自由記載）

(3) 学生指導について、クラス担任・クラブ活動指導・学生寮での指導・メンタルヘルスへの取り組み等の学生生活指導全般について、工夫した点・努力した点・効果が上がった点・他教員に波及した点を記載してください。（自由記載）

② 研究活動

論文数、研究助成件数等に関しては、事務にて情報収集します。

- (1) 研究や専門性を通じ、また産学官民連携等により、技術開発・地域産業の育成・国際的技術者養成等に貢献した点などを記載してください。（自由記載）

③ 地域貢献・国際貢献

共同研究件数、技術相談件数等に関しては、事務にて情報収集します。

- (1) 共同研究・受託研究等について（自由記載）

- (2) 出前授業等について（自由記載）

- (3) その他の社会貢献・国際貢献について（自由記載）

④ 校務・課外活動

役職・委員・クラブ担当等に関しては、事務にて情報収集します。

- (1) 管理運営に、主事・主事補・校長補佐・学科長等の様々な校務であげた業績を記載してください。（自由記載）

--

⑤ 資格等の取得

現在保持している資格等全てを書いてください。

(1) 職務に関する国家資格（技術士、教員免許等）取得

国家資格名	取得年月日

(2) その他の資格（英検、漢検、TOEIC、TOEFL等）取得

資格・点数等	取得年月日

(3) 賞・顕彰等の受賞

賞名・顕彰等名	受賞年月日

⑥ その他

業務について、抱負、困っていること等があれば記載してください。

--

○鈴鹿工業高等専門学校教職員表彰の取扱いについて

〔 令和 3 年 1 2 月 2 5 日 〕
校 長 裁 定

鈴鹿工業高等専門学校教職員表彰の取扱いについて

1 趣旨

独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則（規則第 2 9 号）第 6 条に定める表彰に関し、本校における取扱いを定める。

2 表彰を受ける者

表彰は、本校に勤務する教職員（非常勤の教職員も含む。）のうち、特に顕著な功績のあった者で、他の教職員の模範と認められる者について行うことができるものとする。

3 被表彰者の選考

- (1) 副校長、主事、専攻科長、学科長、事務部長、課長、技術長は、別紙様式により、表彰候補者を校長に推薦するものとする。
- (2) 被表彰者の選考は、運営会議の議を経て、校長がこれを決定する。

4 表彰の方法等

- (1) 表彰は、表彰状を授与することにより行う。
- (2) 表彰は、毎年 1 回、教職員会議において行うものとする。

5 事務

表彰に関する事務は、総務課において処理する。

6 その他

この取扱いは、令和 3 年 1 2 月 1 5 日から施行する。

(別紙様式)

令和 年 月 日

鈴鹿工業高等専門学校長 殿

(推薦者氏名)

鈴鹿工業高等専門学校教職員被表彰者の推薦について

標記のことについて、下記の者を候補者として推薦します。

記

氏 名	
所属及び職名	
功績等の概要	
推 薦 理 由	
備 考	

鈴鹿工業高等専門学校教職員被表彰者の推薦について

(別紙様式)

令和 6 年 12 月 20 日

鈴鹿工業高等専門学校長 殿

(推薦者氏名)

鈴鹿工業高等専門学校教職員被表彰者の推薦について

標記のことについて、下記の者を候補者として推薦します。

記

氏 名	
所属及び職名	教養教育科 教授
功績等の概要	候補者は長年にわたり本校学生の主体的な学びを推進するために様々な教育活動に取り組み学生の意識醸成に努めている。
推 薦 理 由	候補者は学内だけでなく他高専等との共同事業にも積極的に参加し、本校の教育活動の発展に貢献している。主な実績を下記に示す。 ●H26 年～H28 年：大学間連携共同教育推進事業『分野別到達目標におけるラーニングアウトカム』では(1)CBT 数学作問リーダー、(2)数学 AL 実践研究会代表、H30 年度全国高専フォーラム OS におけるオーガナイザーを務める。 ●H25 年～H30 年：鈴鹿高専の高度化再編では、(1)高度化再編計画の立案関係（主に一般科目のあり方）及び教務関係の WG リーダーを兼務し、(2)「学科横断型実験科目・PBL 科目の立案・運営」に尽力した。 ●R2 年：コロナ禍における次世代教育推進室では、ICT を活用した遠隔授業の推進を中心的担当者として積極的に実施した。 ●R3 年～現在：学修支援室（現在、学習サポート）の企画・運営においてまとめ役等中心的役割を担っている。 ●R3 年～現在：高専機構教育連携推進メンバーとして 4 年間活躍、高専機構全体の新任研修、中堅教員研修、KOSEN FES、KOSEN

	FAIR の企画・運営に参画している。 ●R3 年 9 月～現在：GEAR5.0 マテリアル KEA として研究活動を通して得られる学生の教育効果の可視化に関する分析等を実施している。また、R4 年度全国高専フォーラム OS においてはオーガナイザーを務めた。 ●R4 年 4 月～R5 年 3 月：「理工系人材の早期発掘とダイバーシティ型 STEAM 教育支援強化」事業では、副担当を務めている。 ●R6 年 4 月～現在：STEAM 教育支援部会長を務め、「高専生と共につくる！理工系人材の早期発掘のための STEAM 教育プログラムの構築」事業では、第 3 ブロックの拠点校としてリードしている。 ●R5 年 4 月～現在：教務副主事を務め、一般科目と専門科目の効果的な接続のために尽力している。
備 考	

(別紙様式)

令和 6 年 12 月 24 日

鈴鹿工業高等専門学校長 殿

(推薦者氏名)

鈴鹿工業高等専門学校教職員被表彰者の推薦について

標記のことについて、下記の者を候補者として推薦します。

記

氏 名	
所属及び職名	電子情報工学科 講師
功績等の概要	寮務副主事としての勤務実績
推 薦 理 由	寮務主事補として4年目になり、本年度より副主事を担ってもらっている。副主事就任後も自主的に毎日昼休みに寮事務所に待機して、寮母さんや事務担当職員と寮の問題解決にあたってもらっている。 開・閉寮時にも21時過ぎまで残って寮内のチェックを行い、寮生全体に注意喚起しながら円滑に寮生活が進むようにサポートしている。また男子低学年寮においては、各委員会を復活させる等、新型コロナ前のような寮生による自主的な運営に徐々に戻していくような指導を根気よく行っている。 こういった地味な活動が寮内で起こる問題が大きくなるように防いでいる要因に繋がっている。寮務副主事として、円滑な学寮運営のために陰の力となり尽力していることから、ここに推薦します。
備 考	

令和6年度 第10回 運営会議議事録

日 時 令和7年2月5日(水) 15時00分～17時00分

場 所 会議室B

出席者 ■■■校長、■■■■副校長、■■■教務主事、■■■学生主事、■■■寮務主事、■■■研究主事、■■■専攻科長、■■■機械工学科長、■■■電気電子工学科長、■■■電子情報工学科長、■■■生物応用化学科長、■■■材料工学科長、■■■教養教育科長、■■■事務部長、■■■■総務課長、■■■学生課長

欠席者 なし

◎議 事

【校長からの報告事項】

1. 諸会議等の報告等

(1) 諸会議等報告について

- ・令和6年度第3回第三ブロック校長会議について
校長より、資料1に基づき、令和6年度第3回第三ブロック校長会議について報告があった。
・資料1「令和6年度第3回 第三ブロック校長会議【重点事項】」
- ・令和6年度第3回校長・事務部長会議について
校長より、資料2に基づき、令和6年度第3回校長・事務部長会議について報告があった。グローバル・アントレプレナーシップ プログラムについて、来年度も鈴鹿高専で実施することとなったため協力願いたいとの発言があった。
・資料2「令和6年度第3回高専機構校長・事務部長会議【重点事項】」

【審議事項】

2. 令和7年度組織表（校務分担）について

副校長より、資料3に基づき、令和7年度組織表（校務分担）について説明があり、了承された。意見等がある方は副校長又は総務課にお伝え願いたいとの依頼があった。

- ・資料3「令和7年度組織表（校務分担）」

3. 自己点検評価関係規則の制定及び廃止について

副校長より資料4に基づき、鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会規則の制定、並びに鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会実施要項及び鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価基準の廃止について説明があり、その制定及び廃止について了承された。また、来年度の認証評価について協力願いたいとの依頼があった。

- ・資料4「鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会規則の制定について」

4. 鈴鹿工業高等専門学校学生表彰規則の一部改正について

教務主事より資料5に基づき、鈴鹿工業高等専門学校学生表彰規則の一部改正について説明があり、その改正について了承された。

- ・資料5 「「鈴鹿工業高等専門学校学生表彰規則」の一部改正について」
- 5. 学則第29条に規定する『文部科学大臣が別に定める学修』による単位認定等に関する規則の一部改正について

教務主事より資料6に基づき、学則第29条に規定する『文部科学大臣が別に定める学修』による単位認定等に関する規則の一部改正について説明があり、その改正について了承された。

 - ・資料6 「「学則第29条に規定する『文部科学大臣が別に定める学修』による単位認定等に関する規則」の一部改正について」
- 6. 鈴鹿工業高等専門学校学則の一部改正について

教務主事より資料7に基づき、鈴鹿工業高等専門学校学則の一部改正について説明があり、その改正について了承された。令和5, 6年度の教育課程表については当初選択科目とする予定であった科目が教育課程表に起こす際に転記ミスで必修科目となっているための修正であることが説明された。

 - ・資料7 「鈴鹿工業高等専門学校学則の一部改正について」
- 7. 運営規則の一部改正について

総務課長より資料8に基づき、運営規則の一部改正について説明があった。教務主事より教職員会議について、12月も加えた年6回とする提案があり、4月と12月を加えた年6回とすることで改正が了承された。

 - ・資料8 「鈴鹿工業高等専門学校運営規則の一部改正について」
- 8. 諸規則の一部改正について

総務課長より資料9に基づき、諸規則の一部改正について説明があり、その改正について了承された。

 - ・資料9 「諸規則の一部改正について」
- 9. 令和7年度行事予定について

教務主事及び総務課長より資料10に基づき、令和7年行事予定について説明があり了承された。■■■■電気電子工学科長より3月の学内企業説明会の本科と専攻科の日程が異なっていることについて指摘があり、確認の上必要な場合は修正を行うこととなった。（※確認の結果、本科の日程が正しいと判明し、専攻科の日程を修正した。）ロボコンの日程については実行委員会より外部への解禁は新年度以降とするよう通知されているため学内のみの取扱いとされたこととの依頼があった。

 - ・資料10 「令和7年度行事予定」
- 10. 名誉教授称号の授与について

総務課長より資料11及び机上配布資料に基づき、名誉教授称号の授与について説明があり、その称号付与について了承された。

 - ・資料11 「鈴鹿工業高等専門学校名誉教授の称号授与について」
- 11. 鈴鹿工業高等専門学校教職員被表彰者の推薦について

総務課長及び推薦者である副校長、寮務主事より資料12に基づき、鈴鹿工業高等専門学校教職員被表彰者の推薦について説明があり、2名を被表彰者とすることで了承された。

 - ・資料12 「鈴鹿工業高等専門学校教職員被表彰者の推薦について」
- 12. 非常勤講師の採用について

総務課長より資料13に基づき、非常勤講師の採用について説明があり、その採用について了承された。校長より、教務委員会で審議を行っていることから説明者は教務主事が適切でないかとの指摘があり、次回から教務主事より説明することとなった。

・資料 13「非常勤講師の資格審査資料」

1 3. 令和 6 年度自己点検評価報告書について

総務課長より資料 14 に基づき、令和 6 年度自己点検評価報告書について説明があり、その報告書案について了承された。専攻科長より達成度 B とされているバリアフリー化の計画について、自己評価と課題で専攻科棟のエレベーターの設置状況についても言及する方が良いのではないかとの意見があり、追加で記載することとなった。

・資料 14「令和 6 年度自己点検評価報告書」

【報告事項】

1 4. 主事等からの報告

(1) 教務主事関係

資料 15 に基づき、教務主事より以下 6 点について報告があった。

1. 成績順位の付け方に関する取扱いについての一部改正について
2. 次年度のフィンランドからの留学生減員について
3. 令和 6 年度 F D 講演会について
4. 専攻科推薦選抜不合格者の学力選抜の検定料免除について
5. 令和 8 年度入学者選抜関係日程について
6. 事務部への生成 A I 試験導入について

・資料 15「教務主事報告事項」

(2) 学生主事関係

学生主事より資料 16 に基づき制服アンケート調査実施のスケジュールについて報告があった。

・資料 16「制服アンケート調査実施のスケジュール」

(3) 寮務主事関係

寮務主事より口頭で、以下 2 点について報告があった。

1. A 寮改修工事について

A 寮の改修工事が順調に進んでいることについて報告があった。一部予算が足りず整備ができない部分は次年度に対応する方針が示された。また、4 寮の改修の申請を行ったこと、及び来年度は 4 寮の改修に備え 2 寮を含めたすべての寮を使用することが報告された。

2. 近況報告

寮生のうち注意が必要な学生について情報共有があった。

(4) 研究主事関係

研究主事より資料 17 に基づき、講演会などの日程について報告があった。

・資料 17「研究主事報告」

1 5. 事務部からの報告

(1) 学生課長関係

学生課長より Teams 共有資料 1 に基づき、令和 6 年度進路状況（中間）について報告があった。

・Teams 共有資料 1「令和 6 年度進路状況表(R6. 2. 5)」

(2) 総務課長関係

総務課長より資料 19～21 に基づき、下記 4 点について報告があった。

1. 入学者選抜に係る個人情報の請求及び開示の取扱いについて

・資料 18「「鈴鹿工業高等専門学校における入学者選抜に係る個人情報の請求及び開示の取扱いについて」の一部改正について」

2. ティーチング・アシスタントに関する要項の制定について

図書館での TA 勤務については、4 年生もこれまで実績があるので
はないかとの意見があり、確認することとなった。（※確認の結果、
4 年生の実績は無いことが判明した。）教務主事より何年生から TA
となるかという基準を定めて、それに沿った規則にする
のが良いのではないかという意見があり、教務委員会で TA の学年制
限について議論することとなった。

・資料 19「鈴鹿工業高等専門学校ティーチング・アシスタントに関する要項」

3. 外部資金の受け入れ状況について

・資料 20「外部資金関係年度月別一覧ほか」

4. 令和 6 年 12 月分電気使用量について

・資料 21「令和 6 年度電気使用量（全体）（学校分）」

16. その他

(1) 教養教育科 ■■■ 嘱託教授の居室について

現在教養教育科 ■■■ 嘱託教授が使用している居室を新任教員が使用する
ことに伴い、■■■ 嘱託教授の居室を専攻科棟 4 階の 1 室とすることが報告
された。

◎次回の運営会議

次回の運営会議は、令和 7 年 3 月 6 日(木) 15 時 00 分から 17 時 00 分の間におい
て、会議室 B で開催します。

以 上

○ 鈴鹿工業高等専門学校部会等規則

平成 16 年 4 月 1 日
規 則 第 4 号
最終改正令和 7 年 6 月 4 日

鈴鹿工業高等専門学校部会等規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校運営規則（平成 16 年規則第 2 号。以下「規則」という。）第 2 条の 2、第 4 条第 1 項及び第 2 項、第 7 条第 1 項、第 8 条第 1 項及び第 9 条に基づき設置する部会、分科会、担当、運営協力会議、WG(以下「部会等」という。)に関し必要な事項を定める。

(設置する部会)

第 2 条 室及び委員会等(以下「室等という。」)の下に置く部会の名称、任務等は別表のとおりとする。

2 部会に部会長及び部会員を置き、部会長は当該部会の運営に必要な事項を掌理するとともに、連絡調整に当たり、部会員は当該部会の運営に必要な事務を処理する。

3 部会に、必要に応じ部会長の職務を助ける副部会長を置くことができる。

4 部会長、副部会長及び部会員は、校長が指名する。

(設置する分科会)

第 3 条 室等の下に置く分科会の名称、任務等は別表のとおりとする。

2 分科会に分科会長及び分科会員を置き、分科会長は当該分科会の運営に必要な事項を掌理するとともに、連絡調整に当たり、分科会員は当該分科会の運営に必要な事務を処理する。

3 分科会に、必要に応じ分科会長の職務を補助する副分科会長を置くことができる。

4 分科会長、副分科会長及び分科会員は、校長が指名する。

(設置する担当)

第 4 条 室等の下に置く担当の名称、任務等は別表のとおりとする。

2 担当に担当長及び担当員を置き、担当長は当該担当の運営に必要な事項を掌理するとともに、連絡調整に当たり、担当員は当該担当の運営に必要な事務を処理する。

3 担当に、必要に応じ担当長の職務を補助する副担当長を置くことができる。

4 担当長、副担当長及び担当員は、校長が指名する。

(設置する運営協力会議)

第 5 条 室等の下に置く運営協力会議の名称、任務等は別表のとおりとする。

2 運営協力会議に委員長及び委員を置き、委員長は当該委員の運営に必要な事項を掌理するとともに、連絡調整に当たり、委員は当該委員の運営に必要な事務を処理する。

3 運営協力会議に、必要に応じ委員長の職務を補助する副委員長を置くことができる。

4 委員長、副委員長及び委員は、校長が指名する。

(設置する WG)

第 6 条 室等の下に置く WG の名称、任務等は別表のとおりとする。

2 WG に長及び委員を置き、長は当該 WG の運営に必要な事項を掌理するとともに、連絡調整に当たり、委員は当該 WG の運営に必要な事務を処理する。

3 長及び委員は、校長が指名する。

(報告)

第7条 部会等において整理した事項は、その都度部会等を設置する室等の室等長に報告するとともに、当該年度末に整理した事項を取りまとめの上、部会等を設置する室等に報告するものとする。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年6月6日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年2月6日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月16日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月14日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和4年5月11日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年4月10日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 7 年 6 月 4 日から施行する。

別表

室・委員会等の名称	部会等の名称	任 務	組 織	部会等長	庶務担当
部会					
教務委員会	STEAM 教育支援部会	STEAM 教育支援に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
	スタートアップ教育推進部会	スタートアップ教育推進に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課 学生課
学生委員会	生活・通学指導部会	生活・通学指導に関すること。	(1) 学生主事補 (副主事) (2) 学生主事補 (3) 学年主任	学生主事補 (副主事)	学生課
	課外活動部会	課外活動に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
安全衛生委員会	化学物質管理部会	化学物質の管理に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課
分科会					
教務委員会	専攻科分科会	(1) 専攻科の運営に関すること。 (2) 専攻科における教育計画の立案に関すること。 (3) 専攻科の入学試験の実施、結果の分析、方法の改善検討に関すること (4) その他校長、委員長又は専攻科長が必要と認めた事項	(1) 専攻科長 (2) 専攻科長補佐 (3) 学生課長 (4) その他校長が必要と認めた者	専攻科長	学生課
担当					
広報室	入試広報担当	入試広報に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
	企画・広報担当	企画・広報に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課

	地域交流担当	地域交流に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課
	広報誌発行担当	広報誌発行担当に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課
キャンパス整備・マネジメント委員会	イノベーション交流プラザ運営担当	イノベーション交流プラザの運営に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課
	交通・駐車マネジメント担当	交通・駐車マネジメントに関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課 学生課
自己点検評価・改善委員会	教育改善フォローアップ担当	教育(教育システムを含む。)の改善に関すること。	(1)学科長及び教養教育科長 (2)その他校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
	PDCA 推進担当	PDCA 推進に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課
	点検評価担当	自己点検・評価、外部評価、認証評価に関すること。 (教育・研究・施設・管理運営等)	(1)各学科及び教養教育科から選出された者 (2)その他校長が指定する者	校長が指定する者	総務課
教務委員会	学生表彰選考担当	学生の表彰の選考に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
	FD 担当	FD・SD の実施に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課 学生課
	グローバルエンジニア育成推進担当	グローバルエンジニア育成推進に関すること	校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム担当	数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関すること	校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
	半導体人材育成推進担当	半導体人材育成推進に関すること	校長が指定する者	校長が指定する者	学生課
研究推進委員会	テクノプラザ連携担当	テクノプラザの連携に関すること。	(1)研究主事 (2)各学科から選出された者1名	研究主事	総務課

	知的財産教育 担当	知的財産教育に関すること。	(1)研究主事 (2)各学科から選 出された者1名 (3)学生課長 (4)その他校長が 必要と認めた者	研究主事	学生課
	実験安全・教 育担当	(1)組換え DNA 実験に関す ること (2)動物実験に関すること。 (3)病原性微生物等の管理に 関すること。 (4)その他法令等により必要 な手続きが定められてい る研究に関すること。 (5)学生等施設利用者の安全 の確保に関すること。 (6)学生等施設利用者の安全 衛生教育に関すること。 (7)施設及び設備の安全点検 に関すること。 (8)その他委員長が必要と認 めた事項	(1)研究主事 (2)各学科から選 出された者1名 (3)教育研究支援 センターから 選出された者1 名 (4)事務部長 (5)総務課長 (6)学生課長 (7)その他校長が 必要と認めた者	研究主事	総務課 学生課
	GEAR5.0 推 進・機器共有 推進担当	(1)GEAR5.0 の事業推進に関 する全般。 (2)機器共有に関すること。	校長が指定する 者	校長が指定 する者	総務課
ハラスメ ント防止 等対策委 員会	ハラスメント 相談担当	ハラスメント相談に関する こと。	(1)各学科及び教 養教育科から選 出された者	学生支援室 長	学生課
全国高専 共同利用 マテリア ル分析セ ンターマ ネジメン ト委員会	全国高専共同 利用マテリア ル分析センタ ー運営担当	全国高専共同利用マテリア ル分析センターの運営に関 すること。	(1)研究主事 (2)副研究主事 (3)研究主事補 (4)その他校長が 必要と認めた者	研究主事	総務課
会議					

学生支援室	学生支援室運営協力会議	学生支援室の運営に関すること。	(1)学生支援室長 (2)学生支援室副室長 (3)学生主事 (4)学生支援室相談員	学生支援室長	学生課
WG					
キャンパス整備・マネジメント委員会	排水管理 WG	排水管理に関すること。	校長が指定する者	校長が指定する者	総務課

○鈴鹿工業高等専門学校FD・SD実施要項

令和7年4月16日
校長 裁定

鈴鹿工業高等専門学校FD・SD実施要項

(設置)

第1条 鈴鹿工業高等専門学校に、教職員の質的向上（教育、研究、学校運営、社会貢献等の能力開発）を図るために組織的に取組む活動（ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を推進することを目的として、教務委員会にFD担当を置く。

(審議事項)

第2条 FD担当は、次に掲げる事項を審議するとともに、FD・SDを推進するための活動を行う。

- (1) FD・SD推進のための企画及び実施に関すること。
- (2) FD・SDに関する情報の収集及び提供に関すること。
- (3) その他FD・SDの推進に関すること。

(組織)

第3条 FD担当は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長が指名した者 若干名
 - (2) 総務課及び学生課の職員 若干名
 - (3) その他校長が必要と認めた者
- 2 前項第1号及び第3号に規定する者の任期は2年とし、再任を妨げない。
 - 3 前項の者に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(担当長及び副担当長)

第4条 FD担当に担当長と副担当長を置き、校長が指定する者をもって充てる。

- 2 担当長は、担当員を招集し、その議長となる。
- 3 担当長に事故があるときは、副担当長がその職務を代行する。

(構成員以外の者の出席)

第5条 担当長は、必要があると認めた場合は構成員以外の者を出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第6条 FD担当に関する事務は、学生課の協力のもと、総務課において処理する。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか、FD・SDの運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和7年4月16日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

指標	2-3(3) FD活動の状況
担当	運営会議/教務委員会 (FD部会)/学生委員会
作成者	教務主事/ [REDACTED]、FD部会長/ [REDACTED] 学生主事/ [REDACTED]
年度計画	① 三重県教育委員会と連携し、高等学校教員対象の研修会への教員派遣を検討する。((3)-(5)) ② 鈴鹿市教育委員会と連携し、鈴鹿市青少年健全育成連絡協議会、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学、高等学校合同指導会等に参加、活動することを通じて、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図る。((3)-(5)) ③ 引き続き、全教員対象のFD講演会を実施する。((3)-(5)) ④ 全国高専フォーラムに参加する。((3)-(5)) (継続) ① 授業アンケートの目的を整理し、実施形態について検討する。 ② 目標及び改善方針、改善結果の公開について検討する。 ③ 公開授業を計画し、実施する。 ④ FD講演会を計画し、実施する。 ⑤ 学外におけるFDに関するシンポジウム等への参加について検討する。 ⑥ アクティブラーニング推進について検討する。 [追加・修正事項]

中間報告	①三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。((3)-(5)) ②鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学、高等学校合同指導会等に参加、活動することを通じて、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っている。((3)-(5)) ③全教員を対象としたFD講演会の実施に向け、開催時期・講師の検討を行っている。((3)-(5)) ④全国高専フォーラム、および同期間に開催された第14回第3ブロックアクティブラーニング推進研究会に参加した。((3)-(5)) (継続) ①授業評価アンケートを全学年・全科目について完全電子化を行った。 ②年度初めに授業目標・改善方針を学内公開し、授業評価アンケートを受けての前期授業改善結果の学内公開を10月に行った。 ③前期公開授業を6月18日(月)～7月6日(金)に実施した。 ④FD講演会の開催に向けた計画を行っている。 ⑤第3ブロックアクティブラーニング推進研究会に参加し、他高専との意見交換・情報収集を行っている。	
自己評価 (中間)	中間報告時においてほぼ実施され、実績もある	自己評価 3
検討事項 (中間)		
実績	①三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。((3)-(5)) ②鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学、高等学校合同指導会等に参加、活動することを通じて、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図った。((3)-(5)) ③全教員を対象としたFD講演会を、2月26日(火)に名古屋大学大学院教育発達科学研究科の [REDACTED] 先生を招き実施した。((3)-(5)) ④全国高専フォーラム、および同期間に開催された第14回第3ブロックアクティブラーニング推進研究会に参加した。((3)-(5)) (継続) ①授業評価アンケートを全学年・全科目について完全電子化を行った。 ②年度初めに授業目標・改善方針を学内公開し、授業評価アンケートを受けての前期授業改善結果の学内公開を10月に行った。 ③前期公開授業を6月18日(月)～7月6日(金)に、後期公開授業を10月29日(月)～11月16日(金)に実施した。 ④全教員を対象としたFD講演会を、2月26日(火)に名古屋大学大学院教育発達科学研究科の [REDACTED] 先生を招き実施した。 ⑤第3ブロックアクティブラーニング推進研究会に参加し、他高専との意見交換・情報収集を行った。 ⑥本年度のアクティブラーニングの実施状況についてのアンケート調査を12月12日(水)～21日(金)に実施し、結果について平成28年度の調査結果と比較した。	
自己評価	年度計画が全て実施されている	自己評価 4
次年度の検討事項		

平成30～令和6年度FD活動の実績

指標	3-3(4) FD活動の状況
担当	運営会議/教務委員会(FD部会)/学生委員会
作成者	運営会議/ [] 教務委員会(FD部会)/ [] 学生委員会/ []
年度計画	3-3-⑩ 三重県教育委員会と連携し、高等学校教員対象の研修会への教員派遣を検討する。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学、高等学校合同指導会等に参加、活動することを通じて、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図る。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑫ 全教員対象のFD講演会を実施する。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 全国高専フォーラムに参加する。(1.1-(3)-⑥) [追加・修正事項]

中間報告	3-3-⑩ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促す予定である。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学、高等学校合同指導会等に参加、活動することを通じて、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑫ 全教員対象のFD講演会の実施に向け、開催時期及び講師の検討を行っている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 8/21(水)-8/22(木)で開催された全国高専フォーラムに参加し高専の将来像やAL(アクティブラーニング)関係等の情報を収集した。(1.1-(3)-⑥)
自己評価 (中間)	中間報告時においてほぼ実施され、実績もある 自己評価 B
検討事項 (中間)	該当なし
実績	3-3-⑩ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。また、12/10(火)に実施された中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会の講演会を本校で開催した。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図った。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑫ 12/5(木)に台湾国立成功大学の [] 先生をお呼びして、全教員対象のFD講演会を実施した。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 8/21(水)-8/22(木)に開催された全国高専フォーラムに参加した。(1.1-(3)-⑥)
自己評価	年度計画が全て実施されている 自己評価 A
次年度の 検討事項	該当なし

平成30～令和6年度FD活動の実績

指標	3-3(4) FD活動の状況
担当	運営会議/教務委員会(FD担当)/学生委員会
作成者	運営会議 ■■■■■/教務委員会 ■■■■■/FD担当長 ■■■■■/学生委員会委員長 ■■■■■
年度計画	3-3-⑩ 三重県教育委員会と連携し、高等学校教員対象の研修会への教員派遣を検討する。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学、高等学校合同指導会等に参加、活動することを通じて、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図る。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑫ 全教員対象のFD講演会を実施する。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 全国高専フォーラムに参加する。(1.1-(3)-⑥) [昨年度追加検討事項] 該当なし [追加・修正事項]

中間報告	3-3-⑩ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促す予定である。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学、高等学校合同指導会等に参加、活動することを通じて、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っていくこととしている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑫ 6月中旬に全教員対象の遠隔授業内容紹介に関するFD講演会を実施した。なお、昨年度に引き続き、講師を招いての講演会開催を検討中である。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 10月上旬に開催予定であった「KOSEN EXPO(仮称)」は、9月の機構本部役員会・企画委員会で中止が決定したが、3月上旬にオンラインで開催予定の「KOSEN フォーラム(仮称)」には参加し、高専の将来像やAL(アクティブラーニング)等の情報を収集することとしている。(1.1-(3)-⑥)	自己評価
自己評価(中間)	中間報告時においてほぼ実施されているが、実績が全般的に弱い	C
検討事項(中間)	該当なし	
実績	3-3-⑩ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。また、3月までに実施が予定されている中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会講演会に参加することとしている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図った。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑫ 6/17(水)に全教員対象の遠隔授業内容紹介に関するFD講演会を実施した。また、3月までに外部講師をお呼びして、全教員対象のFD講演会を実施することとしている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 3/3(水)-3/4(木)に開催されたKOSENフォーラムに参加した。(1.1-(3)-⑥)	自己評価
自己評価	年度計画がほぼ実施され、実績もある	B
次年度の検討事項	「3-3-⑩ 三重県教育委員会と連携し、高等学校教員対象の研修会への教員派遣を検討する。(1.1-(3)-⑥)」は、三重県教育委員会が主催する研修として基本WEB開催となっており実績も薄いこと、3-3-⑩に集約することができることから削除とする。	

平成30～令和6年度FD活動の実績

指標	3-3(4) FD活動の状況	
担当	運営会議/教務委員会(FD担当)/学生委員会	
作成者	運営会議 ■■■■■/FD担当長 ■■■■■/学生委員会委員長 ■■■■■	
年度計画	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学・高等学校合同指導会等に参加・活動することを通じて、学生生活の質および教員の指導力の向上を図る。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 全教員対象のFD講演会を実施する。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 高専機構のみならず、三重県等の外部機関が主催するシンポジウムや講演会等に参加し、教職員の意識向上を図る。(1.1-(3)-⑥) [昨年度追加検討事項] 「3-3-⑩ 三重県教育委員会と連携し、高等学校教員対象の研修会への教員派遣を検討する。(1.1-(3)-⑥)」は、三重県教育委員会が主催する研修として基本WEB開催となっており実績も薄いこと、3-3-⑬に集約することができることから削除とする。 [追加・修正事項]	
中間報告	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 2月中旬から3月上旬に外部講師を招いての全教員対象のFD講演会を実施する予定としている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。また、例年3月までに実施されている「中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会講演会」に参加する予定としている。(1.1-(3)-⑥)	
自己評価 (中間)	中間報告時においてほぼ実施されているが、実績が全般的に弱い	自己評価 C
検討事項 (中間)	該当なし	
実績	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図った。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 全教員対象のBYODに関するFD講演会を3月に実施した。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。また、9/21に実施された「中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会」に参加した。(1.1-(3)-⑥)	
自己評価	年度計画が全て実施されている	自己評価 A
次年度の 検討事項	該当なし	

平成30～令和6年度FD活動の実績

指標	3-3(4) FD活動の状況
担当	運営会議/教務委員会 (FD担当)/学生委員会
作成者	運営会議 ■■■■■ /FD担当長 ■■■■■ /学生委員会委員長 ■■■■■
年度計画	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会、中学・高等学校合同指導会等に参加・活動することを通じて、学生生活の質および教員の指導力の向上を図る。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 全教員対象のFD講演会を実施する。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 高専機構のみならず、三重県等の外部機関が主催するシンポジウムや講演会等に参加し、教職員の意識向上を図る。(1.1-(3)-⑥、8.2-(1)-④-5) [昨年度追加検討事項] 該当なし [追加・修正事項]

中間報告	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っている。(1.1-(3)-番外) 3-3-⑪ 2月中旬から3月上旬に外部講師を招いての全教員対象のFD講演会を実施する予定としている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。また、例年3月までに実施されている「中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会講演会」に参加する予定としている。(1.1-(3)-⑥)
自己評価 (中間)	自己評価 B
検討事項 (中間)	
実績	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っている。(1.1-(3)-番外) 3-3-⑪ 3 9に外部講師を招いて、全教員対象の著作権に関するFD講演会を実施した。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。(1.1-(3)-⑥)
自己評価	自己評価 年度計画が全て実施されている A
次年度の 検討事項	

平成30～令和6年度FD活動の実績

指標	3-3(4) FD活動の状況
担当	運営会議/教務委員会 (FD担当) / 学生委員会
作成者	FD担当長 [] / 学生委員会委員長 []
年度計画	3-3-⑩ 三重県教育委員会と連携した中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会や中学・高等学校合同指導会等に参加・活動することを通じて、学生生活の質および教員の指導力の向上を図る。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑪ 全教員対象のFD講演会を実施する。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 高専機構のみならず、三重県等の外部機関が主催するシンポジウムや講演会等に参加し、教職員の意識向上を図る。(1.1-(3)-⑥) [追加・修正事項]

中間報告	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っている。(1.1-(3)-番外) 3-3-⑪ 3月上旬に外部講師を招いての全教員対象のFD講演会を実施する予定としている。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。また、例年3月までに実施されている「中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会講演会」に参加する予定としている。(1.1-(3)-⑥)	
自己評価 (中間)	中間報告時においてほぼ実施され、実績もある	自己評価 B
検討事項 (中間)		
実績	3-3-⑩ 鈴鹿市教育委員会と連携し、中勢地区高等学校生徒指導連絡協議会へほぼ毎月教員を派遣し、中学・高等学校合同指導会にも参加・活動しており、学生生活の質及び教員の指導力の向上を図っている。(1.1-(3)-番外) 3-3-⑪ 3/13に外部講師を招いて、全教員対象の著作権に関するFD講演会を実施した。(1.1-(3)-⑥) 3-3-⑬ 三重県教育委員会が主催する高等学校教員を対象とする研修講座一覧を教職員に周知し、教職員の参加を促した。(1.1-(3)-⑥)	
自己評価	年度計画が全て実施されている	自己評価 A
次年度の 検討事項		

FD 担当 令和6年度実施方針

目 的

本校における授業の質的向上を図り、学生の学習効果を最大化するため、教員の教育能力の向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施します。具体的には、教育方法の改善、教育内容の充実、教育技術の向上を目指します。

方 針**1. 教員の研修と支援「FD 講演会」**

- ◎全教員・技術職員を対象とした講演会を定期的に開催し、教育方法論、評価方法、教育技術等について学習する機会を提供する。
- ◎個別の教員に対するコンサルティングやメンタリングを行い、授業改善支援を行う。

2. 協働と共有の促進「公開授業」

- ◎教員同士の協働を促進し、授業内容や教育方法に関する情報を共有する場を設ける。
- ◎優れた教育実践例を共有するため、定期的に教員間での授業評価会議やディスカッションを実施する。

3. 評価と改善「授業アンケート」

- ◎授業改善のための評価基準を明確にし、定期的な評価を実施する。
- ◎評価結果を基にした改善計画を策定し、継続的な改善サイクルを確立する。

実施の流れ

- 1・教務委員会の下部組織としてFD担当を配置
- 2・全教員・技術職員を対象としたFD講演会を計画・実施
- 3・前期及び後期に公開授業を計画・実施
- 4・前期及び後期に授業アンケートを実施、その結果を受けて改善方針を各教員が公開

この方針に基づき、本校の教育の質を高め、学生の学びを支援するための取り組みを一層強化していく。

令和6年度FD活動報告

[FD講演会]

日時：令和7年3月13日（木）13：00～14：30

内容：情報処理センター講習会，前半部分

「大規模言語モデルの利用と注意点，リスクについて」

開催方法：ハイブリッド（情報処理センター・演習室 または Teams 教員研究室等）

対象：全教員・技術職員

参加人数：当日69名、後日録画視聴15名 計89名

[授業アンケート]

年度始め：授業に対する目標及び改善方針を学内公開

前期授業アンケート：令和6年7月18日（木）～7月31日（水）に実施

集計後，結果を担当教員に配布

前期授業アンケート結果を受けての改善方針を学内公開

後期授業アンケート：令和7年1月22日（水）～2月4日（火）に実施

後日，集計結果を担当教員に配布

[公開授業]

前期公開授業を令和6年6月20日（木）～7月3日（水）に実施

後期公開授業を令和7年1月22日（水）～2月4日（火）に実施

公開授業参加後にアンケートを実施。

令和6年度FD講演会の開催についての通知

令和6年度FD講演会の開催について 3/13

教員・技術職員 各位

表題の件について、下記のとおり開催します。

詳細は、改めてご連絡しますので、ご予定ください。 [025]全教職員（非常勤講師除く）

日時：令和7年3月13日（木）13:00～14:30

場所：情報処理センター または 教員研究室

対象：全教員・技術職員

※今年度のFD講演会は、先に案内があった情報センター実施の講習会との共催とします。



【鈴木】 昨日 13:49

令和6年度 FD講演会の開催について 3/13（木）

教員・技術職員 各位

Teams通知や教職員会議で案内しました通り、本年度のFD講演会は、
情報処理センター「教職員向け講習会」の前半部分と同時開催とします。[【情報処理センター、教職員向け研修会案内】](#)

参加方法は、情報処理センター演習室 または Teams（教員研究室等）とします。

演習を含んだ講習会となっています。

講師に質問をしながら参加したい人や、後半部分のアイデアソンにも参加を希望する人は、

以下Formsから申し込みをして、情報処理センター・演習室で受講してください。

（すでに情報処理センター講習会に申し込み済みの場合は不要）

[情報処理センターでの受講申し込み](#)

日時：令和7年3月13日（木）13:00～14:30

内容：情報処理センター講習会、前半部分「大規模言語モデルの利用と注意点、リスクについて」

開催方法：ハイブリッド（情報処理センター・演習室 または Teams 教員研究室等）

対象：全教員・技術職員

FD講演会は教員・技術職員の参加必須です。（当日、不参加の場合は、必ず後日録画を視聴してください）

[025]全教職員（非常勤講師除く）



Please fill out this form

A post on Microsoft Forms provided by: forms.office.com

forms.office.com

機械工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	インタラク ティブ ツール (チャット、 投票など)の 使用	市販 教材 書の使用	紙媒 体資料 の配付	BYOD による 講義 中の 資料 閲覧	マイク の使用	反転 授業 要素	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
山本 隆	工学実験	5	前期	×	×	×	○	×	×	×	○	○	座学で修得した学修内容と密接に関連した実験内容としていく。	記入不要	実験内容の要点を丁寧に教授したため、その内容を報告書に反映されている。
	機械設計製図Ⅱ	4	後期	○	○	○	×	○	○	×	○	○	できるだけ自由に設計できる要素を増やす。	記入不要	設計に関するバックグラウンドの解説が手薄だったため、この点を改善する。
	非破壊検査工学	専1	後期	○	○	×	×	○	○	○	○	○	技術が原因の重大事故などに触れ、現実問題と向き合う内容とする。	記入不要	教学的な記述が多かったため、これを簡単にして実際の問題への適用へ生かす工夫をする。
山本 隆	流体工学	5	通年	○	×	○	○	×	○	×	○	○	さらに多くの演習問題を解かせることにより、理解度を高める。	今年度で担当が終わるが、魅力的な授業となるように教え方などを工夫する	前期のみの担当のため、演習を増やして理解を深めるように他の授業で対応する
	水力学	4	通年	○	×	○	○	○	○	×	○	○	さらに多くの演習問題を解かせることにより、理解度を高める。	魅力的な授業となるように、後期も教え方を工夫してゆきたい	演習を授業時間内と演習課題と準備して対応したが、さらに多くの演習を提供する必要がある
	熱・流体工学基礎	3	後期	○	○	○	○	○	○	×	○	○	演習の割合が3割となるが、演習課題の問題数を増やして理解度を高める。	記入不要	学年末試験後の学生の意見要望では、分かり易いという記載が多かったが、授業のバリエーションや演習を早めにアップして欲しいという意見があった。次年度に対応したい。
	流体力学特論	専1	前期	○	×	×	○	×	×	×	○	○	さらに多くの演習問題を解かせることにより、理解度を高める。	記入不要	他学科出身の学生の理解が深まるように、さらに丁寧に説明するようにしたのでアンケートでは①～⑦において4.1以上の回答であった。次年度も引き続き丁寧な説明を心がけたい。
山本 隆	機械設計法	4	後期	○	×	○	×	×	×	○	○	○	演習課題、ノート提出を毎週行って、理解度を確認しながら進めていく。	記入不要	学生の理解を確認するために、毎週、演習課題を与え、提出した学生は全員合格した。
	機械設計製図Ⅰ	3	通年	○	×	×	×	○	×	×	○	○	提出期限を明確にして、毎週の進捗状況を確認しながら進めていく。	授業に、興味や関心を持たせるために、設計・製図する実物(玉形弁)に触れるようにする。	学生に、毎週の進捗状況を報告させながら進めた結果、全ての学生が期限までに提出できた。
	機械力学	4	通年	○	×	○	○	×	×	○	○	○	演習課題の提出を毎週行って、理解度を確認しながら進めていく。	学生の理解の程度を確認するために、毎週、演習課題やノートの提出を行い、それに対応して教える内容を工夫する。	学生の理解を確認するために、毎週、演習課題を与え、全て提出した学生は全員合格した。
	信頼性工学	専1	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	演習課題を毎週行い、理解度を確認しながら進めていく。	演習課題を毎週行い、理解度を確認しながら進めていく。	学生の理解を確認するために、毎週、演習課題を与え、全て提出した学生は全員合格した。
	機械要素Ⅰ	4EIS	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	○	演習課題、ノート提出を毎週行って、理解度を確認しながら進めていく。	記入不要	学生の理解を確認しながら進めた結果、全ての学生が合格した。
山本 隆	熱工学	5	通年	○	×	○	×	○	×	○	○	×	項目ごとに課題を与えることで、実際に学んだ知識をどのように使えばいいかを理解できるように努める	記入不要	受講生5名、アンケート参加者2名のため、判定できない。
	熱・流体工学基礎	3	後期	○	×	○	×	○	×	○	○	×	毎週課題を課し、提出期限を意識させながら実施することにより学力の向上を図る	理解度等は80%評価を受けているが、将来の自分とのかかわりという点で3.0と低い結果となったため、もう少し、授業で学ぶ現象がどのようなところで用いられているか、対処法として有用な手段はどんなものか等について、話したいと考えている。	概ね現状を維持しつつ、授業時間外での授業への意識を高めるための課題の実施とノートチェックを加える。
	機械製図Ⅱ	2	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	グループワークの中でコミュニケーション能力の向上を図るとともに、提出期限を意識させながら作図が行えるように努める	記入不要	概ね改善はされてきており、全ての項目でクラス平均よりも高い評価を得ている。
	機械製図Ⅰ	1	通年	○	×	○	×	○	×	○	○	○	座学では演習を入れて授業進行することで中たるみを防止し、後期から始まる図面描きにおいてはフリーディスカッションを取り入れることで製図能力の向上を図る	記入不要	演習を取り入れて実施したものの、あまり改善されていなかったため、もう少し演習を増やして学生理解度の向上を図る。
	エネルギー移送論	専1	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	×	中間までは大テーマに対する課題を与えることで問題慣れができ、後半には自身でその準備・実行ができるようになるように努める	概ね80%以上の結果であったが、⑧が3.4と低かったため、夏季休業中の課題や提出物の再提出等を促すことで、自己学修部分の時間確保を図りたい。	学生の理解度は例年と変化はなかったが、機械出身学生以外の専攻科学生に興味を抱かせるように努める必要があると感じたため、来年度はこの辺りの改善を図りたい。

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

機械工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	インタラク ティブ ツール (チャット 機能など)の 使用	市販 教材 書の使用	紙媒 体資料 の配付	BYOD による 講義 中の 資料 閲覧	マイク の使用	反転 授業 要素	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
佐藤 大輔	ロボット工学	5	前期	○	×	○	×	○	×	×	×	×	実際に手を動かして式の導出を行わせ、記憶中心の授業にならないように配慮する。最新のロボット技術を紹介する機会を増やして、身近な話題をエンジニアの視点で考える機会を与える	中間発表の仕上がりからもわかりますが、時間外学習時間があまりに少ない結果となっていることを考慮し、全テーマでの考察力の向上を全担当教員にお願いするとともに、圖書の検索能力向上にも役立てたい。	選択授業ということもあり、“理解が深まった”という回答が多い。極力、実用的なロボット技術の基礎理論を事例と共に示すことに留意した効果はそれなりにあったものと思われる。もう少し、ロボット業界のトレンドを紹介する時間を設けて興味を高める工夫が来年は試みる。
	機械力学	4	前期の内学期	○	×	×	×	○	×	×	×	×	実際に手を動かして式の導出を行わせ、記憶中心の授業にならないように配慮する	記入不要	時間を掛けて全員一斉に式の導出を行わせることを徹底することで、式の導出過程を試験問題のメインに据えても高い正解率を得られた。式とは何か、なぜ式を立てるのか、といった基礎的な部分からの説明も同時に進めた効果が見られた。
	ロボットデザイン論	3	前期	○	×	×	×	○	○	○	×	○	最新のロボット技術(主に実用例)を紹介してRTTが身近かつ今後避けて通れない工学的なトピックスであることを広い視点で理解する助けになるように心掛ける	記入不要	学科によるバラつきはあるものの、分野への理解が深まった。どの回答が多く、ロボットテクノロジーに関する広範囲の知識を提供するという授業の目的は十分に果たせたと思われる。今年度は特異的に授業を選択した学生が多かったため、一人一人の学生からの質問を受けやすい雰囲気ではなかったのは幸い。
	総合実習	3	通年	○	×	×	×	○	○	×	×	○	SOLIDWORKSを用いた設計を全員が最低限可能になるための工夫を続ける。実際に設計している様子を中心モニターなどを用いて学生にも見せることで、基本的な使い方だけではなく、効果的な使い方にも気づく機会を与える	記入不要	難易度が「難しすぎた」、やや難しかった。が7月1日となった、全員、SOLIDWORKSの基本的な操作方法しか知らない状態から、加工・組立方法を考慮に入れてオリジナルの機構を設計する作業+操作方法の習得が、高い難易度であるのは仕方がない。教員自身が実際にSOLIDWORKS利用のスキルを身に付けているので、基礎的な操作に關し
	メカトロニクス演習	3	通年	○	×	○	×	○	×	×	×	○	昨年度は本授業の初年度だったため、授業計画に非効率な点があった。今年度は昨年の実績を元にして、無理なく自然な流れで各項目を体験できるように授業計画を改定した	授業の難易度自体はあまり問題はないように見える。CBTによる前期末定期試験の実施も問題はなく、理解度に応じて点数にきちんとバラツキも観測できた	昨年度に比べると授業の進行はスムーズであったが、座学と演習の間にタイムラグが生じる流れも依然として残っている。これは次年度に改善すべき課題の一つである
	機械工学実習	2	後期	○	×	×	×	○	×	×	×	○	機械加工の知識とスキルもとても重要だが、それだけではなくCADを使った設計、レーザー加工機等を用いたラビッドプロタイピング、ワンボードマイコンを使った簡易な制御を通して、活用できるツールの幅の広さと手軽さを低学年の内から気付かせる	難易度、興味の有無に特に目立った問題は見当たらない。	昨年度の混乱した状態とは異なり、昨年度中に整備した授業コンテンツを用いて実習を行なったのでトラブルは少なかった。
佐藤 大輔	機械運動学Ⅱ	3	前期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	専門科目の導入教育の位置付けもあるため、低学年次に学んだ物理や数学との関連付けを意識しながら、進捗状況をコントロールし、学生の理解度の把握に努める。	記入不要	毎週課題を課したが、期限を守る事に注視し理解度が低いまま提出した学生が、一定数見受けられたため、翌週の冒頭に課題解説を丁寧にを行うように心掛けた結果、学習習慣の向上に繋がった。
	機械設計基礎	2	後期	×	○	○	×	○	×	○	○	×	機械要素を十分に理解し、暗記するのではなく次年度以降の実習科目に繋がるように興味関心が高くなるような授業となるように務める。	記入不要	次年度以降の実験実習科目と関連付けて説明することで、授業中に質問等もあり活気のある授業となった。
	機械工作実習	1	前期の内学期	×	×	○	○	×	×	×	○	○	初回授業に安全教育を丁寧に実施。興味・関心を持つことを重点において授業を進める。実習報告書の記載はこれからのレポート等の基礎となるため、細かな指導を行うように努める。	記入不要	初期は報告書の書き方に戸惑いが見られたものの、毎週添削することによって他人に物事を伝えるための報告書を書く技術が向上した。
	材料力学Ⅰ	3	後期の内学期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	毎週課題を課し、暗記ではない使える力学を意識させ、学力の向上を図る。	記入不要	問題文を正確に把握することができず、正解に達することができない学生が一定数あるため、問題文から現象を捉えて現象を理解する能力を向上させるように努める。
佐藤 大輔	電子回路	5	前期	○	○	×	×	×	×	×	○	×	機械工学科の学生でも理解可能な授業内容にする。また、理解しやすいようにする。	記入不要	概ね目標が達成できたと思うが、一部でわかりにくかった内容があった。
	制御工学	5	前期	○	○	○	×	×	×	×	○	○	受講人数を鑑みて、受講者各個人に合わせた内容にする。	記入不要	概ね目標を達成することができた。
	制御工学	4	後期	○	○	○	×	×	○	×	○	○	他の授業と足並みをそろえた内容にする。特に機械力学における運動方程式とや数学におけるラプラス変換やフーリエ変換との関連性を持たせた内容にする。	記入不要	概ね目標を達成することができた。
	アクチュエータ工学	4	前期	○	○	×	×	○	×	×	○	○	電磁アクチュエータについて機械工学科の学生でも理解しやすいようににする。	記入不要	概ね目標が達成できたと思うが、一部でわかりにくかった内容があった。次年度は、さらに詳細(基本原理から)な説明を行う予定である。
	電気・電子回路	3	通年	○	○	○	×	○	○	×	○	○	電気の基礎の理解を深めることで、電子回路の内容まで理解できるように工夫する。電気電子の授業でできるだけ広い内容の習得させる。	記入不要	概ね目標を達成することができたが、特に後半が煩雑な内容になってしまったため改善する予定である。
	メカトロニクス演習	3	通年	○	○	○	×	○	○	×	○	○	学生個人が自らで取り組みやすい授業内容、進行にする。また、各個人の理解度を深めるため、実践的な課題を多く取り入れる。	概ね狙い通りにできているように思うが、部分的に達成できていなかったため、後期はさらに実践的な課題をと入れる予定である。	概ね狙い通りにできたと思う。一部で、率先的な取り組みが見られなかったため、次年度は個人が課題に取り組み時間が増えるような易い身体をしたいと思います。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	○	×	×	×	×	○	×	機械工学の導入教育として、わかりやすい内容にする。すべての学生が問題なく課題を提出できるようにする。	問題なく課題を提出できたため概ね目標は達成できたと思う。	目標を達成できた。
	実践メカトロニクス	専2	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	実践メカトロニクスとして、実践的な内容にする。具体的には、産業界での事例を多く取り入れ、また演習や課題においても、実際に多く利用されている事例を取り上げる。	記入不要	概ね目標が達成できたと思う。
佐藤 大輔	機械設計製図	5	後期	×	×	○	○	×	○	×	×	×	流体工学(後期)と関連付けて、流体機械の設計ができるよう心掛ける。また、集大成として設計書に応じた図面を自ら完成させることを目指す。	記入不要	後期流体工学との関連を理解し、期限内に設計書と部品図・組立図を全員が提出した。
	熱力学	4	通年	×	×	○	○	×	○	×	×	×	毎授業、演習問題を解き、テスト対策をする。物理学における熱力学の位置づけや工業熱力学の特徴、考え方を伝える。	記入不要	演習問題の解説を丁寧にを行った。

機械工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの使 用	インタラク ティブ ツール (タッチペ ン、電子 黒板など)の使 用	市販 教材の 使用	紙媒 体資料 の配付	BYOD による 講義中 の資料 閲覧	マイク の使 用	反転 授業 要素	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
	総合実習	3	前期のみ開講	○	×	×	×	○	×	×	×	×	実社会での設計／生産技術、研究活動に活用できる技術とマナーを身に付けることができるよう指導する。また、日報を通して、活動の振り返る習慣をつけること、期日を守ることを徹底する。	見やすい板書を心掛け、演習問題を丁寧に解説する。	実習報告書の書き方、主体性や表現力、周囲と協働する力など様々なスキル習得に取り組んでいる様子がうかがえる。

機械工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	インタラク ティブ ツール (タッチペ ン、電子 黒板など) の使用	市販 教材 書の使用	紙媒 体資料 の配付	BYOD による 講義中 の資料 閲覧	マイク の使用	反転 授業 要素	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■■	計算機援用工学	5	前期	○	×	×	×	×	○	×	○	○	比較的平易な課題と発展課題の両方を用意し、不得手な学生でも課題を提出でき、得意な学生はさらに学びを深められるようする。	記入不要	予定通り複数レベルの課題を用意した。
	計測工学	5	後期	○	×	×	×	○	×	×	○	○	座学の期間にも課題を課すなどして理解を深める。	記入不要	座学期間に課題を用意することはできなかったが、代わりに中間テスト前にまとめた課題を用意した。
	機械運動学Ⅰ	2	後期	○	×	×	×	×	×	×	○	×	板書を減らし、スライドを中心に授業を進める。	記入不要	予定通りスライドのみで授業を行った。
	総合実習	3	後期										日誌の採点を通じて、文章を書く上での最低限のルールを学んでもらう。	記入不要	細かいと思われることも指摘した。
	メカトロニクス演習	3	通年	○	×	×	×	×	×	×	○	○	授業スケジュールを変更して、学生が理解しやすいようにする。	記入不要	校務との兼ね合いでスケジュールを最適化することは困難であった。
	工学基礎実験	1	前期										専門分野紹介の回を増やす。	前期末に記入	他授業との兼ね合いで増やすことは困難であった。
	機械工作実習	1	前期のみ開講										安全に実施できるよう十分に注意する。	記入不要	大きな事故無く実施することができた。

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

電氣電子工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	オンライン 授業の 割合	対面 授業の 割合	BYOD による 設備 利用	マイク 使用	反転 授業	授業 時間	フィード バック 時間	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗率のみ)	改修結果(改善後の良さ)	
山本 浩一	デジタル回路	5E	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	昨年年度より新しく出した科目で今年度であるが、教室が電子基板になったことにより全ての内容をパワーポイント資料で電子化し、効率的な授業運営についても意識していきたい。	記入不要
	計算機システム	5E	後期	○	○	○	○	×	×	○	○	「興味や関心を持たせる魅力的な授業」の項目が相対的に低かった。電子基板に対応したパワーポイント資料作成において授業資料の変更や授業の話題提供などが遅れていた。	記入不要
	応用数学Ⅱ	5E	通年	○	○	○	×	○	×	×	×	「よく聞ける言葉で授業をおこなっていましたか？」および「授業で出された成績はシラバスの評価方法よりも評価基準に合うものであったか？」の項目が相対的に高かった。一方、「見やすい板書（パワーポイント）で授業をおこなっていましたか？」の項目が相対的に低かったため、来年度はさらにパワーポイントを充実させていきたい。	「よく聞ける言葉で授業をおこなっていましたか？」および「授業で出された成績はシラバスの評価方法よりも評価基準に合うものであったか？」の項目が相対的に高かった。一方、「見やすい板書（パワーポイント）で授業をおこなっていましたか？」の項目が相対的に低かったため、来年度はさらにパワーポイントを充実させていきたい。
	デジタル回路	4E	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	教室が電子基板になったことにより全ての内容をパワーポイント資料で電子化し、効率的な授業運営についても意識していきたい。さらに演習問題解説資料も充実しより良い授業を仕上げていきたい。	記入不要
	電気電子工学実験	4E	後期	○	×	×	○	×	×	×	○	昨年度引き続き電子回路シミュレータとLTSPICEで実施するほかペーパーボードの回路測定実験も2人単位で一斉実施する予定である。学生個々の実験スキルを向上させつつ実験がスムーズに実施できるように指導書の改善や実施方法の検討にも取り組んでいく。	記入不要
	電気電子工学実験	3E	後期のみ担当	○	○	○	×	○	×	○	○	担当の後半はプログラミングおよびシーケンスの演習を行う予定である。パワーポイントファイルを更新するほか、プログラムの実行例などの表示をより分かりやすくするように努めている。	記入不要
山本 浩一	電気磁気Ⅰ	4E	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	分りやすい授業になるように通年でパワーポイントを活用して授業を進め、理解度を確認するため問題を解く時間も多設けたと考えています。理解度の確認を行い、質問したい授業のように努力します。	ほぼ全ての項目がクラス平均並みであったが、⑦の「授業で出された成績は…」の項目の評価が低かった。前期授業と後期授業の質問にシラバスを説明しているが、さらに丁寧に評価方法を説明する。
	電子制御基礎	3E	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	わかりやすい授業になるようにパワーポイントとプリントを活用して授業を進めます。また、演習、小テスト等で理解を確認します。教室の後方の学生にも声が聞こえているか、パワーポイントが見えているか確認しながら授業を進め、教材を改善していきます。	ほぼ全ての項目がクラス平均以上であったが、①の「先生はよく聞ける言葉で…」の項目の評価が低かった。今後は授業の途中で、クラスの後ろまで声が届いているか確認しながら授業を進める。
	電気回路Ⅰ	2E	前期のみ担当	○	×	○	○	○	×	×	○	分りやすい授業になるように、教科書の要点をパワーポイントにまとめて授業を進めます。また、問題を解決力がつよくなるよう演習の問題も多く設け、質問、やり取り授業になるように努めます。教室の後方の学生にも声が聞こえているか、パワーポイントが見えているか確認しながら授業を進め、教材を改善していきます。	ほぼ全ての項目がクラス平均以上であったが、①の「先生はよく聞ける言葉で…」の項目の評価が低かった。今後は授業の途中で、クラスの後ろまで声が届いているか確認しながら授業を進める。
	電気電子工学実験	3E	通年	○	×	×	○	×	○	×	○	実験方法を分かり易くまとめたテキストを用意し、進捗状況を適宜確認しながら授業を進めます。実験で用いる機器、電子部品においても古くなった物は更新を進めています。	②の「装置・機器の状態・班人数等…」と③の「提出したレポートに対する指示は…」の項目の評価が低かった。古くなった実験器具については適宜新しい機器へ入れ換えを行う。また、レポートの再提出を求める場合には今まで以上に丁寧に説明を行う。
	センサ工学	専2	後期	○	×	○	○	○	×	×	○	センサ工学の基礎となる科目を学習したことが無い学生にも内容が理解でき、センサへの興味が高まるように説明方法を工夫し、教材を改善していきます。	全ての項目がクラス平均以上であった。今後も高い評価が継続するように教材と授業方法を改善する。
	制御機器工学	専1	前期	○	×	×	○	○	×	×	○	わかりやすい授業になるようにパワーポイントとプリントを活用して授業を進めます。電気や情報の出身学生以外の学生にも内容が理解できるように、基礎的なことから丁寧に説明していきます。教室の後方の学生にも声が聞こえているか、パワーポイントが見えているか確認しながら授業を進めます。	全ての項目がクラス平均以上であった。今後も高い評価が継続するように教材と授業方法を改善する。
	技術者倫理	専1	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	中部技術士会から5名の技術士を招き、合計6名の講師が各々の得意分野を講演します。授業アンケート結果を講師陣と共有し、授業方法と教材を改善していきます。	記入不要
山本 浩一	電気電子工学実験	5	通年	○	×	×	○	×	○	×	○	アンケートの全ての回答項目が実験実習の項目上だったので、今年度も継続していこうと思います。	昨年度と同程度と前年度の評価だったので、学生がある程度満足して実験に取り組んでいたのではないかと思います。
	半導体工学	5E	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	授業資料を配付し、重要な事項を記入してもらうことで、項目2、4がクラス平均より高く、他の回答項目の多くもクラス平均と同程度の回答になっていたのではないかと考えています。	記入不要
	電気回路Ⅱ	3E	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	授業資料を配付し、必要に応じて記入してもらい、演習は各々で解説して、その後、模範解答しているが、回答項目の多くがクラス平均と同程度の結果になっていないかと思っています。今年は去年より授業内容を記入する箇所をもう少し減らし、問題の解法時間を増やす方針です。	演習の時間を増やし、問題を解くことで理解を深めてもらうようにしたことで、項目9、10はクラス平均以上の評価に繋がったのではないと思う。一方で、項目4がクラス平均より少し低かったが、自己学習時間が10時間未満の学生がいたので、授業中だけでなく自分で復習しようと思えばいいと思います。
	電気電子工学演習	3	後期	○	○	×	○	×	○	×	○	主として、23年生の電気回路の内容を演習を通して復習して、電気回路で取り上げない回路解析手法も説明している。電気回路と同等、授業資料を配付し、演習をメインとしているが、アンケートの回答項目の多くがクラス平均と同程度の結果になっているので、継続していく予定です。	記入不要
山本 浩一	制御システム	5E	通年	○	×	○	×	○	×	○	○	前期は演習課題を全員に担当させ発表させることも、これまでの学習とのつながり、演習により理解度を深まらう工夫する。	よく聞ける、工夫、興味、シラバスについて0.1～0.2ポイントクラス平均より下回る評価となった。後期は、聞かえたかを確認したり、興味を持つように実験の現象と関連付けるように工夫し、シラバスを活用できるように紹介を繰り返すような改善していきたい。回答者が25名と少なかつたので、後期は今後も継続できるよう努力したい。
	電気電子計画	3E	通年	○	×	○	×	○	×	○	○	前年度と引き続き、実際の機器や関連した玩具を授業中に回覧させることや、演習を充実していきたい。授業中ノートをとることや演習をするところをがんばってください。前期試験までに、身の回りにおける電学材料についての課題を出しますのでこれらについていってもらってください。	全ての項目でクラス平均を上回るポイントとなった。後期にもこのような評価となるように引き続き実施していく。
	工学基礎実験	1E	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	導入物質として重要な専門科目であるので、丁寧に関わりやすい授業心がけたい。興味を持って、身近な物と対応するなど色々な工夫をしていきたい。	記入不要
	電子材料特論	専2	前期	○	×	×	×	○	×	○	○	②名を担当する科目。前半担当)前年度引き続き、授業に関連する材料や不思議な玩具などを持参し、現象から原理が理解できるようにしたい。授業中ノートをとることをやや演習を実施しますのでがんばってください。	複数を担当する教科のため、結果を私は把握できません。記載ができません。
山本 浩一	センサ工学	専2	後期	○	×	○	×	○	×	○	○	②名を担当する科目。後半担当)他学科においては、難しい内容になるかもしれませんが、理解度を確認することに時間をとることや、関連した研究内容を紹介したり、実験のセンサや関連した玩具を授業中に回覧させるなど工夫していきたい。授業中ノートをとることをがんばってください。	複数を担当する教科のため、結果を私は把握できません。記載ができません。
	電気電子工学実験	3E	前期のみ担当	○	×	×	○	○	○	○	○	②名を担当する実習。前期担当)前年度同様に講義科目との連携をはかりつつ実験方法に問題がないか検討を重ねていく。	記入不要
	電気電子材料	4	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	授業資料をさらに充実させて最新の内容にアップデートするとともに、演習も実施してわかりやすい授業運営を心がけたい。	記入不要
	電子物理基礎	4E	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	スクリーンに投影する資料をさらにわかりやすいものにして、一方的に急いで進めないように注意する。丁寧な書き込みと説明を心がける。	おおむね好評であったと認識している。引き続き丁寧な板書と説明を心がける。
山本 浩一	電気磁気Ⅰ	3E	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	スクリーンに投影する資料をさらにわかりやすいものにして、一方的に急いで進めないように注意する。丁寧な書き込みと説明を心がける。	おおむね好評であったと認識しているが、やや一方的で単調なものであったことを反省しており、より丁寧に興味をひくような授業運営を心がける。

電気電子工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	イン フラ ストラ クチャ の活用 状況	作業 環境 の活用 状況	紙質 教材 の活用 状況	BYOD による 教材 の活用 状況	マイク の活用 状況	反響 授業 の活用 状況	質問 受付 時間	フリ ー デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果（改善後の良否）
■■■■■	電気電子材料	5E	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	講義における図や複雑な式をプロジェクトで映し、ホワイトボードへの解説と併用することで、授業をよりわかりやすく改善する	記入不要	アンケートの結果は、概ねクラス平均と一致しており、わかりやすい授業を実施できたと考える。
	電気エネルギー総論	5	後期	○	○	○	○	○	×	×	○	×	padを使用した講義を中心に、演習問題等もオンラインを活用して教員から学生への一方的な授業にならないよう工夫する。	記入不要	アンケートの結果は、クラス平均よりやや低かった。学生はこの授業と将来の自分とのかわりについて考えましたか？に特に低い点数であり、金学科が対象であるため自学科以外の学生にも関心が持てるような授業としたと考ええる。
	電気回路Ⅲ	4	通年	○	×	○	×	×	×	×	○	×	板書の量が多くなりにくい分布定数回路の講義に関して、スライドと黒板の両方を使用して、学生にわかりやすい講義を行う。それ以外の講義も例題、演習を多く取り入れ学生の理解しやすいように努める。	アンケートの結果、「学生の理解の程度に留意しながら授業を行っていましたか？」の回答がクラス平均よりやや低い数値となった。前年度と同じ様に実施してきたが、学生に合わせて少し難易度を下げたいと思います。	アンケートの結果、概ねクラス平均と一致しており、学生の理解度に合わせた授業ができたと考える。
	電気電子製図	2	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	これまでは線、文字等、製図の基礎をメインとしていたが、今年度は具体的な製図例を使用することで、製図への理解を深めるよう試みる。	記入不要	前年度から実習内容を変更したが、アンケート結果はクラス平均より少し低い回答を得られ、問題は生じなかったと思われる。
	電気電子工学実験	2	通年	○	○	×	○	○	×	×	○	○	前年度は回路シミュレータTinkercadを用いた実験において、想定したより「難しかった」との回答が多かったため、学生に合わせて難易度とする。	前期のTinkercadによるオンライン実験については、独自に行ったアンケートの結果から、難易度、理解度が昨年度より大きく改善しており、来年度も引き続きこの形式で実験実習を实習したいと考える	後期は各テーマごとに異なる教員が担当しているためアンケートは参考できないが、考察や課題の説明を手厚くしたことで、レポートの不備を少なくすることができた。
■■■■■	電子回路Ⅱ	4E	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	学生が興味を持てるような先端的なトピックスを提供し、電子回路を学習する意欲を高める工夫をする。	記入不要	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。
	電子回路Ⅰ	3	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	学生が興味を持てるような先端的なトピックスを提供し、電子回路を学習する意欲を高める工夫をする。	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。
	電気機器	3	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	学生が興味を持てるような先端的なトピックスを提供し、電気機器学を学習する意欲を高める工夫をする。	記入不要	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。
	ものづくり実習	1	前期	○	○	×	○	○	○	×	○	×	高等で行う初めての実習なので、安全に十分配慮し、学生へも安全の意識づけと安全教育を実施する。	記入不要	大きな事故がなく実習を終えることができた。授業開始時に安全の重要性を繰り返し指導し、無理せず実習するように指導した成果だと感じている。
	電気理論特論	専2	前期	×	×	×	×	×	×	×	○	×	本科で学習した電気・電子回路の知識をベースに新しい視点(グラフ理論)を考え、さらに回路の特徴への理解を深める。	記入不要	計画通りにグラフ理論の特徴と回路解析への応用を理解させることができ、定期試験でも十分に学生が理解できていることを確認することができた。
■■■■■	電力システム工学	5E	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	シラバスへの意識向上を図る目的で、到達目標を毎回の授業開始時に明示する。演習問題を多く取り入れて、自己学習しやすい講義になるように心がける。	授業アンケートにて、シラバスの意識について一定の評価が得られた。今後も毎回の授業の到達目標を学生自らが意識して聴講できるように心がける。	自己学習意識の改善やわかりやすい授業になるように心掛けた結果、ある程度満足できる結果が授業アンケートから得られたように見受けられる。
	パワーエレクトロニクス	5	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	シラバスへの意識向上を図る目的で、到達目標を毎回の授業開始時に明示する。演習問題を多く取り入れて、自己学習しやすい講義になるように心がける。	記入不要	授業アンケートでは、十分に高い評価が得られた。受講生はある程度、シラバスを意識して取り組んだように見受けられる。
■■■■■	情報通信工学	5E	前期	○	×	×	○	○	×	×	○	×	現在使われている技術等と授業をリンクしより身近な問題と感じられる授業を実施する。・資料を事前に確認したり手元で見たりできるように、授業資料を事前に配布し理解が深められるように心がける。	記入不要	授業アンケートでは、十分に高い評価を得ている。幅広い内容について取り扱ったが全体を通して高い成績となった。世界的に技術進歩の速い分野であるため、今後とも新たな技術等を講義に取り入れるように心がける。
	電気機器	4E	通年	×	×	○	○	×	×	×	○	×	科目の基礎原理を全頭に、電気機器の動作原理を正確に理解できる授業構成とする。・演習問題等を通じて、発展的な問題へも理解が深まるように工夫する。	授業アンケートで十分に高い評価を得られている。試験においては、点数に幅があったものの概ね許容範囲に収まっている。発展問題に関して、理解不足な点が見られたため、解説を含めて丁寧な説明を心がける。	引き続き授業アンケートについては、十分に高い評価を得られている。試験においては、点数の幅について若干の改善が見られ、最終成績についても同様の結果であったため、来年度も引き続き丁寧な説明を心がけるようにする。
	電気電子製図	3E	前期	×	×	○	×	×	○	×	○	○	実習系科目のため、実際に作業する時間を多く取り、より多くの知識・技術を獲得できる授業構成を行う。・適切な目標と適切な設定を行い、すべての学生が十分に到達可能な内容になるように心がける。	記入不要	全般的に授業アンケートの評価も高く、また提出物においても全員が十分なクオリティの成果物を提出できている。そのため、来年度以降も同様に学生自身のスキルを高めるような課題を中心に実施していきたいと考えている。
	電気電子工学実験	2E	通年	○	○	×	○	×	×	×	○	○	実習系科目のため、実際に作業する時間を多く取り、より多くの知識・技術を獲得できる授業構成を行う。・より実践的な内容を組み込み工学系に必要な基礎知識を幅広く学べるように工夫する。	Microsoft of iceの使い方やPythonによる基礎プログラミングを実施したが、学生が十分に扱えるようになったことを演習にて確認できた。後期の実験レポートでも引き続きMicrosoft of iceは用いるため、知識の積み重ねができるように工夫する。	実験レポートの記述の仕方について特に注意を払って指導を行った。全体を通じて、手書き、Wordに関わらず最低限の記述が可能になったことが提出されたレポートを通じて確認することができた。

電子情報工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 ライト の使用	インタラク ティブ ツール (タッチ ペン、電 子黒板な ど)の使 用	市販教 科書の 使用	紙媒体 資料の 配付	BYOD による 設備中 の資料 閲覧	マイク の使用	反転課 室授業	質問受 付時間	フリー タイム カッショ ン時間	目標・改善方針	実習アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	電子回路Ⅱ	4I	前期	○	×	○	○	○	○	×	○	×	3年生で学習した基礎的な事項を参照しながら、電子回路の応用を学習してもらおうと思います。実務で役立つ電子回路を扱います。	記入不要	難病のため声が小さいです。マイクを併用するとともに気を付けたいと思います。
	電子情報工学実験	4	後期	○	×	×	×	×	○	×	○	×	単年で学んだ電子回路の知識を実地に応用できる力を付けて欲しいと思います。	記入不要	難病のため実験室内を歩き回れない場合も出てきていますが、きめ細かい指導になるよう気を付けたいと思います。
	電子回路Ⅰ	3	後期	○	×	○	○	○	○	×	○	×	4年次の電子回路の基礎となる事項を学習してもらおうと思います。実務で役立つ電子回路を扱います。	記入不要	声の大きさについてはいづらか改善されました。
	情報通信ネットワーク	3I	通年	○	×	×	○	○	○	×	○	×	情報通信ネットワークの基礎とともに、インターネットや携帯電話の最新の情報も伝えていこうと思います。	難病のため声が小さいです。マイクを併用するとともに気を付けたいと思います。	声の大きさについてはいづらか改善されました。
■■■■	電子材料工学	5	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	今までに学んだ化学と物理の知識をもとに、電子系材料の性質とその応用の面白さについてわかりやすく説明したいと考えています。授業アンケートの提出率が低いので、最終講義で再度告知します。	記入不要	読みやすい板書を今後気を付けていきたいです。授業アンケートの提出率が低いので、最終講義で再度告知をします。
	集積回路工学	5	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	今までに学んだ電子回路、デジタル回路、光電子工学などの内容と関連付け、興味を持って学べるように工夫をしようと思っています。	記入不要	興味や関心を持たせるような、最新技術をコンピュータ上で動かすための回路技術・プロセス技術について説明を行った。
	電子制御工学	5	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	4年生で学んだ古典制御との違いを明確に説明し、状態方程式の行列計算に基づく現代制御の特徴と利点をわかりやすく説明したいと思います。	記入不要	講義に加えて、Pythonプログラムの制御用ライブラリ control を用いて実際の3次元以上の行列計算を実行可能な演習を行い、状態空間の理解を深めるよう工夫した。
	制御工学	4	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	昨年度までの授業内容を変更して、古典制御と現代制御を一年間で学ぶことになったので、授業の進め方を工夫して進めようと考えています。	学生の理解度低ながら授業を進めるよう、適宜質問時間を取って授業を進めたいと考えています。授業アンケートの提出率が低いので、最終講義で再度告知します。	書所の読みやすさの評価が他の項目に比べて低いので、スライドへの書き込み時に、色の統一を行い、読みやすい文字の大きさと十分なスペースを取り表記するように今後も継続的に配慮をする。
	電子工学Ⅰ	3	通年	×	×	○	×	○	×	×	○	×	固体物理学の一分野である半導体工学を中心とした電子工学について、その物理的な考え方と実際の電子デバイスの動作について、わかりやすく説明しようと考えています。	電子回路のダイオードやトランジスタとの関連も説明しながら、電子デバイスの基礎を理解してもらいたいと考えています。授業アンケートの提出率が低いので、最終講義で再度告知します。	書所の読みやすさの評価が他の項目に比べて低いので、スライドへの書き込み時に、色の統一を行い、読みやすい文字の大きさと十分なスペースを取り表記するように今後も継続的に配慮をする。
	電子情報工学実験	3	通年	○	×	×	×	○	○	×	×	×	電子と情報が融合している学科の特徴を意識して各実験テーマを指導したいと考えています。	(前期は実験担当せず)	レポート評価時の結果フィードバックをできるだけ行うように予定です。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	×	×	○	○	×	×	×	次年度以降への繋がりを意識しながら、新入生に対して各実験テーマをわかりやすく指導したいと考えています。	記入不要	より分かりやすい実験指導書の作成を、今後も気を付けていきたいと思います。
	電子材料特論	専2	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	身近な電子材料の特徴と応用について、出身学科の異なる学生にも分かりやすい授業を心がけたいと考えています。	記入不要	読みやすい板書を今後気を付けていきたいです。授業アンケートの提出率が低いので、最終講義で再度告知をします。
■■■■	情報数学	5	後期	○	×	○	○	×	×	×	○	○	離散数学とコンピューティングを結び付けて理解できるように、コンピュータ寄りの説明も含めていきます。	記入不要	少しはアルゴリズムと繋げて説明できたが、もっと増やしていきたい。
	データ構造とアルゴリズム	3I	通年	○	×	○	×	×	×	×	○	○	コーディング(アルゴリズムを実装できる)を重視して、演習問題と演習時間を確保します。	演習問題に手がつけられるように、授業内容と繋がるように工夫します。	演習時間を確保することができたが、授業内容と繋がる工夫はもっと必要である。
	プログラミング	1I	通年	○	×	○	×	○	○	×	○	○	頭で理解するだけでなく技術が身に付くように、説明と演習のバランスを心がけます。	進度が早く感じられると思うので、知識を整理して説明するようにします。	演習時間は十分に確保できた。授業内容にもっと強弱が必要である。
	応用情報工学	専1	前期	○	×	○	×	×	○	×	○	○	Pythonのプログラミングだけでなく、実際にデータを分析する意識を持たせるような課題を設定します。	記入不要	データ分析する演習を設定できたが、その機会を増やしていきたい。
■■■■	ソフトウェア工学	4I	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	×	授業での質問時間やチャットでの質問など、質問機会を増やすようにします。	引き続き質問機会の増加に努めます。	アンケートの回答者数が少なく改善できたかどうかかわからない。引き続き機会を増やす工夫をする。
	オペレーティングシステム	3I	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	×	授業での質問時間やチャットでの質問など、質問機会を増やすようにします。	引き続き質問機会の増加に努めます。	アンケートの回答者数が少なく改善できたかどうかかわからない。引き続き機会を増やす工夫をする。
	プログラム設計	2I	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	授業での質問時間やチャットでの質問など、質問機会を増やすようにします。	記入不要	昨年度と比べて改善したとは言えない結果であった。引き続き機会を増やす工夫をする。
														記入不要	年度末に記入
■■■■	計算機工学	5I	前期										昨年度、通年科目を半期科目にしたための授業進度が遅く対応できない学生がいたため、演習の解説等を別に公開することで対応する。	記入不要	いくつか演習問題の解説をmoo leに載せた。
	IoTシステム工学	4I	前期										今年度からの新規科目、実験室が使える環境のため、机上での企画、設計ができるように目標を設定し授業を進める。	記入不要	実習をした方が良く感じられた。次年度から実験室を使い、実装を入れることにした。
	計算機工学	4	後期										今年度からの新規科目ではあるが、エミュレータやツールを使い、実際に作りながら動かしながらコンピュータアーキテクチャが理解できるように授業を進める。	記入不要	oginiによる回路設計、行列乗算の高速化のためのアーキテクチャとその利用方法についての演習課題を作成し、実施した。
	プログラミングⅡ	2I	前期										moodle上の小テストを増やし、基本的な知識の確認を行えるようにする。試験前の補習を行う。	記入不要	小テストを増やし自身で理解をチェックできるようにした。
	IoTシステム特論	専2	前期										グループワークの質をあげるため、ワーク中の各自の役割分担等を記録できる仕組みを導入する。	記入不要	良い仕組みを構築できなかったのがmoo leのワークショップの利用を検討する。
■■■■	電子情報工学実験	5	前期	○	×	×	○	×	○	×	○	×	実験内容の理解を深めるための説明を詳しくします。	記入不要	レポート課題の考察が詳しく書かれているようになった
	電気磁気学Ⅱ	4I	前期のみ担当	○	×	×	○	○	○	×	○	×	理解を深めるため、授業で使用する数学の知識について詳しく説明します。	記入不要	学生の授業中の課題への取り組みがよくなった
	電気磁気学Ⅰ	3I	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	×	理解を深めるため、授業で使用する数学の知識について詳しく説明します。	記入不要	学生の授業中の課題への取り組みがよくなった

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライド の使用	インタラク ティブ ル(タッチ ペン、電 子黒板な ど)の使用	市販教 科書の 使用	紙媒体 資料の 配付	BYOD による 設備中 の活用 状況	マイク の使用	反転授 業授業	夏期休 付時間	フリー タイム カッショ ン時間	目標・改善方針	改善アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
	電気電子基礎	2I	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	×	理解を深めるため、授業で使用する数学の知識について詳しく説明します。	記入不要	学生の授業中の課題への取り組みがよくなった
	電子情報工学実験	2	前期のみ担当	○	×	×	○	×	○	×	○	×	実験内容の理解を深めるための説明を詳しくします。	記入不要	レポート課題の考察が詳しく書かれているようになった
	マイクロコンピュータ基礎	2I	前期	○	○	○	×	○	×	○	○	○	講義内容と工学実験を連動させて授業を進めます。	記入不要	試験で再試験がなくなった。理解度が上がった。
	電気回路論Ⅰ	3I	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	○	演習問題を増やすのみでなく、解答例を丁寧に説明します。	記入不要	再試験回数が少なくなった。継続して、解答例を丁寧に説明していきたい。
	電気回路論Ⅱ	4I	通年	○	○	○	○	○	×	○	○	○	演習問題を増やすのみでなく、解答例を丁寧に説明します。	記入不要	再試験回数が少なくなった。継続して、解答例を丁寧に説明していきたい。
	電子計測	5I	前期	○	○	○	○	○	×	○	○	○	実際に産業的にどのような場所に使われているか説明し、社会とのつながりを意識してもらいます。	記入不要	試験で再試験が少なくなった。理解度が上がった。
	デジタル回路	3I	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	×	分かりやすい演習を心がけます	記入不要	黒板が見にくかったようです。見やすくするよう心がけます。
	電子情報工学実験	1	後期	○	○	×	×	○	○	×	○	×	分かりやすい演習を心がけます	記入不要	興味が続いている内容を検討していきます。
	組み込みシステム	5I	MECS	○	○	○	×	○	○	×	○	×	分かりやすい演習を心がけます	記入不要	分かりやすい演習を心がけます
	画像処理工学	5	後期	○	×	○	×	○	○	×	○	×	学生のレベルに対して、適切な試験の設定が出来ていない所が変更されたので、難易度を下げずに出題の工夫を行う。	記入不要	学生自身でサイクルを回して、最良の結果を導いていような課題・出題の形態が取れたと思う。それが言える理由として、真熟・機出の問題にて意思形成は分かっているが、全員の解答(解答例も含め)が一様にならなかった事があった。
	情報理論	4I	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	今年度、初めて担当する授業なので、教員自身が理解しやすかった引き継いだ授業資料以外の資料を学生へも展開するように注意していく。	記入不要	公開されている他大学の授業資料を借りて、説明などを実施し、理解度向上を図れた。周知に関してはばちもち良かったと思うが、資料内のミスについては共有方法が良かったと思う。
	情報セキュリティ基礎	4I	前期	○	×	×	×	○	×	○	○	○	家庭向け・組織向けと様々な視点・立場からの情報の強いや注意点、セキュリティ、意識と多面的に情報に関する知識や意識を精査していく。	記入不要	ゲーミフィケーションの実施で感覚的な物は修得していったと思う。
	情報セキュリティ概論	3MECS	後期	○	○	×	×	○	○	○	○	○	・演習およびディスカッションの時間を多くとり、学生が主体的に学習に取り組めるようにするとともに、時間中に巡回して困っている学生のフォローを行う ・なるべく身近な題材を扱い、セキュリティ知識の必要性・重要性を実感してもらおう	記入不要	概ね達成できたと思われるが、主体的な演習やグループワークを優先した結果、個々の学生の質問や意見を聞く機会が少なくなった点で課題が残った。学生に発表を促してもらったり、質問しやすい環境づくりに取り組んだりするなど改善を続けていきたい。
	情報処理Ⅱ	2MECS	前期	○	○	×	×	○	○	○	○	○	・演習時間を多くとり、学生が主体的にプログラム作成に取り組めるようにするとともに、時間中に巡回して困っている学生のフォローを行う ・なるべく身近な題材を扱い、プログラミングの必要性・有用性を実感してもらおう	記入不要	概ね達成できたと思われるが、身近な題材を使うという点では課題が残った。初歩的な内容のため難しい部分もあるが、なるべく実用性のある内容を組み込んでいけるように改善を続けていきたい。
	情報処理Ⅰ	1	前期	○	×	○	○	×	○	×	×	○	・今後の情報機器を扱うための基礎となる授業を目指す。そのために、Officeやタイピングなどの練習の時間を可能な限り取る。机間巡視を行い、学生の様子を確認し、対話の時間も持つように心がける。	記入不要	机間巡視等を行い、分かりやすく魅力的な授業を今後も意識したいと考えている。
	情報セキュリティ概論	1	後期	○	×	○	○	×	○	×	×	○	・今後の情報機器を扱うための基礎となる授業を目指す。そのために、タイピングなどの練習の時間も取る。机間巡視を行い、学生の様子を確認し、対話の時間も持つように心がける。	記入不要	年度末に記入

生物応用化学科																
教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライドの 使用	インストラ クター (タッチ ペン、電 子黒板 など)の 活用	市販 教材の 活用	紙媒体 教材の 活用	BYOD による 授業中 の資料 閲覧	マイク の 使用	反復 授業	質問 受付 時間	フリー ディス カッショ ン時間	目標・改善方針	質問アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善率の算出)	
佐藤 隆	工業化学	5	後期	○	×	×	○	×	×	×	○	×	授業中に多くの演習を行い、また、演習の解答に関する解説時間を長めにとって理解度を向上させる。	記入不要	授業アンケートの結果は概ね良好であった。今年度よりスタートした科目であったので来年度の授業内容について再検討してみる。	
	無機化学Ⅰ	3	通年	×	×	○	○	×	×	×	○	×	授業中の演習を増やし、補足プリントを配布し、理解度を向上させる。	演習問題解説の際には丁寧に説明することや、学生に問いかけをしなから心掛けたので、理解度に留意した授業については高評価であったので評価を落とさないように後期も継続して努力する。	質問しやすい雰囲気について高評価であったのでこの雰囲気を維持したい。	
	生物応用化学実験(後期)	3	後期	×	×	×	○	×	○	×	○	×	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように務める。	提出したレポートに対する指示が適切であるか？に関して評価が低かった(4.2)ので適切で丁寧に指導する。	提出されたレポートに対する指示について低評価(4.2)であったのでこの点に關して改善する。	
	化学	2	前期	×	×	○	×	×	×	×	○	×	授業中、質問しやすい雰囲気づくりに力を入れ、また、演習問題について丁寧に解説して理解度を向上させる。	記入不要	演習問題解説の際には丁寧に説明することや、学生に問いかけをしなから心掛けたが、アンケート項目③～⑥でクラス平均以下のポイントであったので来年度より一層工夫したい。	
	生物応用化学序論	1	前期	○	×	×	○	×	×	×	○	×	授業中、質問しやすい雰囲気づくりに力を入れ、また、演習問題について丁寧に解説して理解度を向上させる。	記入不要	アンケート項目①～⑥についてすべてクラス平均以上であった。特にこの分野に興味が高まったについては5.0ポイントであった。来年度もこの評価を維持できるように工夫する。	
	工学基礎実験	1	前期	×	×	×	○	×	○	×	○	×	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように務める。	記入不要	授業アンケート項目①～⑥に關して4.7以上の評価結果を得られた。実験内容、操作についても理解させながら実験を行わせることができたと思う。	
	生物応用化学実験	1	後期	×	×	×	○	×	○	×	○	×	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように務める。	記入不要	すべてのアンケート項目において実験実習の平均評価を上回っていたので改善できたと思う。	
佐藤 隆	化学工学Ⅱ	5	前期のみ担当	○	○	○	×	○	×	×	○	×	吸収や抽出・膜分離の装置に使用例を説明することにより、授業に興味を持ってもらい取り組んでもらうようにする。	記入不要	学生から質問しやすい授業を行うことができたが、分かり易く興味ある授業ではなかったようであった。	
	化学工学Ⅰ	4	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	×	プラントや装置の設計で流動や伝熱の知識がどの様に使用されているかを説明し、授業内容に興味を持ってもらうようにする。	記入不要	学生の理解度を留意しながら授業を進めることができたが、この分野の理解を深めることはできなかった。	
	反応工学	4	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	×	化学プラントの設計で反応器の選定や操作条件の設計がいかに重要であるか理解し、授業に興味を持ってもらえように務める。	記入不要	学生の理解度に注意して授業を進めることは出来たが、興味や関心を持たせることが十分に出来なかった。	
	生物応用化学実験(応用化学コース)	4	後期										産学にて学習した内容がいかに活用することが出来るかを、実験手順を理解しながら進められるように務める。	記入不要	学生の理解度に注意して授業を進めることは出来たが、興味や関心を持たせることが十分に出来なかった。	
	化学工学Ⅰ	3	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	×	なぜ化学工学を学ぶのかを理解し、化学工学について興味を持って授業に取り組んでもらうようにする。	記入不要	学生の理解度に注意して授業を進めることは出来たが、授業中に質問しやすい雰囲気を作ることができなかった。	
	生物応用化学実験	1	後期										安全かつ確実に操作できるように、ポイントや注意点を強調するなど、メタリのある説明を行う。	記入不要	実験内容や必要性を十分に理解してもらい、必要な実験技術も修得してもらうことができた。	
	移動現象論	専1	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	×	受講生が様々な学科の出身者によって構成されているため、授業内容を丁寧に説明することにより各自の専門にいかに関与させるか考えようとするように務める。	記入不要	複数の学科の出身者を対象にした授業であったため理解出来るように授業を工夫したが、学生の理解度に留意した授業でなく、また質問しやすい雰囲気を作ることができなかった。	
佐藤 隆	無機化学Ⅱ	5	前期	○	×	○	○	×	×	×	○	×	無機化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていきたい。	記入不要	無機化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていくことができた。	
	生物応用化学実験(前期)	4	前期	×	×	×	○	×	×	×	○	×	実験前に必要な知識について簡単な講義を行いたい。	記入不要	実験前に必要な知識について簡単な講義を行った後実験を行うことができた。	
	物理化学Ⅰ	4	後期	○	×	○	○	×	×	×	○	×	物理化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていきたい。	記入不要	物理化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていくことができた。	
	物理化学Ⅰ	3	通年	○	×	○	○	×	×	×	○	×	パワーポイントを用いてと板書を用いての授業のバランスを考えながら授業を進めていきたい。	記入不要	パワーポイントを用いてと板書を用いての授業のバランスを考えながら授業を進めていくことができた。	
	化学(前期+後期第1部)	1	前期	○	×	○	○	×	×	×	○	×	授業中に、演習の時間を取ることにより、授業内容をより理解してもらえようように努める。	記入不要	授業中に、演習の時間を取ることにより、授業内容をより理解してもらえようように努めることができた。	
佐藤 隆	環境分析化学	4	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	分析機器の原理やスペクトルの読み方の解説だけでなく、実際に演習問題を解く時間をできるだけ設け、スペクトルを解く力が身につくように授業を進める。	記入不要	アンケート結果はおおむね良好であり、「理解の程度に留意しながら」の項目で特に評価があった。学生の様子を確かめながら、理解できない箇所については繰り返し解説したことが評価につながったと考えられる。	
	機器分析化学	3	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	単なる分析機器の解説だけでなく、理論・原理についての説明にも時間を割く。また、将来に出て分析業務に就く卒業生が多く、重要な科目であることを理解して授業に取り組めるよう指導する。	記入不要	アンケート結果では、全体的に昨年度を上回る評価が得られた。どのコースに行っても将来必要な学習であることを意識してもらったことで、「興味や関心を持たせる」「将来の自分との関わり」に関する項目がわずかながらあるが評価があった。	
	有機化学	2	前期のみ担当	○	×	○	○	○	×	×	○	×	学生の理解度に注意して授業を進める。構造式の書き方や有機反応の考え方の基礎が身に付くよう、また、予習や宿題を課すことで学生が自己学習する習慣をづけるよう工夫したい。	記入不要	学生の理解度を高めるための課題を出し、課題の解答や前週の復習してから授業に入るようにした。アンケート結果は概ね良好であった。	
	生物応用化学実験(前期)	2	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	基本的な実験操作を正確に身に付けられること、また産学で習った内容と実験が結びつくよう指導することを目標とする。	記入不要	分析化学で学んだ内容について実際に実験を行うことで、学生の理解を深めることができた。また、実験後にデータ処理チェックを行うことで、実験後の振り返りについて学んでもらうことができた。	
	化学(前期+後期第1部)	1	後期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	化学により興味や関心を持ってもらい、これから化学を勉強していく上で基礎を十分に身に付けることができるよう指導する。予習や宿題を課すことで、学生が自己学習する習慣をづけるよう工夫したい。	記入不要	これから専門を学んでいく上で必要な化学の基礎知識について、1年を通して学習し修得することができた。授業アンケート結果も「シラバス」に関する項目以外ではすべて4.5以上と概ね良好であった。予習・復習等、自己学習する習慣をいかに身に付けるかは、今後の課題である。	
	生物応用化学実験	1	前期のみ担当	○	×	×	○	○	○	×	○	○	実験テーマについての実験操作上の注意点と実験の原理等を十分解説させたうえで、実験の知識と技術を修得できるようにする。	記入不要	アンケート結果は1項目が4.8、それ以外は4.9または5.0と、学生たちが興味・関心をもって実験に取り組んでくれたことが分かった。特に、「積極的に実験の内容を理解しようとした」が5.0であった点から、学生たちが主体的に実験に参加していたことが伺えた。	
	工業化学	5	後期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	今年度から無機工業化学と有機工業化学の前期2科目が一括にて工業化学となり、授業時間が減少するので、必要な箇所を絞りつつ有意義な授業をしたい。すでに習った有機化学、高分子化学、分析化学、物理化学などの分野と関連を意識させることで、様々な知識を体系的に理解できるように授業を行う。	記入不要	授業時間が半分になり時間の制約があったため、広く深い授業になったが、また、高分子材料を手にとってみてもらった。授業内容に関連した動画を視聴してもらうなどの工夫をすることで、より関心をもってもらったことができた。	
佐藤 隆	界面化学	5	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	教員が主体となっている授業アンケート項目すべてにおいて4.0以上の平均評価を得た。今後も製造業の現場での界面化学の利用について紹介していくなど学生にとって身近な授業を継続したい。	記入不要	教員が主体となっている授業アンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だった。質問時間を設けるとともにチャットでの質問も受け付けていたにもかかわらずこの結果であった。講義資料や定期試験も過去問をMOODLE上にアップしているのにもかかわらず学生が教員に質問するメリットを感じていないのかもしれない。	
	物理化学Ⅱ	4	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	×	教員が主体となっている授業アンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だったので、チームズ上でのチャットによる質問を受け付けていることを周知するとともに講義中の質問受付時間を増やしていく。	記入不要	教員が主体となっている授業アンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だったが、前期授業アンケートよりは高評価になった。チームズ上などからされた質問に対して丁寧に回答するとともに、質問内容と回答をクラス全体で共有することを心掛けたためと考えられる。	
	有機化学	3	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	×	教員が主体となっている授業アンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だったので、チームズ上でのチャットによる質問を受け付けていたにもかかわらずこの結果であった。講義資料や定期試験も過去問をMOODLE上にアップしているのにもかかわらず学生が教員に質問するメリットを感じていないのかもしれない。	記入不要	教員が主体となっている授業アンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だったが、前期授業アンケートよりは高評価になった。チームズ上などからされた質問に対して丁寧に回答するとともに、質問内容と回答をクラス全体で共有することを心掛けたためと考えられる。	

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

生物応用化学科																			
教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライドの 使用	インストラ クター ツール (タッチ ペン、電 子黒板 など)の 活用	市販 教材の 活用	紙媒 体資料 の活用	BYOD による 教材の 活用	マイク の活用	反転 授業	質問 受け 時間	フリー ディス カッ ション 時間		目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗率のみ)	改善結果(改善率の数値)			
山本 一孝	生物応用化学実験(後期)	2	後期	×	×	×	○	○	○	×	○	×	×	教員が主体となっている授業アンケート項目すべてにおいて4.0以上の平均評価を得た。ただ、教職員から実験操作が複雑だという指摘があったので、自身の担当するテーマについては実験操作の見直しを行っている。	記入不要	授業アンケート項目すべてにおいて4.5以上の平均評価を得た。また、実験操作の改良により、ほとんどの実験テーマで定時には学生が実験を終えることができた。			
	生物応用化学実験	4	後期	×	×	×	○	○	×	×	○	×	×	教員が主体となっている授業アンケート項目すべてにおいて4.0以上の平均評価を得た。今後コース別実験のマイクを活かしてきり細かい指導を行っていく。	記入不要	授業アンケート結果は不慣れである(情報共有できなかった)。有機合成およびクロマトグラフィーによる生成物の分離・精製に加え、核磁気共鳴分光計を用いた生成物の構造確認(もう1つにより、合成・分離・精製→構造確認というものの4つの流れを全て実験操作に盛り込んだ。			
	有機化学	2	後期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	×	教員が主体となっている授業アンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか?」の平均評価が4.0未満だったので、チームズ上でのチャットによる質問を受け付けていることを告知するとともに講義中の質問受付時間を増やしていく。	記入不要	教員が主体となっている授業アンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか?」の平均評価が4.0未満だったが、昨年度の同科目・同時期授業アンケートよりは高評価だった。チームズ上などからされた質問に対し丁寧に回答するとともに、質問内容と回答をクラス全体で共有することを心がけたためと考えている。			
山本 一孝	細胞工学	5	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	代謝を中心とした生化学の基本的知識が身につくように授業を進める。	記入不要	授業アンケートの結果はおおむね良好であり、再試対象者も少なく、追試試験対象者はいなかった。			
	分子生物学	4	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	複製・転写・翻訳を中心とした「遺伝子の生物学」について、3年生の履修内容を発展させるように授業を進める。	記入不要	授業アンケートの結果はおおむね良好だったが、例年以上に再試対象者が多く、追試試験対象者も4人、追試試験の対象とならずに不可が決定した学生が1人いた。授業の進め方や試験問題に改良の余地があると考えられた。			
	生物応用化学実験(生物化学コース)	4	後期	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	遺伝子工学の基礎的な操作を遺伝子クローニングとその発現解析を行うことで身につける。	記入不要	授業(実験)アンケートの結果はおおむね良好だった。ノーザンブロット用のブローも半数の班で合成ができ、ノーザンブロットについては全ての班でデジタルが得られたので実験としてはよかった。			
	遺伝子工学	4	後期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	実習と関連づけながら、遺伝子工学的手法について学習し、特に各操作の意味や酵素の特徴などについて理解を深める。	記入不要	授業アンケートの結果はおおむね良好であり、持ち込みアプリの試験とは言い換えられなかった。実験とリンクもおおむね思い通りに進んだと考えている。			
	基礎細胞生物学	3	後期のみ担当	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	分子レベルからやマクロなレベルの生物学まで、生物学に興味を持ってもらうように授業を進める。	記入不要	授業アンケートの結果はおおむね良好だった。再試対象者もなかった。後半部分は指定教科書を離れての授業だったので、学生によってはとっつきにひたつたかもしれない。数十分かかる指定教科書をもっと無断入とさせるかについて検討の余地があると考えている。			
	分子生命科学	専1	前期	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	理系学校の出身者として、知識として押さえておくべき内容を、専門外の学生にも飽きさせないように授業を進める。	記入不要	授業アンケートの結果はおおむね良好だった。授業資料そのものの持ち込みを要求する声も多かった。再試対象者もなく、当面現状を維持する予定である。			
山本 一孝	生体・機能材料工学	5	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	半期の半分では有機機能性材料について理解できるように、基礎から応用までの要点を厳選してしっかりと伝える。	記入不要	授業アンケートの結果は良好であった。例年通り版書を工夫してより分かりやすくしていくと思う。4年生の高分子化学の知識も活かせるように工夫したので、より理解を深めてもらえたと思う。			
	高分子化学Ⅰ	4	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	生物コースの学生にも有用な授業内容になるように、工夫して授業を進める。	記入不要	授業アンケートの結果は良好であった。例年通り版書を工夫してより分かりやすくしていくと思う。生物コースの学生からは次食者がなかったため、丁寧に授業を進めた効果もあったと思う。			
	高分子化学Ⅱ	4	後期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	高分子化学に加えて、化学コースの学生がさらに深い知識を習得できるように、工夫して授業を進める。	記入不要	授業アンケートの結果は良好であった。例年通り版書を工夫してより分かりやすくしていくと思う。昨年度よりも総括の時間を取ったので、最後に授業全体の内容をまとめることで、学生の理解が深まったと思う。			
	化学(後期第2部)	1	後期	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	2年生以降で学習する有機化学に興味を持ってもらえるような、導入教育が出来るように心がける。	記入不要	授業アンケートの結果は良好であった。例年通り版書を工夫してより分かりやすくしていくと思う。今年度は自分の科目では追試試験を受ける学生がいなかったため、内容が上手に伝わったのだと思う。			
	有機化学特論	専1	前期	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	C科以外の学生にも有用な授業になるように工夫して、授業を進める。	記入不要	毎年PPFラボをマイナー・チュエーションしながら授業を行った。その結果、専門書きの学生も単位をとることが出来た。			
山本 一孝	情報処理応用	4	前期	○	×	×	×	○	○	×	○	×	×	与えられた課題に取り組みを通じて、文書作成アプリケーション、プレゼンテーション資料作成アプリケーション、表計算アプリケーションを使用できるようにする。	記入不要	受講した全員が与えられた課題に取り組み、一定の評価に達して単位取得できたことを考え、目標が達成できた。			
	生物化学	3	通年	○	×	○	○	○	○	×	○	×	×	代謝に関連した生体物質の特徴を化学的に理解し、生体内で行われる一連の化学反応について関連物質と共に理解できるようにする。	記入不要	受講した全員が一定の評価に達しており、目標が達成できた。			
	生物応用化学実験(前期)	3	前期	○	×	×	○	×	○	×	○	×	×	生物化学に関連した実験スキルを身につけられるようにする。	記入不要	生体由来試料を用いて、生物化学および細胞培養に関する実験を通じて必要なスキルを身につけられたと考えられる。			
	基礎細胞生物学	3	前期のみ担当	○	×	○	○	○	○	×	○	×	×	細胞の構造、セントラルドグマに関連する事象に関する基礎的な知識を習得する。	記入不要	受講した全員が一定の評価に達しており、目標が達成できた。			
山本 一孝	環境工学序論	5	前期	○	○	○	○	○						教員からの一歩進んだ授業をやらない。「ものづくりの現場で必要となる水処理(上水)を中心として、仕事で活かすことができるような(仕事で必要となる)内容」について、5学科同時開講科目でバックグラウンドが違ってくることをふまえて、わかりやすく説明する。	記入不要	教員からの説明が主体となっており、教員からの一方通行の授業になってしまった。次年度は改善を試みる。			
	環境工学総論	5	後期	○	○	○	○							教員からの一歩進んだ授業をやらない。「ものづくりの現場で必要となる水処理(排水処理)を中心として、仕事で活かすことができるような(仕事で必要となる)内容」について、5学科同時開講科目でバックグラウンドが違ってくることをふまえて、わかりやすく説明する。	記入不要	教員からの説明が主体となっており、教員からの一方通行の授業になってしまった。次年度は改善を試みる。			
	分析化学	2	通年	○	○	○	○	○			○	○	○	授業中でのグループ学習を中心とした授業展開を行う。教員からの一歩進んだ授業をやらない。演習問題を事前に授業展開し、学生が自ら解き、解答をもとに考えるスタイルで授業を進める。	記入不要	前期に引き続き、グループ学習で演習問題を解かせて、分からないところを学生自身がお互いに協力しながら解くことで理解を深めることができる。			
	環境科学特論	専2	前期	○	○		○				○	○	○	地球環境問題に関する知識について、SDGsの内容をふまえて、他者に対してアウトプットできるワークを行う。	記入不要	左記のとおり、アットホームな授業を展開することができた。			
	環境保全工学	専1	後期	○	○		○							教員からの一歩進んだ授業をやらない。地球環境問題に関する知識、廃棄物問題に対する知識を自ら他者に対してアウトプットできるワークを行う。	記入不要	教員からの説明が主体となっており、教員からの一方通行の授業になってしまった。次年度は改善を試みる。			
山本 一孝	タンパク質化学	5	前期	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	タンパク質の基本的な事項を押さえたうえで、タンパク質の分析手法とそれと明らかにできる事柄をセットで理解できるようにした。	記入不要	概ね評価は良好だった。例年、前期末試験範囲の内容がやや難しいようだが、難易度に対する評価は例年以上に低かった。			
	微生物学	4	通年	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	日常的にみられる微生物による現象や微生物を使った応用例を、原理とともに理解できるように、生物学の基礎的事項から積み上げていく。	記入不要	評価は概ね好評だった。今年度から、シラ/VS記述の別途目標をスライド/配布資料の冒頭に記入した。			
	生体機能工学	専2	後期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×	他学科出身の学生も多いため、生命科学の基礎的事項を押さえたうえで、各分野への応用例や試みを紹介する。応用については、興味を持てる分野があるような構成にしたい。	記入不要	生体機能の応用に関して、興味を持ってもらうことができた。			

材料工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライドの使 用	インテ ラクティ ブツール (Aha!)	市販 教材の 活用	配 体 資料 の 利 用	BYODに よる講義 中の資料 活用	マイク の使 用	反 復 演 習	質問 受付 時間	フリー- ディスカ ッション 時 間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗率の目)	改善結果(改善率の目)
	有機機能材料	5	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	授業用pdファイルをTeamsで配布し、PPTを使用した3D授業を実施する。PPTファイルのみでは無く教科書も併用し学びを深めるようにする。また、毎回、主な単元が終了することに質問時間を設けるとともにトピックス等を入れるようにし、より興味関心を持ってもらう。	記入不要	主な単元が終了することに質問時間を設けたが、あまり質問は出なかった。質問しやすい雰囲気作りを意図した。また、アンケート番号⑥「興味関心を持てるものだった」では評価が低くトピックス等をこれまで以上に盛り入れ興味関心を持ってもらいたい。
	高分子科学	4	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	授業用pdファイルをTeamsで配布し、PPTを使用した3D授業を実施する。PPTファイルだけでなく教科書も併用し学びを深めるようにする。また、毎回、主な単元が終了することに質問時間を設けるとともにトピックス等を入れるようにし、より興味関心を持ってもらう。	記入不要	主な単元が終了することに質問時間を設けたが質問は少なかつた。また、アンケート番号⑥「授業の予習・復習…」の評価が3.7(クラス平均)と低かった。レポートや課題等を課す旨を検討したい。
	有機材料	3	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	授業用pdファイルをTeamsで配布し、PPTを使用した3D授業を実施する。PPTファイルだけでなく教科書も併用しより明確に話し理解を深めるようにする。また、毎回、主な単元が終了することに質問時間を設けるとともにトピックス等を入れるようにし、より興味関心を持ってもらう。	記入不要	授業アンケート結果は概ねクラス平均より高い値となっていた。6興味関心を持たせる…の項目は0.1程度低かった。トピックス等の紹介を増やし魅力的な授業にしていきたい。
	材料工学実験	3	通年	○	×	×	○	×	×	×	○	×	材料工学実験では実験ノートおよびレポートの書き方から、薬品やガラス器具の取り扱い方、測定法など化学基礎実験を担当している。ノートの書き方など基本事項から安全・安心な化学実験の手法など学べるように心がける。また、その日の実験内容に関する簡単な口頭試問を実施し理解度の向上に努める。	比較的良いアンケート結果となっており、現状を継続したい。また、テキストをより分かりやすくするために改善を検討したい	後期は担当外
	有機材料工学	専2	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	予め授業で使用する資料(pdfファイル)をTeamsで配布し、PPTを使用した授業を実施している。PPTの資料だけでなく教科書も併用し学びを深めるようにする。また、毎回、主な単元が終了することに質問時間を設けるとともに授業の最後ではフリーディスカッションの時間を設け、より理解を深めるように努める。	記入不要	履修者3名中2名がアンケートに答えてくれた。しかし、2名のデータであるため判断は難しい所である。①～⑤は5点満点の評価であったが、6以下は評価が割れた項目もあった。特に⑧のシラバスの記載内容を参考に…は0.2低かった(5評価と1評価であったため)シラバスの説明等を丁寧にしていきたい。
	情報処理応用	5	前期	○	×	×	×	○	○	○	○	○	POを仕事で使えるビジネススキルを教授する他、材料工学の分野で有益なX線構造解析や電子線構造解析でのPOの活用方法を教授し、実効性を高める。	記入不要	アンケートを参照すると概ねクラス平均を上回る評価であった。特に、興味関心を持たせる授業であったかどうかについて平均より0.3ポイント高い評価が得られており、POを仕事で使えるビジネススキルを教授するという目標を達成したと理解している。
	設計製図Ⅳ	4	前期	○	×	×	×	○	○	○	○	○	3次元CADソフトを初めて使用する学生への授業であり、理解の程度に留意しながら授業を進め、3次元ならではの設計製図、断面解析の授業を身につけられるように努めたい。	記入不要	概ねクラス平均と同程度、あるいは上回っているアンケート結果であったが、質問しやすいかどうかについてクラス平均をやや下回っていた。自身で設計し、製図する演習中心の授業であり、いつでも質問できる状態であったにもかかわらず、質問ができなかったことは、学生のコミュニケーション能力の低さが現れていると理解できる。設計製図の演習を通してコミュニケーション能力が高められるよう、グループで議論しながら製図を実施するよう改善も取り入れていきたい。
	設計製図Ⅲ	3	後期	○	×	×	×	○	○	○	○	○	2次元CADソフトを初めて使用する学生への授業であり、理解の程度に留意しながら授業を進め、来年度実施されるインターンシップや創造工学で活用できるよう、CADスキルの教授に努めたい。	記入不要	学生の理解の程度に留意、ならびにわかりやすく授業を行っていたかについて、クラス平均をやや下回っていた。例年より課題を減らし、理解の程度に留意しながら授業を進めたが、それによりスキルアップを阻害しなかったと理解できる。2D-CADはソフトの使用法に理解に時間がかかるので、課題によって自己学習時間を増やし、より早く理解を深められるよう改善する。
	材料評価学	3	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	材料の機械的性質を評価する知識と技術とを修得する授業であり、評価方法の原理の説明と具体的な事例、演習課題とを組み合わせることで、今後の材料評価に活用できる知識の習得に努める。	記入不要	概ねクラス平均より高い評価が得られており、目標を達成できた。③学生の理解の程度に留意しながら授業を行ったかについて、クラス平均よりもやや低い結果であった。シラバスに従って、毎回授業の到達目標を説明し、理解に乏しい学生には自己学習で補えるよう、課題を提示するように改善する。
	材料工学実験	2	前期	○	×	×	×	○	○	×	○	○	専門的な工学実験を本格的にスタートする科目であり、実験マニュアル、レポートを電子化し、工学実験レポートのテンプレートを提供して、レポートの書き方を正しく教授することに努める。	記入不要	全員が、Wordソフトを活用して、工学実験の結果をレポートとして電子ファイル形式で提出することができた。また、テンプレートを活用することで、実験レポートの書き方を修得することができた様子がうかがえる。今後、画像やグラフなど、より高度な実験レポートを作成できるよう、テンプレートの内容をブラッシュアップする。
	統計熱力学	5	後期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	講義スライドの改良・修正しながら、数式を丁寧に展開し、熱力学と量子力学の架け橋となっている重要な科目であることを学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、テスト前に、演習問題と解説をおこない、質問時間も取りながら、学生の理解度を深める。	記入不要	講義スライドの改良・修正しながら丁寧な数式展開の授業資料を配布し、学生の理解度を質問や演習しながら授業を進めた。結果、授業アンケートでは、講義スライドの項目4も6、学生の理解度4も1と高い数値であった。予習が出来てないので、なかなか理解度が上がらないと思う。
	量子力学	5	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	講義スライドを修正しながら、演習問題を取り入れ、量子力学が必要な物性や分析法についても話をしながら、興味を持たせるようにして、学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、テスト前に、演習問題と解説をおこない、質問時間も取りながら、学生の理解度を深める。	記入不要	講義スライドを修正しながら、演習問題を取り入れ、量子力学が必要な物性や分析法についても講義に導入し、試験前にも演習問題を行なった結果、アンケートでは、興味・関心、理解度も向上した。
	材料機器分析	5	前期	○	×	×	×	○	×	○	○	○	年度から担当の科目であるので、講義スライドと実験で使える演習問題を作成し、学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、テスト前に、演習問題と解説をおこない、質問時間も取りながら、学生の理解度を深める。	記入不要	中間試験までの講義を担当し、新たに講義スライドと実験で使える演習問題を作成し、学生の理解度を確認しながら授業を進めることができた。中間試験までの成績も比較的高く、学生の理解度が深まっていることがわかり、講義資料も良いことが確認できた。
	無機化学	3	前期	○	×	○	○	○	×	○	○	○	今年度からホワイトボードにあわせて講義スライドと演習問題を作り、学生が理解できているところ、出来ていないところを確認できるようにして、内容を理解し高いように努める。基礎となる元素周期表など覚えるべき点を小テストをして、演習問題により理解度を深める。	記入不要	今年度からホワイトボードにあわせて講義スライドと演習問題を作り授業に対応した。学生の理解度を確認しやすくなるように、演習問題や小テストをややながら、学生の理解に努めた。その結果、アンケート結果も比較的良かった。
	機能材料	5	前期	○	×	×	×	○	×	○	○	○	今年度から担当の科目であり、他学科の学生もいるため、学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、授業スライドを準備し、学生とポイントを確認しながら授業を進める。また、テスト前に、質問時間も取りながら、学生の理解度を深める。	記入不要	アンケート結果から、スライドも見やすく、学生の理解度を確認しながら授業を進めることができた。また、テスト前に、演習や質問時間も取りながら、学生の理解度をさらに深めることができた。
	物性工学	専2	前期	○	×	×	×	○	×	○	○	○	今年度から担当の科目であり、他学科出身の学生もいるため、見やすく、分かりやすい講義スライドを作成し、基礎的なところを中心に、シュレーディンガー方程式から数式展開しながら、学生の理解度を確認して、原子の構造、電子の状態を理解し、電子の運動から生み出される機能の発現を理解できるようにする。	記入不要	アンケート結果から、かなり良い式の数式展開が求いた。スライドの文字などが小さく、改善する必要があり、もう少し高い評価が得られるスライド作りが必要であった。学生の理解度を確認して授業を進めたいものの、様々な学科出身の学生がいたため、更なる確認が必要だと感じた。

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

材料工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	授業ス ライドの 使用	イン カラ クティ ブ グル ープ	市 販 薬 の 使用	配 体 素 材 の 使用	BYODに よる講 義中 の資料 共有	マイ ク の 使用	反 復 演 習	実 験 時 間	フ リ ー デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 時 間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進年科目のみ)	改善結果(改善後の良否)
山本 浩二	材料保証学	5	後期	○	×	×	×	○	×	○	○	×	予め配布したスライド、補足資料(動画など)、演習問題を用いた反転型の授業を行い、基礎力学の基礎から実践的な知識までを学生が容易に理解できるように努力する。学生の理解度を確認し、授業内容や進度の調整を都度行う。授業時間外の質問にも積極的に対応する。詰め込み型の授業とならないように留意する。	記入不要	昨年度より新たに開講した科目であるが、①～④の全ての項目で5.0の高い評価を得ることができた。今年度の学生の理解度を検証し、次年度の講義内容や授業方法を改善していく。基礎力学という新たな学習に取り組んでくれた全受講生に感謝する。
	鉄鋼材料	4	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	×	スライド、補足資料(動画など)、自己学習課題を用いた反転型の授業を行い、鉄鋼材料の基礎から実践的な知識までを学生が容易に理解できるように努力する。学生の理解度を確認し、授業内容や進度の調整を都度行う。授業時間外の質問にも積極的に対応する。詰め込み型の授業とならないように留意する。	記入不要	⑤シラバスの記載内容の参考、⑥授業と自身の自分との関わりについては昨年と同じように他の項目より評価が低かった。就職や進学の際に役立つトピックなども教材に盛り込んで、これらの項目について学生が参考にできるように改善していく。真摯に学習に取り組んでくれた全受講生に感謝する。
	材料力学	4	後期	○	×	○	×	○	×	○	○	×	教科書だけでなく補足資料や演習問題を作成し、材料力学の基礎知識が容易に理解できるように授業設計を行う。事前の資料配布とグループワークを取り入れた授業遂行により、全学生の理解度の向上を目指す。学生の理解度を確認し、授業内容や進度の調整を都度行う。授業時間以外の質問にも積極的に対応する。詰め込み型の授業とならないように留意する。	記入不要	⑤シラバスの記載内容の参考についてとは昨年と同じように他の項目より評価が低かった。他の項目では4.5以上の高い評価を得ることができた。今年度の結果を踏まえて、例えば講義後半に練習問題に取り組む時間を設ける。講義時間以外に自由参加できる補習時間を設けるなど、学生の理解度を向上させていきたい。今年度、真摯に学習に取り組んでくれた全受講生に感謝する。
	金属材料	3	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	予め配布したスライド、補足資料(動画など)、演習問題を用いた授業を行い、金属材料の基礎から実践的な知識までを学生が容易に理解できるように努力する。学生の理解度を確認し、授業内容や進度の調整を都度行う。授業時間外の質問にも積極的に対応する。詰め込み型の授業とならないように留意する。	記入不要	昨年度のアンケート結果を参考にし、スライド、補足資料(動画など)を閲覧するとともに、授業方法を改善した。⑥授業の予習・復習以外の項目では4.5以上の高い評価を得ることができた。真摯に主体的に学習に取り組んでくれた学生の皆さんに心から感謝する。
	材料強度工学	専2	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	×	材料工学を専門分野としない学生に対しても、本分野の基礎知識、実践的内容が容易に理解できるように補足資料を用いた授業を行う。事前に配布した資料への学生の理解度を都度確認し、授業内容や進度の調整を行う。授業時間以外の質問にも積極的に対応する。本科目と社会との繋がりが身近に感じられるような授業遂行を心掛ける。	記入不要	材料工学を専門分野としない学生に対しても理解しやすい教材作成と詰め込みにならない授業遂行を心掛けた。学生の理解度を都度確認し、授業内容や進度の調整を行うことで、①～④の項目で4.0以上の高い評価を得ることができた。今後は、⑤と⑥の項目について授業改善を行っていく。真摯に主体的に学習に取り組んでくれた学生の皆さんに心から感謝する。
山本 浩二	高形材工学	5	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	×	今年度からの開講科目である。鉄道工学および塑性加工を中心としてに関する最近のトピックなどを盛り込めながら、高形材工学の現状把握と理解が深まるように、動画や図などを用いた視覚的コンテンツを含めた授業を心がける。また、演習等で理解度を確認しながら授業を進める。	記入不要	今年度からの開講科目で、最近のトピックを盛り込めながら授業を行った。演習等の内容があまり多くできなかった点を、次年度には改善していきたい。
	非鉄金属材料	4	後期	○	×	○	×	×	×	×	○	×	非鉄金属材料について、適切な材料選択ができるような知識を得られるように、授業を進める。また、実際の製品例などの視覚的コンテンツを用いて、非鉄金属材料を身近に感じて理解が深まるように努める。	記入不要	金属材料から非鉄金属材料に内容を拡充して2年目となり、適切な材料選択ができるような知識を得られるように、授業を進めた。また、実際の製品例などの視覚的コンテンツを用いて、非鉄金属材料を身近に感じて理解が深まるように努めた。
	材料組織学	3	後期	○	×	○	×	×	×	×	○	×	材料組織学の考え方の基本となる状態図と熱力学、拡散現象、マルテンサイト変態について、分かりやすく、また理解しやすいような講義に努める。また、既習事項の確認と授業遂行に応じて習熟度を確認しつつ、講義と演習のバランスを取りながら授業を進める。	記入不要	既習事項の確認と授業遂行に応じて習熟度を確認しつつ、講義と演習のバランスを取りながら授業を進められた。説明内容が聞き取りにくい点について、改善を要する。スライドに書き込みながらの進め方で、理解度に関し一定の効果があったとみられる。
	設計製図Ⅱ	2	前期	○	×	○	×	×	×	○	○	○	前年度に準んで設計製図Ⅰの内容を確認するとともに適切に利用しながら、設計製図に対する興味と関心が高まるような授業を心がける。特に、図面を描くという点だけでなく、製品と製図のつながりを分かりやすく例示したのちに、図面を考えて書けるように配慮する。	記入不要	設計製図Ⅰで学んだことを確認しながら、授業を進めるとともに、実習課題を設定した。説明が聞き取りづらい点は、改善を検討したい。個別に質問を受けるなど、実習課題を行った点もよかったと思う。
山本 浩二	材料環境科学	5	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	環境科学に関する知識を習得するとともに、毎年環境に関するデータがアップデートされるので、アップデートされた資料も取り入れて授業を行っている。材料環境科学という講義なので、材料に関連したトピックも交えながら授業を行う。	記入不要	環境問題を扱うので、毎年のアップデートが必要で、内容のアップデートはできた。
	先端高分子材料	5	後期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	先端高分子の教科書が市販には無いので、参考図書から授業の内容を構成している。高分子の反応機構に関しても言及する。	記入不要	先端的な内容の授業は出来たと考える。ただ、高分子は広範囲なので、電気電子に用いられる高分子など、自身のバックグラウンドと外れる内容に関しては難しかった。分野が偏っていると感じた。
	分析化学	3	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	教科書を用いて、教科書の必要最低限の内容を講義し、復習としてformを用いて小テストを行っている。教科書の内容が多いので、厳選して授業を行う。	記入不要	授業に関しては、内容を精選してきた結果、シラバスの内容を教授できていると感じる。しかし、formsの小テストは毎年、更新しているため、自分の計算ミスがあり、学生に迷惑をかけたと感じる。
	環境調和材料	専2	後期	○	×	×	×	○	×	×	×	×	環境に調和した材料に関する授業を行っている。内容は、エコマテリアルの考え方、持続可能性を加味した材料などをトピックに取り上げ、発展としてどのような材料を用いなくてはいけないのか考えられるように授業を行う。	記入不要	環境調和材料の科目ができた背景がわからないので、この授業で良いのか大変不安ではあるが、自身で構成した内容のことは伝えられていると思う。
山本 浩二	電子材料	5	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	電子材料について、身近な製品やデバイスを例に挙げ、その材料機能性と用途などを分かりやすく説明し、理解を深めるような心がける。	記入不要	受講者がいないので開講無し
	無機機能材料	4	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	無機材料について、身近な製品やデバイスを例に挙げ、その材料機能性と用途などを分かりやすく説明し、理解を深めるような心がける。	記入不要	メカニズムなどで一触類いところがあり、十分に学生が理解するために説明が不足していると思われる点があった。次年度に配布資料をより丁寧に作り直すことで学生の理解度を深める工夫を行いたい。
	無機材料	3	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	昨年度のアンケート結果をもとに、内容が難しくなりすぎないよう、授業資料やスライドなどを分かりやすく作成する工夫を改めて心がける。	記入不要	おおむね学生の評判も良く、試験の結果にも反映されているように感じた。
	材料工学実験	1	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	高専5年間で初めての工学実験であり、実験の面白さを通じて工学的観点での考察やデータのまとめ方などを身に付けることができるように心がける。	記入不要	非常に良い結果になった。来年度も継続していきたい。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	高専5年間で初めての工学実験であり、実験の面白さを通じて工学的観点での考察やデータのまとめ方などを身に付けることができるように心がける。	記入不要	非常に良い結果になった。来年度も継続していきたい。
	次世代エネルギー工学	専2	後期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	次世代に必要なとされる新エネルギー、再生可能エネルギーについて原理を分かりやすく、かつ昨今のトピックス、国の政策や海外の情勢なども含めた希望や進路、課題について学生への理解を促す工夫をする。	記入不要	優秀学生の理解度は高かったように感じた。一方で、国際情勢などの変化が激しく、それに伴うエネルギー産業などについて十分に説明できない部分もあったため、次年度はこれらも踏まえてリアルタイムで情報更新を行いたい。
山本 浩二	有機工業化学	5	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	有機化学工業の資源となる石油化学やそれらの応用先となる塗料、界面活性剤、香料、医薬品の様々な有機材料の精製と製造法、それらの機能について、身近な内容も交えながら分かりやすく解説する。	記入不要	1年留り開講の科目であったが、有機化学工業の観点から応用先のさまざまな有機材料の種類、製造、機能に関して、基礎的な内容から身近な応用例まで取り上げながら、興味深いものにしてもらえるような授業ができた。
	有機化学	3	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	有機化学の最も基礎的な内容であるため、わかりやすいパワーポイント資料と丁寧な解説により学生の理解度を高める。問題演習を定期的に入れながら解説時に理解をより深め、丸暗記ではなく自ら考えながら内容を身につけられるような授業を行う。	記入不要	学生からはスライド資料がわかりやすいと評価を受け、進路希望者にとっても今後の受験勉強に役立つような講義を行うことができた。授業中は分子模型なども使いながら、丸暗記ではなく考えながら理解することを徹底し、学生が自ら理解を深められるような講義となった。
	ものづくり実習	2	後期	×	×	×	×	×	×	×	○	×	ものづくりの原点である金属加工技術について、手仕上げ、機械仕上げ(フライス盤等)、旋盤、溶接、鋳造の実習を通して学ぶ。安全に対する意識の定着も心がける。	記入不要	担当の技術職員と連携し、安全に関する事項を学生に伝えながら、各チームの内容を学んでもらうことができた。毎回の実習の振り返りを行うことでより理解を深め、実習の経験を通して材料への興味関心を高めるために。

教職教育科 人文社会教養

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライド の使 用	イン タ ブ ル ア プ リ ス の 使 用	学習 記録 の 使 用	紙質 教材 の 配 付	BYOD による 授業 中の 資料 閲覧	マイク の 使 用	反響 板 実 施	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (過半科目のみ)	改善結果(改善後の改善)
■■■■■	日本文学	3	通年	○	○	×	○	×	×	×	○	×	タッチペンの使用に習熟し、なるべくホワイトボードを汚さないようにしたい。講義スライド(パワーポイント)の字数をできる限り減らし、ノートテイクの負担を軽減したい。	各クラスのアンケートへの回答者が10～20名にもより、正確な評価がつかめなかった。記述式回答を見ると、パワーポイント内容をノートに取ることを負担に感じている学生が複数いるようなので、必ずしも全部写す必要はないことをアピールしていきたい。	授業アンケートへの回答者がややリクラスによっては10名以上にもより、正確な評価がつかめなかった。記述式回答を見ると、パワーポイント内容をノートに取ることを負担に感じている学生がまだいるようなので、来年度はさらにブラッシュアップしていきたい。
	国語ⅠB	1ME	後期	○	○	○	○	×	×	×	○	×	タッチペンの使用に習熟し、なるべくホワイトボードを汚さないようにしたい。講義スライド(パワーポイント)の字数をできる限り減らし、ノートテイクの負担を軽減したい。	記入不要	まだ授業自体の学生評価は高くないので、魅力的な授業にするために、来年度はさらにブラッシュアップしていきたい。
	国語ⅠB	1CS	前期	○	○	○	○	×	×	×	○	×	タッチペンの使用に習熟し、なるべくホワイトボードを汚さないようにしたい。講義スライド(パワーポイント)の字数をできる限り減らし、ノートテイクの負担を軽減したい。	記入不要	ノートテイクの負担はやや減したが、まだまだ授業自体の学生評価は高くないので、魅力的な授業にするために、後期はさらにブラッシュアップしていきたい。
■■■■■	文学概論Ⅰ	5	前期	○	○	×	×	○	×	×	○	○	高専生の最終学年として、これまでの国語および文学の授業についての総復習として位置づける。改善としては、十分評価していただいているので、これまでと同様に学生が主体になり、自らの研究した内容を発表し、討論する。	記入不要	良い評価をいただいているようであるが、質問方法などを工夫して、学生参加の授業をさらに構築していきたい。
	国語Ⅱ	2	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	○	1年生の時に「国語ⅠA」を担当し、そのまま持ち上がった学年である。このことから1年生から継続している漢字学習、スピーチ、創作活動についての向上を目指す。改善点は質問をしやすいように工夫する。	持ち上がった学年でもあり、少し難度をあげたが、難しさと感じている学生もいるようである。教材が古典であったことも反映していると思うが、もう少し、質問事項を増やし、考える時間を多くとるように工夫したいと思う。	クラスによっては質問のできる雰囲気がつくれなかったようなので、特に工夫したいと思う。
	言語表現学特論	専2	後期	○	○	×	×	○	×	×	○	○	大学4年生の学年でもあり、これまでの国語および文学の授業についての総復習として位置づける。改善としては、十分評価していただいているので、これまでと同様に学生が主体になり、自らの研究した内容を発表し、討論する。	記入不要	良い評価をいただいたので、今後も専門科目の研究手法と、文学研究の方法論を意味のあるものとして、位置付けていきたい。
■■■■■	国語ⅠA	1	通年	○	○	○	○	×	×	×	○	○	評論や近代文学などを学ぶなかで、文章から筆者の主張などを正しく読み取ることのできる論理的思考力や教養を身に付けることができるよう、わかりやすい授業を心がけたい。	科によって評価に多少の差があるが、全体的に高い評価をいただいた。学生がもっと興味をもてる授業を目指すとともに、進め方や板書の行い方などにさらに工夫をこらし、より学生の理解が深まるように努めたい。	全体的に高い評価をいただいたが、学生がもっと興味をもてる授業を目指すとともに、進め方や板書の行い方などにさらに工夫をこらし、より学生の理解が深まるように努めたい。
	言語表現学	4	前期	○	○	○	○	×	×	×	○	○	学生が就職だけでなく、社会に出たあとに役立つことができるような日本語能力、コミュニケーション能力を身に付けられるような授業となるように心がけたい。	記入不要	教科書やその中で出てきた問題の解説について、これまで口頭と黒板で説明した部分を、スライドを使用してよりわかりやすく、なるよう工夫をして授業を構成した。また、グループ発表を取り入れ、同一グループ内での協力や意見のすり合わせを必要とすることで前期よりさらに高い評価で書かせるようになったうえでプレゼンテーションを実施した。結果、全体的に高い評価をいただいたが、学生がもっと興味をもてる授業を目指すとともに、進め方や板書の行い方などにさらに工夫をこらし、より学生の理解が深まるように努めたい。
■■■■■	歴史学概論	4	前期	○	○	○	○	○	○	○	○	×	東アジアにおける中国と近隣諸国との関係性及び今後の在り方を自らで模索出来る能力を養わせる。文章力・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく解説する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に世界遺産に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	記入不要	良い評価を頂いているので、その点は今後も引き続き実施していきたい。ホワイトボードを後方の席からも見やすくしていき、定期試験に新しい質問を加えようとも検討している。
	歴史Ⅰ	1	通年	○	○	○	○	○	○	○	○	×	歴史を学ぶことを通じ、学生に原因を追究し、問題を解決する能力(論理・思考)を養わせる。他者を理解し、コミュニケーションをはかる能力を養わせる。文章力・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく解説する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に世界遺産に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	学生にわかりやすく伝えるために大きくはつきり繰り返ししゃべることを中心にした。学生の理解度を意図しながら断片的な質問を投げかける時間をつとめた。学生に興味を抱かせるようにゲームのキャラクターなどを用い、身近な話題も取り入れた。学生が現ごとに自分達で調べて書き込んで来るアクティブラーニングの時間を取り入れているので、今後も続けていきたい。全てにおいてPPTを使用した。楽しんで学習出来るように毎回2問程度のクイズも取り入れた。文章構成力とプレゼン力付けさせるために世界遺産のレポートも課し、クラスの前で発表する時間も設けた。	良い評価を頂いているようなので、その点は今後も引き続き実施していきたい。ホワイトボードを後方の席からも見やすくしていき、定期試験に新しい質問を加えようとも検討している。
	歴史Ⅱ	2M	前期	○	○	○	○	○	○	○	○	×	歴史を学ぶことを通じ、学生に原因を追究し、問題を解決する能力(論理・思考)を養わせる。他者を理解し、コミュニケーションをはかる能力を養わせる。文章力・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく解説する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に世界遺産に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	記入不要	良い評価を頂いているようなので、その点は今後も引き続き実施していきたい。ホワイトボードを後方の席からも見やすくしていき、定期試験に新しい質問を加えようとも検討している。
	歴史Ⅱ	2IS	後期	○	○	○	○	○	○	○	○	×	歴史を学ぶことを通じ、学生に原因を追究し、問題を解決する能力(論理・思考)を養わせる。他者を理解し、コミュニケーションをはかる能力を養わせる。文章力・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく解説する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に世界遺産に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	記入不要	良い評価を頂いているようなので、その点は今後も引き続き実施していきたい。ホワイトボードを後方の席からも見やすくしていき、定期試験に新しい質問を加えようとも検討している。
■■■■■	経済学Ⅰ	5	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	①:社会(ニュース)と関連させる。②幅広い視野の提供	記入不要	ミクロ・マクロ経済がメインなので①の方を重視した。時間が足りなくなることが多かったためで情報の取捨選択につとめる。
	経済学Ⅱ	5	後期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	①:社会(ニュース)と関連させる。②幅広い視野の提供	記入不要	理論・歴史・政治経済学を重視した中で②の方を重視した。関心を示す学生が多かったため来年度も引き続き改善する。
	技術者倫理入門	4ME	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	①:動画教材の積極的な使用、②グループディスカッションの実施、③効果的なテーマ選定、④成果物に対する直接評価	記入不要	①と③は相当程度改善した。②と④は引き続き改善を続けたいと考えているが、②については来年度半減の予定。
	技術者倫理入門	4CS	後期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	①:動画教材の積極的な使用、②グループディスカッションの実施、③効果的なテーマ選定、④成果物に対する直接評価	記入不要	①と③は相当程度改善した。②と④は引き続き改善を続けたいと考えているが、②については来年度半減の予定。
	現代社会Ⅱ	2	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	○	①:穴埋め(アニメーション)とペンの効果的な使用、②:模範性の高いレジュメ、③:動画教材の使用、④:重点項目の強調、⑤:データの積極的な活用、⑥:学生からの提案を積極的に受け付ける	前期末に記入	①についてはスライド上で作画を試みたので来年度も引き続き改善する。②③④は引き続き課題とする。⑤は可能な單元と難しい單元があり、引き続き課題とする。
	技術経営	4	後期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	①:基本的な知識の教授、②:グループディスカッションの効果的な実施、③:成果物に対する直接評価、④:学生のプレゼンテーション技術の向上	記入不要	①については今年度から半期からの開講となったことから取捨選択に苦労したため来年度も引き続き改善する。②④については時間が足りず当初思っていたように実施できなかったため来年度も引き続き改善する。③は実施できる。

教員教育 数学教室

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライド の活用	17 ラフ ワーク シート (タ ブ レ ット)	市 販 教 科 書 の 使 用	BYOD による 演習 の 配 付	BYOD による 演習 の 配 付	マイ ク の 使 用	反 応 教 室 の 実 施	演 習 受 付 時 間	フ リ ー デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 時 間	目標・改善方針	前問アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善後の良否)
■■■■	線形代数Ⅱ	3M	後期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	教員からの授業であるが学習を促しているため夏休み中は授業のpdfファイルを公開する。教科書の内容より個別に質問を受けるようにしっかりと記述された資料を配布する予定である。数学が苦手な学生のために少なくとも再試では典型的な問題を明示するなどして配慮する。	記入不要	“代数”の抽象的な部分に戸惑ったり、他科目で時間的な余裕がなかったのか授業スライドを始めてもそれを前持って予習していた学生は少数にとどまっていた。説明方法や補足資料をもう少し用意したほうがよいのかもしれない。再試での問題の明示の約束は守ったが、再テスト前に勉強し直してくれた学生は少なかったようである。
	線形代数Ⅰ	2MES	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	教科書の内容より部分的に深く学ぶようにしっかりと記述された資料を配布する予定である。数学が苦手な学生のために少なくとも再試では典型的な問題を明示するなどして配慮する。	数学が苦手な学生たちにもう少し記述した授業、試験を心掛ける。授業に早めに行きタイムと同時に授業が始められるように準備する。	“代数”の抽象的な部分に戸惑った学生が少なからずいたが、後期に入ったあたりから予習してもらった方が効率的に学べることに気づけてきたようだった。再試での問題の明示の約束は守ったが、再テスト前に勉強し直してこない学生がいくつかを見過ごしてしまっていたことがあったので、早めに進捗するようにしていきたい。おおむねタイムと同時に始められたと思うが、PCのトラブルに起因して数分遅れてしまったことがあった。
	微分積分Ⅱ	3ES	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	教科書の内容より部分的に深く学ぶようにしっかりと記述された資料を配布する予定である。数学が苦手な学生のために少なくとも再試では典型的な問題を明示するなどして配慮する。	数学が苦手な学生たちにもう少し記述した授業、試験を心掛ける。授業に早めに行きタイムと同時に授業が始められるように準備する。	二年で学んでいるはずの微分や積分の理解度や計算力や小テストや夏宿題で出したのはある程度成果をあげたが、最後の微分方程式のところで演習を授業時間中にあまりできなかったもので、一人で教科書や授業スライドを眺めながらの学習な学生には厳しい授業だったかもしれない。説明方法や補足資料をもう少し用意したほうがよいのかもしれない。再試での問題の明示の約束は守ったが、再テスト前に勉強し直してくれた学生が少数だったためのもっと丁寧に指導すべきだった。
■■■■	数学特講Ⅱ	4	後期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多くとりたい。	記入不要	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多く確保できた。
	基礎数学A	1MCS	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多くとりたい。	演習に取り組む時間を比較的多く確保することができた。	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多く確保できた。
	代数学特論	専1	前期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多くとりたい。	記入不要	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多く確保できた
■■■■	数学特講Ⅰ	4	前期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	受験に対応する力を身に付けるため、線形代数の基本を復習しつつ、応用問題に取り組んでもらう。授業時間内ですべての問題を解くことは不可能なので、Max 4に解法を掲載するなどして、自学の習慣を身に付けてもらう。	記入不要	授業では基本事項を説明し、30分程度は問題演習の時間を取るようにしたが、3年生までには定着が悪い部分 1 次試験の意思、行列式や行列の違いなど、Max 4に時間をかけて説明したため、演習時間が短くなることになった。
	微分積分Ⅱ	3MIC	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	内容の説明は書き込み式の「授業プリント」にまとめておき、演習時間を確保する。前回の授業で学習した内容に関する小テストを毎回実施して、基礎学力の定着を図る。演習の時間は質問およびディスカッションが可であることを強調する。	前回の授業内容に関する小テストは毎回実施することができた。何回か説明する時間が長くなり、問題演習の時間が無くなる点があったので、授業プリントの内容を精査する。	前回の授業内容に関する小テストは、前期に引き続き後期も毎回実施して、基礎学力の定着を図ることができた。演習の時間に積極的に質問するよう、声掛けをしていきたい。
	基礎数学B	E	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	内容の説明は書き込み式の「授業プリント」にまとめておき、演習時間を確保する。教科書の問をピックアップした「課題プリント」を作成し、毎回提出してもらい、基礎学力の徹底を図る。演習の時間は質問およびディスカッションが可であることを強調する。	授業内容に関する演習問題は、毎回提出してもらうようにして、基礎学力の定着を図ることができた。演習の時間にディスカッションしていないときがあったので、繰り返しアタナフスするようにしたい。	毎回授業で演習問題(提出課題)を考え、次の授業で提出するように指示した。大半の学生は毎回プリントを提出し、基礎学力の定着を図ることができた。
■■■■	確率統計	4ME	前期	○	○	○	×	○	○	○	○	○	卒業研究時に実際にデータを使う場面を想定し、可能な限りデータを使う時間を確保する。確率に関する様々な証明に関しては反転授業の形で理解を深めることができるように資料を準備する。	記入不要	提出してもらう課題の完成度が大きく異なる現状があった。課題に関して、到達目標を明示していきたい。
	確率統計	4CS	後期	○	○	○	×	○	○	○	○	○	卒業研究時に実際にデータを使う場面を想定し、可能な限りデータを使う時間を確保する。確率に関する様々な証明に関しては反転授業の形で理解を深めることができるように資料を準備する。	記入不要	前期と比較し、提出してもらった課題の完成度は向上している。次年度はルーブリック等を提示し、学生がより取り組みやすい課題の課し方を工夫したい。
	微分積分Ⅰ	2MS	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	○	微積分の基本概念の理解を深めることができるような問題を提示、ディスカッションの時間を確保する。計算の力が確実になるように、ペーパーワークの役割を担うことができるような課題、小テストの実施を行う。	自己学習時間について、学生により大きな差がある状態であった。各学生の学力にあった課題を与えられるように到達目標ごとの定期的な課題を課すことしたい。	引き続き自己学習時間に差はあるが、自己学習時間が少なかった学生数は減っている。次年度も同様に自己学習時間の確保ができる課題を課していきたい。
	基礎数学B	1I	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	授業資料を各々の自学自習に活用できるように準備をするとともに、自学自習のペースをしつかるつめるように適切な頻度での課題を設定し、取り組んでもらう。	前期はあまり課せなかった課題に関して、後期は意識して作成していきたい。	課題だけでなく、小テストを実施し、前向きに学習してくれたと考えている。
■■■■	基礎数学A	1EI	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	引き続き演習問題に取り組む時間をできるだけ多く確保していきたい	演習に取り組む時間は比較的確保することができた	演習に取り組む時間は比較的確保することができた
	基礎数学B	1MCS	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	引き続き演習問題に取り組む時間をできるだけ多く確保していきたい	演習に取り組む時間は比較的確保することができた	演習に取り組む時間は比較的確保することができた
■■■■	微分積分Ⅰ	2EC	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	○	微積分の基本概念の理解を深めることができるような問題を提示、ディスカッションの時間を確保する。	前期末に記入	年度末に記入
	確率統計	4I	前期	○	○	○	×	○	○	×	○	○	確率統計学の基本的な用語の定義とその意味を正確に理解できるように資料を準備する。	記入不要	座学と演習のメリハリをつける必要があると感じた。次に担当する際には、その点を改善したい。
	数理解析学	専1	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	複素解析学の理論をこれまで学んできた微分積分学の理論を通して正確に理解できるように資料を準備する。	記入不要	演習時間を取ることに難しい。特に、留数定理を扱うのが試験直前になり、留数定理の演習時間確保が難しい。この点について、今後改善するために意図したい。

教員教育科 理科教員

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	動画ス ライド の使 用	インタラク ティブ ツール (クイズ ベン、電 子黒板な ど)の使用	学習 記録 の使 用	紙質 教材 の配 付	BYOD による 教材 の中 の使 用	マイク の使 用	反転 授業 実 施	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前年アンケートを基けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善後の良否)
■■■■	化学特講	4	後期	×	×	○	×	○	○	○	○	○	導入学試験科目に「化学」がある大学の編入学を目指す学生のための演習科目である。学生からの質問に積極的に答えたい。学科後期授業であり、授業評価は学科によって異なるかもしれない。	記入不要	回答者数が少なくてコメントを控える。
	化学	2MEIS	通年	○	○	○	×	×	○	×	○	×	双方向授業を心がけ、積極的に質問あるいは授業参加する学生にIPを付加し、累計を成績に反映させる。 デジタル教科書とプロジェクトを使用した授業を行う。全体に⑤質問の評価改善に努める。	⑤質問項目の評価改善に努める。	同じ授業を行っていてもクラスにより評価に差がある。概ねクラスの平均点が高いと評価も高い。⑤質問は2年生の改善課題である。
	化学	1MEI	通年	○	○	○	×	×	○	×	○	×	高専初年度の学生を惹きつけてわかりやすい授業を心がける。積極的に質問あるいは授業参加する学生にIPを付加し、累計を成績に反映させる。 デジタル教科書とプロジェクトを使用した授業を行う。全体に⑤質問の評価改善に努める。	概ね良好な授業が展開できた。	同じ授業を行っていてもクラスにより評価に差がある。概ねクラスの平均点が高いと評価も高い。
■■■■	物理学特講	4	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	○	前年度同様、対面と同時にTe meを介したオンライン学習も可能なとした授業形態を続けており、このやり方で欠席者も受講でき、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があり、ほぼ全てのクラス・項目において良好であったので、引き続き同様な進め方をしていきたい。	記入不要	全てのクラスで、ほぼ全ての項目で良好なアンケート結果であった。唯一「⑧シラバスの記載内容を参考にしましたか？」だけがクラス平均と同等か下回っていたが、特に重視していない。来年度以降も同様な授業形態で進めていきたい。
	物理Ⅳ	4EI	通年	○	×	×	○	○	×	○	○	○	前年度同様、対面と同時にTe meを介したオンライン学習も可能なとした授業形態を続けており、このやり方で欠席者も受講でき、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があり、ほぼ全てのクラス・項目において良好であったが、演習問題を解説するよりは各自で解いてもらった方が効果的に思えたので、今年度はそのようにしていきたい。	両クラスにおいて、ほぼ全ての項目で良好なアンケート結果であった。後期も同様な講義形態で進めていきたい。	全てのクラスで、ほぼ全ての項目で良好なアンケート結果であった。唯一「⑧シラバスの記載内容を参考にしましたか？」だけがクラス平均と同等か下回っていたが、特に重視していない。来年度以降も同様な授業形態で進めていきたい。
	物理Ⅲ	3MEIC	前期	○	×	○	○	○	×	○	○	○	前年度同様、対面と同時にTe meを介したオンライン学習も可能なとした授業形態を続けており、このやり方で欠席者も受講でき、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があり、ほぼ全てのクラス・項目において良好であったので、引き続き同様な進め方をしていきたい。	記入不要	全てのクラスで、ほぼ全ての項目で良好なアンケート結果であった。唯一「⑧シラバスの記載内容を参考にしましたか？」だけがクラス平均と同等か下回っていたが、特に重視していない。来年度以降も同様な授業形態で進めていきたい。
	物理学特論	専1	後期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	前年度同様、対面と同時にTe meを介したオンライン学習も可能なとした授業形態を続けており、このやり方で欠席者も受講でき、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があり、ほぼ全てのクラス・項目において良好であったので、引き続き同様な進め方をしていきたい。	記入不要	全ての項目で良好なアンケート結果であった。来年度以降も同様な授業形態で進めていきたい。
■■■■	物理Ⅳ	4H	通年	×	×	○	×	×	×	×	○	×	前期は力学、後期は電磁気学を行う。前期は復習の面が強いが、基礎として重要であるため丁寧な解説を心がける。	質点および剛体の力学分野。アンケート結果は良好で大きな改善点は要しないが、重要な問題は丁寧に説明するように心がける	電磁気学分野。アンケート結果は良好であったが受講者にとって不慣れな分野であるため、より多くの演習課題を用意し適切な理解が得られるように努める。
	物理Ⅰ	I	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	速度・加速度・変位から始まり、運動方程式、仕事とエネルギー、熱の範囲までを取り扱う。演習の時間を出来る限り多くとり、基礎的な理解の定着に努める。	速度・加速度・変位の関係、および運動方程式のたて方について一定の理解が得られたように感じている。引き続き丁寧で簡潔な解説を行えるよう努める。	エネルギーの取り扱いの理解度に関する不安がある。アンケートは良好であったが、引き続き丁寧で簡潔な解説が行えるよう努める。
	物理Ⅲ	3S	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	振動と波動、その具体例として音と光について学ぶ。工学の基礎としても自然現象としても重要な分野であり、丁寧な解説を心がける。	記入不要	アンケート結果は良好であったが、演習実験と演習のバランスが悪かったように思う。次年度以降改善に努める。
	生命工学	専2	後期	×	×	○	×	×	×	×	○	×	生体膜を介した、あるいは溶液中での物質の移動を物理化学的な観点から理解し、生命現象の理解を深める基礎とする。	記入不要	生命現象を物理科学、あるいは数理科学的な側面から考えることができたのなら幸いである。次年度からは受講者の様子を見て講義内容そのものを柔軟に変えていけるよう準備する。
■■■■	物理Ⅱ	2	通年	○	×	○	×	×	○	×	○	×	前期は力学と電磁気の講義、後期は実験を行う。講義は分かりやすい説明を心掛ける。実験は主体的に行えるように導く。	質問しやすい雰囲気を作るように心がける。	実験に関しては大きな問題がないので、これを継続する。
	物理Ⅳ	4CS	通年	○	×	○	○	×	○	×	○	×	前期は力学、後期は電磁気学を行う。教科書を読んで理解できる力を付けさせる。	学生の理解度に留意し、丁寧な説明を心がける。	学生の興味関心を高められるよう、解説の仕方を工夫していきたい。

教員教育科

外国語教育

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	インタラク ティブ ツール (クイズ ペン、電子 黒板など) の使用	市販 教材 等の 活用	紙媒体 教材 等の 活用	BYOD による 授業 中の 資料 共有	マイク の 使用	反転 授業	質疑 応答 時間	フリー ディス カッション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを基けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善後の負荷)
〇〇〇〇	英語Ⅱ	3ACS	前期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	技術英語に関するテキストも利用した授業内容のため、語法解説や読解の時間が長くなってしまいがちだが、できるだけペアワークで学生に英語使用を増やすことを心掛ける。	記入不要	ペアワークによりある程度は学生に英語使用の時間を作ることができた。
	英語Ⅱ	3E1	後期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	技術英語に関するテキストも利用した授業内容のため、語法解説や読解の時間が長くなってしまいがちだが、できるだけペアワークで学生に英語使用を増やすことを心掛ける。	記入不要	ペアワークによりある程度は学生に英語使用の時間を作ることができた。
	英語特講	3E1	前期	×	○	○	○	×	×	○	○	○	英語を使った会話中心の授業内容のため、授業前後(教室外)でのあいさつ段階から積極的に英語を使用し、授業外での自然な英語使用につなげる意識づくりを行う。	記入不要	授業前後の学生とのあいさつを英語で行うことを増やせた。
	英語特講	3ACS	後期	×	○	○	○	×	×	○	○	○	英語を使った会話中心の授業内容のため、授業前後(教室外)でのあいさつ段階から積極的に英語を使用し、授業外での自然な英語使用につなげる意識づくりを行う。	記入不要	授業前後の学生とのあいさつを英語で行うことを増やせた。
〇〇〇〇	実用英語	5	前期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go for his course was to improve students' ability at a 4-week long English speech topics, writing English speech topic, and English oral communication ability.	Overall, he evaluated me as good, but then ⑤: "Did he study the ref r to the syllabus?" received a lower rating. Since the syllabus provides only a brief a pl me in, I believe he lower rating reflects the fact that more emphasis is placed on a pl me in given during re ul r lesson. nd he u h TEAMS.	I need to induce m re opportunity for students to mploy technology in he areas ion of he weekly speeches.
	英語ⅤE	5	後期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go for this course were to help students develop more advnced cogntive and practical experience rearing more detailed English speech outlines, to improve their English oral communication skill, and to fur h r improve their English writing ability.	記入不要	I need to take more time during he class sesson to offer person l assistance in pr per writing.
	コミュニケーション英語Ⅰ	4	前期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go for this course were to give stud rta practical writing, speech t pte; construct ing rough speech ou line; finding relevant data, etc. and/or outa i na fr m he lit mat or a h r e course; and to prac ice rehear ing and expressing h r oratory skills by enge ing in self responses, persuasive motive i na, and informative speech contents.	記入不要	Students may need addition l h to understand ng how to pr perly follow instruct i na, thereby impro ng their understanding o diff r nt types of speeches.
	英語ⅡA	2C	通年	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go for this course were to help students prac ice a 4-week long En h speech t pte, develop ng he main p into concerning t pte, develop ng he come ponding int-level idrmp into for ea h main point, rec ing devel ping hree second-level sub-points o reasp ng ng to their int-level subrpta, and to prac ice En h h- speaking by ing En h h brain usage speeches in which hey are instructed n or i o remember i na hile such as p u ng eye.	Overall, he evaluated me as good, but then ⑤: "Did he study the ref r to the syllabus?" received a lower rating. Since the syllabus provides only a brief a pl me in, I believe he lower rating reflects the fact that more emphasis is placed on a pl me in given during re ul r lesson. nd he u h TEAMS.	It would be v ry helpful in his course to be m te h w h a na live-Japanese pe her to se sit in helping students understand he course re ulments and to fe litate learning to get rel.
	技術英語Ⅰ	専1	前期	○	○	×	○	○	○	×	○	○	My go for this course were to help students "devel p En h h r r presents ion ability by studying effective pres rta ion techniques o h as eye contact, gestures etc., and to learn pres i and useful words, phrases nd express ions fr r nd ree rta i na. Stud rta w l be tau ht how to prep re En h h r r presents ions by shaping their ideas into lo l out lines nd come pon ng PowerPoint presenta ions.	記入不要	I w l d like to find a better way to to m he students pay atten i n class or to imp rve my a bility to convey inf rme ion.
	技術英語Ⅱ	専2	後期	○	○	×	○	○	○	×	○	○	The goals of this course re for her improve stud rta ability to create nd live En h h r r presents ions by focusing on reasp ng re ion through an only se of group sess ion techniques and an 4-week lecture ng r ng he expert role of team rta, to acquire script PowerPoint. he coordina i n and PowerPoint slide transion k ll he ough lectures and practical plication as hey create effective presentations.	記入不要	With his course, students are at a level where hey need to be iv n more freedom to create h r speeches and PowerPoint files.
〇〇〇〇	英語ⅤC	5	前期	○	○	○	○	○	×	○	○	×	英語で日本文化を伝えるためのメロロギーの習得、英語による読み・書く作りのスキルをみがく。	記入不要	前期末に記入
	英語ⅠA	1	通年	×	×	×	×	×	×	○	○	○	高校英文法を履修し、習熟度別の演習を通して、「読む・書く・話す」基礎を構築する。	全体的に評価は良いが、⑤「授業の予習・復習・試験勉強」にシラバスを参考にしたか」についてはやはり評価が低かった。それでも他者からの評価と比べると評価はむしろ良いと見える。ModuleやTeams上の教材の周知を更に強化することで、教材の活用を予習・復習に活用して欲しい。	全体的に評価は良いが、⑤「授業の予習・復習・試験勉強」にシラバスを参考にしたか」についてはやはり評価が低かった。単語を覚えるか全体的な構文として評価することもできる。評価の理由状況やModule上の利用状況を見る限り、十分活用していると思われる。
〇〇〇〇	英語ⅡB	2	通年	○	○	○	○	○	×	○	○	○	1年次で学習した知識・技能を用いて、現代的な話題について読み、聞き、読解力と考える力、異文化を理解し、自分の考えを伝える力を養う。	全体的に評価は良かったが、⑤の「学生はシラバスを参考にしたか」の項目は評価が低かった。前期授業でシラバスを見せながら説明しているため、後期の評価は高い。成績評価方法はシラバスよりももっと具体的な対面での説明しているため、シラバスを見なくても困らないようにしているためである。後期も具体的なことは対面での説明するようにしたい。	⑤についてはやはり評価が低いが、予習や辞書検索など、シラバスの要点はつかんで日々の授業に活かしていることはわかるので、良いと思う。②の「成績がシラバスの評価方法・基準に合うものか」では高い評価を得ているので、評価方法についても周知できている。
	実践英語Ⅰ	4	通年	○	○	○	○	○	○	○	○	×		前期末に記入	年度末に記入
〇〇〇〇	英語ⅠB	1	通年	○	○	○	○	○	×	○	○	○	社会、科学、文化などに関する英文の内容を理解する読解力・理解力、内容に関する質問に答えたりできる日本語及び英語でのコミュニケーション能力を身につける。	前期末に記入	年度末に記入
	英語表現論	専1	前期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インプット・英文読解や内容理解)とアウトプット(テキストの履修について調べたことをPPTを使って英語でプレゼンする)を19人スよ取り入れ、大学と英語で履修するとともに、英語で発表やクラスでの批評を希望できるような評価を設定する。	記入不要	英文学のテキストを用いた授業ではあったが、②と⑤を除き、すべての項目で高評価であった。履修生の学生が楽しみを持って履修の英文学教材を履修したことにより、「自分の将来との関わり」についても高評価であった。今後は②の点に活用した授業を充実させていきたい。
〇〇〇〇	英語ⅡA	2ME5	通年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	学習者の成長では英文読解(文法や英文表現)においてグループワークで学び合いながら学習を進め、オーストラリアの教材を用いてディスカッションの強化を行う。ローソン先生とのスピーチ作成及びプレゼンの授業では、チャタリススピーチの英語を聞き取り、英語での質疑に答えられるように前夜や手助けを行う。	全体的に評価は良かったが、⑤の「学生はシラバスを参考にしたか」の項目は評価が低かった。前期授業ではシラバスを説明しているが、具体的な授業方法については授業中に詳細に説明している。シラバスでは簡単に説明しているため、実際の授業やTEAMSでの説明を重視している結果だと考えている。	②の「学生が積極的に理解しようとしたか」が上昇した。ローソン先生とのスピーチの授業であり、チャタリススピーチでの英語を聞きとることに協力したことがうかがえる。チャタリススピーチによる授業がいかに重要であることを示している。

教職教育科 体育教員

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	課題 スライ ドの使 用	イン タ ブ ラ フ アイ フ ール (タッ ペ ン、電 子 黒 板)	市 部 委 員 会 の 使 用	紙 質 体 育 実 施 の 配 付	BYOD による 活動 中 の 実 施 配 置	マイ ク の 使 用	反 転 授 業 実 施	習 得 受 付 時 間	フ リ ー ア イ ス カ ッ シ ョ ン 時 間	目標・改善方針	前年アンケートを受けての改善方針 (本年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■■	保健体育	3全	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	身体を効率よく使えるように体幹を意識させながら授業を進めていき、結果として球技のボールコントロールが出来るようになるように進めたい。	ウォーミングアップから体幹を使う種目を取り入れて、腹圧を使いながら運動できるようにポイントを説明した結果、身体を徐々に使えるようになってきた。このまま後期につなげていきたい。	達成度を点数化して周知したので、学生たちも積極的に取り組んでくれ、実技能力が身についた学生が多かったのでよかった。
	保健体育	4ES	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3年生時に培った能力でテニスの動きがすぐに身につけられるかどうか確認しながら進めていきたい。また、今年度で体育の授業は最後になるので生涯を通じて運動に親しみ姿勢を身につけさせたい。	前期のテニスは体裁きによるラケットコントロールがうまく出来た。後期もポイントを説明しながら生涯体育につなげていきたい。	何事にも積極的に取り組む学生が多かったため、事前準備から実技への取り組み、後片付けなどクラス全体で取り組むことが結果的に能力のアップにもつながった。次年度以降も実技に対する取り組み姿勢を中心に指導していくことで効果を期待したい。
■■■■■	保健体育	2全	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	健康の維持増進のために、なるべく運動時間を増やし、身体活動量の増加につなげたい。また、チーム競技を実施するためのコミュニケーションを取る機会を増やし、協力することの大切さを学ばせたい。	今年度前期で設定しているチーム競技として、ソフトボールを設定しているが、天候の影響や活動時間の制限の兼ね合いから充分な活動を実施する事ができない場面もあった。後期の天候の良い日に引き継ぎ、実施し、更なる活動時間の確保、コミュニケーション能力の向上を図りたい。	後期は、体育館練習を中心に実施し、ゲーム動作を中心とした内容であったため、学生同士のコミュニケーションも多くはかられた。自由記述のアンケートでも「楽しく運動できた」との回答を得た。次年度も継続して学生主体で協調し合いながら運動環境ができる授業構成を準備し、実施していく。
	保健体育	4M	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	協力する気持ちも大切に授業を進めていく。また、準備片づけ等もしっかり行い、自ら学ぶ姿勢を養いたい。体育授業最終年度であるので、これまでに経験・習得してきた運動技術を再確認しながら、次年度以降も自ら生涯体育を楽しむようとする意欲・態度の涵養を目指す。	テニスというこれまでに経験したことのない種目であるため、ボールコントロールがうまく行かず苦労入る学生も見えたが、皆積極的に体を動かすことを楽しんでいる様子であった。生涯体育のひとつの選択技として、良い経験をしてもらえていると感じている。	後期は、テニスに加え、これまでに学習した種目を中心とした内容であったため、学生同士のコミュニケーションも多くなれた。自由記述のアンケートでも「楽しく運動できた」との回答を得た。次年度も継続して学生主体で協調し合いながら運動環境ができる授業構成を準備し、実施していく。
■■■■■	保健体育	1全	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1年の保健体育では、保健と体育実技に分けて行う。保健では、健康に関する知識を得るとともに、交通安全や応急手当、熱中症などについて知識を深め、日常生活で活かせることを目指す。体育実技では、バスケットボールおよび卓球の個々の実技能力の向上とチームとして目標を共有し、目標を達成する力を養うことを目指す。	前期では保健分野・体育実技分野を計画通りに実施できた。後期は卓球を設定しているが、実技能力の向上とチームとしての協調性を重視して、授業展開する。	後期は、新型コロナウイルスの流行により2学科で学級閉鎖があった。1週間ずれ込んだ授業計画を後半で調整することになったが、実技時間の確保が難しかったことから、実施内容が多すぎたように感じた。しかし、個人の实技能力の向上とチームでの協調性については全クラスにおいて必要な達成レベルに達していた。次回には、実施内容を適正し、実技実施により多くの時間を当てられるように工夫する。
	保健体育	4C	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	4年生では、テニスの個々の実技能力(フォア/バックハンドストローク/サーブ)の向上とペアとの連携、選択種目における試合の運営力や自主性を養うことを目指す。	前期の後半では、天候に恵まれずテニスのチーム戦の実施が困難であった。後期の選択種目とのバランスを考えつつ調整しながら実施する。	前期実施が困難であったテニスのチーム戦を後期に回したが、持久走や選択種目との調整が難しい結果となった。天候による授業の対応力について、今後検討していく。

機械工学科(令和6年度)

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの使 用	インストラク ションカード の活用	学習 意欲の 向上	授業 改善 策の 実施	BYOD による 授業 改善 策の 実施	マイク の使 用	反転 授業 策	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前南アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	機械設計製図Ⅱ	4	前期	○	×	○	×	○	○	×	○	○	簡単な導入の後は、これまで学んだ知識(特に材料力学)を自分で思い出しながら自ら進めていくスタイルとする。	記入不要	材料力学、材料学等、これまで学んできた内容の理解が深まるように工夫し、効果があったと感じている。
	非破壊検査工学	専1	後期			×	×	○	○	×	○	○	基礎的な要素知識習得の後は、現実・現場における諸問題について考えるスタイルとする。	記入不要	産業界で直面している問題を多く取り入れ、非破壊検査の重要性を感じてもらえることができた。
	材料力学Ⅰ	3	前期のみ担当	○	○	○	○	○	○	×	○	○	目に見えない力の働きを、感覚的に習得できることを主眼とする。	記入不要	本格的に始まる専門科目のひとつであることを考え、極力身の回りの機械や現象と結び付けた内容とした。
														記入不要	
■■■■	水力学	4	通年							×	○	○	さらに多くの演習問題を解かせることにより理解度を高め、魅力的な授業となるように授業内容の説明を工夫する。	前期のアンケートでは②が4.5で、他の項目は4.6～4.8と高いので、引き続き「目標・改善方針」を心掛けて授業を行う。	試験後の学生の意見要望では、分かり易いという記載が多かったが、授業中の演習問題を更に多くて欲しいという意見も数 名あったので、次年度に対応したい。
	熱・流体工学基礎	3	後期							×	○	○	授業の準備を早めに行い、試験後の「意見・要望」で良い記載が増えるように心掛ける。	記入不要	学年末試験後の学生の意見要望では、分かり易いという記載が多かったが、演習問題を更に増やして欲しいという意見が あった。次年度に対応したい。
	流体力学特論	専1	前期							×	○	○	他学科出身の学生に分かり易い説明を心掛ける。	記入不要	アンケートでは、説明がよく聞こえてないというので、次年度は大きな声で説明するように心掛ける。また、パワポの手書 き部分が見やすいように、文字を丁寧に置くように心掛ける。
														記入不要	
■■■■	機械設計法	4	後期	○	×	○	×	×	×	○	○	○	演習課題、ノート提出を毎週行って、理解度を確認しながら進めていく。	記入不要	学生の理解を確認するために、毎週、演習課題を与え、提出した学生は全員合格した。
	機械設計製図Ⅰ	3	通年	○	×	×	×	○	×	×	○	○	提出期限を明確にして、毎週の進捗状況を確認しながら進めていく。	授業に、興味や関心を持たせるために、設計・製図する実物(玉形弁)に触れるようにする。	学生に、毎週の進捗状況を報告させながら進めた結果、全ての学生が期限内までに提出できた。
	機械力学	4	通年	○	×	○	○	×	×	○	○	○	演習課題の提出を毎週行って、理解度を確認しながら進めていく。	学生の理解の程度を確認するために、毎週、演習課題やノートの提出を行い、それに対応して教える内容を工夫する。	学生の理解を確認するために、毎週、演習課題を与え、全て提出した学生は全員合格した。
	信頼性工学	専1	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	演習課題を毎週行い、理解度を確認しながら進めていく。	記入不要	学生の理解を確認するために、毎週、演習課題を与え、全て提出した学生は全員合格した。
	機械要素	4	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	○	演習課題、ノート提出を毎週行って、理解度を確認しながら進めていく。	記入不要	学生の理解を確認しながら進めた結果、全ての学生が合格した。
														記入不要	年度末に記入
■■■■	熱工学	5	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	×	項目ごとに課題を与えることで、実際に学んだ知識をどのように使えばいいかを理解できるように努める	記入不要	出席していた学生数11名、アンケート参加者4名のため、判定できない。
	熱・流体工学基礎	3	後期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	毎週課題を課し、提出期限を意識させながら実施することにより学力の向上を図る	記入不要	昨年度に比べて全体的に高評価となった。ただし、⑧のシラバスを参考という点においては、昨年度同様3.9であったので、 第1回の授業時だけでなく、何回かシラバス、特に評価方法)の紹介を入れていこうかと考えている。
	機械製図Ⅱ	2	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	グループワークの中でコミュニケーション能力の向上を図るとともに、提出期限を意識させながら作図が行えるように努める	記入不要	概ね80%以上の結果であったが、①が3.8、⑧が3.8と低かった。履修は2回の実施であるため、製図室やクリセンでの説明が 大判になり、声が聞かないことがあったかもしれないため、後期の学生に確認することとする。また、⑩については図面の精切 等により、学生側の意識を向上させたい。
	機械製図Ⅰ	1	通年	○	×	○	×	○	×	○	○	○	履修では演習を入れて授業進行することで中だるみを防止し、後期から始まる図面描きにおいてはフリーディスカッションを 取り入れることで製図能力の向上を図る	概ね80%以上の結果であったが、①が3.8、⑧が3.8と低かったため、夏季休業中の課題や提出物の再提出等を促すことで、 自己学習部分の時間確保を図りたい。また、後期は図面の時間が多くなるが履修においては大きな声で学生に確認しながら 授業を進める。	①は3.8から4.3に、⑧は3.6から4.0に改善した。⑩の自己学習時間が学生平均で10時間ほど少なくなっていることが残念であ る。
														記入不要	年度末に記入

機械工学科(令和6年度)

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	インストラ クタの 授業 態度	授業 態度の 評価	BYOD による 授業 中の 活用	マイク の 使用	反 映 板 の 使 用	実 験 室 の 使 用	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	事前アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善後の良否)
■■■■■	ロボット工学	5	後期		○	○	×	○	×	×	×	実際に手を動かして式の導出を行わせ、記憶中心の授業にならないように配慮する。最新のロボット技術を紹介する機会を増やして、身近な話題をエンジニアの視点で考える機会を考える	記入不要	かなり丁寧に時間を掛けて、手を動かすように促した結果、ほぼ全ての学生が式の導出を授業時間中に完了できた。
	機械力学	4	後期のみ担当		○	○	×	○	×	×	×	実際に手を動かして式の導出を行わせ、記憶中心の授業にならないように配慮する	記入不要	式の意味を理解して貰えるように繰り返し丁寧に説明したことで、大半の学生は自力で式の導出を行えるようになった。
	ロボットデザイン論	3	前期		○	×	×	○	×	○	×	最新のロボット技術(主に実用例)を紹介してRTが身近かつ今後避けて通れない工学的なトピックスであることを広い視点で理解する助けになるように心掛ける	記入不要	工夫はしたつもりだが、どうしてもC科の学生には難易度が高く感じられてしまうようである。次年度は特にC科の学生の満足度を上げるための工夫と、C科学生からの聞き取りを並行して授業改善を図りたい。
	総合実習	3	通年		○	×	×	○	×	×	○	SOL DWORKSを用いた設計を全員が最低限可能になるための工夫を続ける。実際に設計している様子を中央モニターなどを用いて学生にも見せることで、基本的な使い方だけでなく、効果的な使い方にも気づく機会を与える	前期は設計中心で学生によって難易度の差があった。後期は工作中心となるので、班長と共に全員が効率的に作業を行えるようにスケジュール管理を改善する。ネジの在庫が分かり難い問題があったので、クエーションセンターに改善をお願いした。	SOL DWORKSによる設計のノウハウを極力、授業中に手モンストレーンを通して見せたことで、トラブルは少し減ったように見える。ただ、一部、全く説明を聞いていないあるいは説明が理解しにくい説明だったのかも知れない学生がおり、ほぼ完成したモデルが修正不可能なレベルで合致の矛盾を生じている例があった。次年度は重点的にこの合致の問題を最初に説明する。
	メカトロニクス演習	3	通年		○	×	×	○	×	×	×	昨年度は本授業の初年度だったため、授業計画に非効率な点があった。今年度は昨年の実績を元にして、無理なく自然な流れで各項目を体験できるように授業計画を改定した。	昨年度に比べて座学から実習へのタイムラグが短くなるように改善された。後半も同じ方じで取り組む。	改定した授業計画に多少、見落としがあったため、最後に辻合わせをしなくてはならず完璧にスムーズな進行にはならなかった。
	機械工学実習	2	後期		○	×	×	○	×	×	×	機械加工の知識とスキルもとても重要だが、それだけではなくCADを使った設計、レーザー加工機等を用いたラピッドプロトタイプング、ワンボードマイコンを使った簡単な制御を通して、活用できるツールの幅の広さと手軽さを低学年の内から気付かせ	記入不要	当初の目的は達成できたと思われる。
	基礎メカトロニクス	5	後期		○	×	×	○	×	○	×	M科以外の学生にもメカトロニクスの基礎的な知識や考え方を理解できるように、分かりやすい用語の使用は具体的な実例を用いながら授業を進める。	記入不要	最終的にほぼ電子情報工学科の学生のみになった。授業中にあまり反応が無いので講義内容が理解しにくい、あるいはあまり興味のない話題をしてしまっているのだろうか？と不安に感じていたが、毎週の宿題や定期試験での解答は意外としっかりした内容が多いので安心しました。
■■■■■	機械運動学Ⅱ	3	前期	○	○	○	×	○	×	○	○	専門科目の導入教育の位置付けもあるため、低学年次に学んだ物理学と数学との関連付けを意識しながら、進捗状況をコントロールし、学生の理解度の把握に努める。	記入不要	毎週課題を課したが、期限を守る事に注視し理解度が低い学生提出した学生が、一定数見受けられたため、翌週の冒頭に課題解説を丁寧にを行うように心掛けた結果、学習習慣の向上に繋がった。
	機械設計基礎	2	後期	×	○	○	×	○	×	○	○	工業製品などを例示して機械要素を十分に理解し、次年度以降の実習科目に繋がるように興味関心が高くなるような授業となるように努める。	記入不要	次年度以降の実験実習科目と関連付けて説明することで、授業中に質問等もあり活気のある授業となった。
	機械工作実習	1	前期のみ担当	×	×	○	○	×	×	×	○	初回授業に安全教育を丁寧に実施、興味・関心を持つことを重点において授業を進める。実習報告書の記述はこれからのレポート等の基礎となるため、細かな指導を行うように努める。	記入不要	初回は報告書の書き方に戸惑いが見られたものの、毎週添削することによって他人に物事を伝えるための報告書を書く技術が向上した。
	材料力学Ⅱ	4	前期	○	○	○	×	○	×	○	○	「材料力学Ⅰ」で修得した知識を活用・発展させ、問題解決できる能力を身に付けられるように多くの問題を提供し、設計製図・ものづくり等で活用できるように努める。	記入不要	演習問題を多く提示した結果、試験前の課題への取組時間が増加したことで知識の活用ができるようになっているが、応用・展開できる能力の定着にまでは至っていないため、応用力の養成に注力して導出過程の重要性を意識付けるように努める。
■■■■■	制御工学	4	前期	○	○	×	×	○	○	○	○	実例等を多く取り入れ、より実践的な内容にする。	記入不要	概ね達成でき、アンケート評価もよかった。
	アクチュエータ工学	4	前期	○	○	○	×	○	○	○	○	回転計モータ設計の詳細をより詳細に行い、その理解度を高める。	記入不要	内容について難解なところがあり次年度は改善の余地がある。
	電気・電子回路	3	通年	○	○	×	×	○	○	○	○	後半の流れが良くなるように工夫する。具体的には内容、説明する順番等に気を配る。	概ね達成できたように思われるが、アンケート項目から定量的な評価は困難であった。	後半の流れを工夫した。アンケート項目から定量的な評価は困難であった。
	メカトロニクス演習	3	通年	○	○	○	×	○	○	○	○	はんだ付け作業の内容を時短し、より少ない時間ではんだ付け作業を完了し、その時間をb1に回せるようにする。	はんだ付け作業が長くなってしまい、達成することができなかった。	概ねすべての内容を実施することができた。
	機械工学実習	2	後期	○	×	○	×	×	×	○	○	安全に実施できるようにする。	記入不要	怪我無く修了することができた。
	工学基礎実験	1	前期	○	○	○	×	○	×	○	×	レポートへの取り組み姿勢を重点的に説明する。	記入不要	レポートへの取り組みを丁寧に説明した。
	実験メカトロニクス	専2	後期	○	○	○	×	○	×	○	○	昨年と引き続き、実践的な内容を含めた内容にする。	記入不要	実践的な授業内容にした。
■■■■■	機械設計製図Ⅲ	5	後期	×	×	○	○	×	○	×	×	流体力学(後期)と関連付けて、流体機械の設計ができるよう掛ける。また、集大成として設計書に応じた図面を自ら完成させることを目指す。	記入不要	流体力学が半期になり、流体機械の設計との関連付けが昨年度よりも難しくなったが、ほとんどの学生がCADの扱いに慣れ、機械設計製図の集大成として設計書に応じた図面を自ら完成させることができた。
	熱力学	4	通年	×	×	○	○	×	○	×	×	毎授業、演習問題を解き、テスト対策をする。物理学における熱力学の位置づけや工業熱力学の特徴、考え方を伝える。	引き続き、授業内で、丁寧に演習解説を行い、思考力を養う授業を行う。	授業で演習問題を解く時間を設けることで、受講生の理解を助けることができた。
	総合実習	3	前期のみ担当	○	×	×	×	○	×	×	×	実社会での設計／生産技術、研究活動に活用できる技術とマナーを身に付けることができるよう指導する。また、日報を通して、活動の振り返り習慣をつけること、期日を守ることを徹底する。	記入不要	ほぼ全員が、実習報告書を期限内に提出できた。
	流体力学	5	前期	×	×	○	○	×	○	×	×	実験の流れと対応させて、一層わかり易い授業となるように心掛ける。また、遠心ポンプに關しては機械設計製図の授業との関連性を説明し、他の流体機械に關しては例題を中心に実際の問題への応用を期待できるように掛ける。	記入不要	声の大きさについては一部聞き取りにくい時があるようなので、さらに心掛けたい。

機械工学科(令和6年度)

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの使 用	インストラ クショナル ビデオの使 用	作業 実習の 使用	組立 実習の 配付	BYOD による 開講 中の 演習 実習	マイク の使 用	反転 授業 実習	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前年アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善後の改善)
■■■■■	材料学	4	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	授業中に十分な量の演習を課し、授業内容を活用できるよう指導する。	記入不要	十分な演習量を確認することが出来た。スライドが読みにくいという意見があったため、次年度は配布資料と授業スライドの改善を心がけたい。
	弾・塑性学	5	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	授業中に十分な量の演習を課し、授業内容を活用できるよう指導する。	記入不要	十分な演習量を確認することが出来た。スライドが読みにくいという意見が多かったため、次年度は配布資料と授業スライドの改善を心がけたい。
	材料力学Ⅰ	3	後期のみ担当	○	○	○	×	○	×	×	○	○	授業中に十分な量の演習を課すとともに毎週課題演習を課し、授業内容を活用できるよう指導する。	記入不要	十分な演習量を確認することが出来た。スライドが読みにくいという意見が多かったため、次年度は配布資料と授業スライドの改善を心がけたい。
	機械工作実習	1	後期のみ担当	×	×	○	×	×	×	×	○	×	実習を通じて安全管理と整理整頓の重要性を理解させる。	記入不要	安全管理および整頓について十分に指導できた。また、履修学生のほぼ全員が期限内に報告書を提出できていた。

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

電気電子工学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	インタ ラクティブ 教材の 活用	授業 資料の 活用	板書 授業の 活用	BYOD による 授業 資料の 活用	マイク の 活用	反響 板の 活用	質問 受付 時間	フリー ディス カッション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗率のみ)	改善結果（改善後の良否）
山本 浩一	デジタル回路Ⅱ	5	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	×	教室が電子黒板になったことにより全ての内容をパワーポイント資料で電子化し、効率的な授業進行についても意識していきたく、特にフリップフロップおよび順序回路の回路動作について、アニメーションを活用したパワーポイント資料を作成し学生の理解を助けた。	記入不要	『学生の理解の程度に注意しながら授業を行いましたか』『授業中は質問しやすいですか』の項目が相対的に高かった。引き続き学生の反応を見ながら授業を進めるほか、パワーポイントも改善していきたい。
	計測システム	5	後期	○	○	○	×	○	○	○	○	○	『興味・関心を持たせる魅力的な授業』の項目が相対的に低かった。電子黒板に対応したパワーポイント資料作成において授業資料の改善や授業での話題提供などに心がけていきたい。また、適宜資料動画も活用していきたい。	記入不要	『先生はよく聞かざるで授業を行いましたか』の項目をはじめ全体的に高評価であった。興味・関心を持たせる魅力的な授業の項目が相対的に低かったため、パワーポイントファイル等も改善していきたい。
	応用数学Ⅱ	5	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	×	昨年度まではベクトル解析の内容であったが今年からは複素解析を担当することになった。パワーポイント資料を新制作し、途中の式もわかりやすく整理しながら授業を進めていきたい。さらに、よく聞かざるで授業の授業の評価も高いため、今後も授業の改善を行っていききたい。	記入不要	『授業中は質問しやすいですか』の項目が相対的に高かった。引き続き学生の反応を見ながら授業をすすめていきたい。他の項目は平均を上回っており、引き続きパワーポイントファイルの改善に取り組んでいきたい。
	デジタル回路Ⅰ	4	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	×	教室が電子黒板になったことにより全ての内容をパワーポイント資料で電子化し、効率的な授業進行についても意識していきたく、パワーポイント資料も昨年より改善していきたく、さらに演習問題解説資料も充実しより良い授業を作り上げていきたい。	記入不要	『学生の理解の程度に注意しながら授業を行いましたか』『授業中は質問しやすいですか』の項目が相対的に高かった。他の項目も平均を上回っており、引き続き学生の反応を見ながら授業を進めるほか、パワーポイントも改善していきたい。
	電気電子工学実験	4	後期	○	○	×	○	×	○	×	○	○	昨年度に引き続き電子回路シミュレータをLTSPICEで実施するほかオペアンプの回路測定実験を一斉実施する予定である。昨年は20人同時に実施したが今年度は場の都合により10人同時実施のため輪番の授業を行う。学生個々の実験スキルを向上させるつ実験がスムーズに実施できるように指導書の改善や実施方法の検討にも取り組んで行く。	記入不要	『装置・器具の状態・班の人数等は実験・実習』を行うのに満足な状態であったかの項目が当科目平均に比べても高かった。装置の整備や実験環境の改善に引き続き取り組んでいく。
	電気電子工学実験	3	後期のみ担当	○	○	○	×	○	○	○	○	○	担当の後はC言語およびPICプログラミングの演習を行う予定である。パワーポイントファイルを改善するほか、プログラムの実行例などの資料をよりわかりやすいように努めていきたい。さらに、プログラミング演習の課題内容について各分野から聞かないように出題したい。	記入不要	指導書に書かれている実験の目的・実験（実習）方法の指導は適切かつどの項目の評価が相対的に高かった反面、興味・関心の持てる実験（実習）テーマがあったかの項目が相対的に少なかった。来年度はC言語の演習課題を見直しなどして興味・関心のある設問にしていきたい。
山本 浩一	電気磁気学Ⅱ	4	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	○	教科書の内容が理解できるよう要点をまとめたパワーポイントを活用して授業を進めます。理解度を確認するため例題を解く時間も多く取れたと考えています。理解度の確認を講義に行い、質問しやすい授業になるように努力します。	全ての項目がクラス平均並み、またはクラス平均以上であった。今後も高い評価が継続するように教材と授業方法を改善する。	特に『質問しやすいか』『魅力的な授業であったか』の項目がクラス平均以上で評価が高かった。今後も高い評価が継続するように教材と授業方法を改善する。
	電子制御基礎	3	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	○	パワーポイントとプリントを活用して授業を進めます。また、演習、小テスト等で理解度を確認します。教室の後方の学生にも声が聞こえているか、パワーポイントが見えているか確認しながら授業を進め、質問しやすい授業になるように努力します。	記入不要	ほぼ全ての項目がクラス平均並み、またはクラス平均以上であった。今後も高い評価が継続するように教材と授業方法を改善する。
	電気回路Ⅰ	2	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	○	教科書の要点をパワーポイントにまとめて授業を進めます。また、問題を解く力がつように演習の時間を多く設け、質問しやすい授業になるように努力します。教室の後方の学生にも声が聞こえているか、パワーポイントが見えているか確認しながら授業を進め、教材を改善していきます。	記入不要	ほぼ全ての項目がクラス平均以上であったが、唯一、①の『先生はよく聞かざるで授業で…』の項目の評価が低かった。今後は授業の途中で、クラスの後ろまで声が届いているか確認しながら授業を進める。
	技術者倫理	専1	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	中部技術士会から5名の技術士を招き、合計4名の講師が各々の得意分野を講義します。授業アンケート結果を講師陣に共有し、授業方法と教材を改善していきます。	記入不要	ほとんどの項目がクラス平均並み、または若干評価が低かった。評価結果を他の非常勤講師と共有して教材と授業方法を改善する。
	制御器工学	専1	前期	○	×	×	○	○	×	×	○	○	わかりやすい授業になるようにパワーポイントとプリントを活用して授業を進めます。電気や情報の出身学生以外の学生にも内容が理解できるように、基礎的なことから丁寧に説明していきます。教室の後方の学生にも声が聞こえているか、パワーポイントが見えているか確認しながら授業を進めます。	記入不要	ほぼ全ての項目がクラス平均並み、またはクラス平均以上であった。今後も高い評価が継続するように教材と授業方法を改善する。
	電気電子工学実験	3	通年	○	×	×	○	○	○	○	○	○	実験方法をわかり易くまとめたテキストを用い、進捗状況を適宜確認しながら授業を進めます。実験で用いる機器、電子部品についても古くなったものは更新を進めていきます。	②の『装置・器具の状態・班の人数等は…』と③の『興味・関心を持たせる…』の評価が若干低かった。古くなった機器、電子部品については計画的に更新を行い、魅力的な実験実習になるようにテキストを改善する。	ほぼ全ての項目がクラス平均並み、またはクラス平均以上であった。今後も高い評価が継続するようにテキストと授業方法を改善する。
山本 浩一	電気電子工学実験	5	通年	○	×	×	○	×	○	○	○	○	アンケートの多くの回答項目が実験実習の平均以上だったので、今年度も継続していくと考えます。	どの回答項目も概ね、実験実習の平均と同程度、もしくは平均以上でした。5年生の実験でこれまでより、より専門的な実験を継続して実施していくと思います。	どの回答項目も概ね、実験実習の平均と同程度、もしくは平均以上でした。5年生の実験でこれまでより、より専門的な実験を継続して実施していくと思います。
	半導体工学	5	前期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	授業資料を配付し、重要な箇所を記入してもらうことで、代表的な半導体デバイスの動作原理とその特性を定性的に説明できるように努めてもらい、また、諸特性を定量的に解説することによって、半導体工学を理解してもらえよう授業を継続します。	記入不要	目標・改善方針に示したことを心掛けて授業したこともあり、各項目のバランスの良い回答だったと思います。
	電気回路Ⅱ	3	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	○	授業資料を配付し、必要に応じて記入してもらい、演習は各々で解説して、その後、模範解答を示している。問題への取り組み時間、解答時間を少し増やした結果、回答項目の多くのクラス平均と同程度の結果になったのではないかとと思うので、引き続きこのスタイルで授業します。	目標・改善方針に示したことを心掛けて授業したことあり、各項目のバランスの良い回答だったと思います。	よく、後継から例題の詳細な解答を記した資料を配布し解説したことで、演習問題に取り組む時間とすることで、学生がより理解を深めることにつながったのではないかと思います。
	電気電子工学演習	3	後期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	主に、2年生の電気回路の内容を演習を通して復習して、電気回路で取り上げない回路解析手法も説明している。電気回路と同様、授業資料を配付し、多くの時間を演習にあてて、電気回路の理解につながるような授業を継続していく。	記入不要	要点解析・回路解析を新たに学ぶとともに、復習と応用問題に取り組んでもらい、電気回路の理解をより深めることに注力した。演習も多く取り組んでもらったことで、次年度以降につながる授業ができたのではないかと思います。
	電気電子要素	4	後期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	授業アンケートの結果は、概ねクラス平均と同程度だったので、引き続き電気回路、電子回路、電子制御の幅広い内容を基盤が身につけられるようにします。	記入不要	電気電子工学を専門としない他学科の学生に、電気回路・電子回路の基礎的な事柄と簡単な応用事例をコンパクトに説明し、また簡単な実習を通して、講義の理解を深めることができたのではないかと思います。
	応用数学Ⅰ	4	前期のみ担当	○	○	○	×	○	×	○	○	○	解説と解答例を記した授業資料に必要に応じて説明内容を記入し、演習は各々で解説して、その後、模範解答を示して電気電子工学で必要となる数学の解法を習得してもらう。	記入不要	差分方程式の解法並びに各解法の例題の詳細な解答を含めた授業資料を配付し、演習に多くの時間をとれるように配慮した結果、概ね、学生は良好な成績を修めることができたと思います。
山本 浩一	制御システム	5	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	電気回路、電子回路などこれまでの学習とのつながりを演習などにより理解度が深まるように工夫する。授業中ノートをとることや演習をすることを心がけてほしい。	記入不要	よく聞かざるで2、質問しやすいが2、興味関心1低かった。活字が悪いところは否めないが、説明後にわかりにくいところがあればもう一度説明するなど注意し、説明後に質問できるように時間を設けるなどし、実際の計算の回数、演習で取り合える計算、実験で使った計算など興味を持ってより取り上げていく。
	電気電子計測	3	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	前年度と引き続き、実際の機器や関連した玩具を授業中に回覧させることや、演習を充実していきたい。授業中ノートをとることや演習をすることを心がけてほしい。前期試験までに、身の回りにおける磁性材料についての課題を出しますのでこれらについてでもがんばってほしい。	特定の人が私の科目に関するたいと指摘があったので、そのことを周知し、後継はそんなことがないよう協力を求めた。アンケート結果はクラス平均以上の結果となったので後継も引き続きこのような結果となるよう努める。	よく聞かざるで2低かった。活字が悪いところは否めないが、説明後にわかりにくいところがあればもう一度説明するなど注意していききたい。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	導入教育として重要な専門科目であるので、丁寧にわかりやすい授業を心がけたい。興味を持つように、身近な物と対比するなど色々と工夫していきたい。	記入不要	よく聞かざるで3、シラバスを参考も2クラス平均を下回った。活字が悪いところがあるので力不足なところは否めないが、来年度開講にいくところがあれば、もう一度説明するように伝えることや、シラバスを1回目の授業のみならず、中間、期末試験前にも説明するなどする。
	電気電子工学実験	3	前期のみ担当	○	×	×	○	×	×	×	○	○	（2名で担当する実習。前期担当）前年度同様に講義科目との連携をはかりつつ実施方法に検討を重ねていく。	記入不要	いずれもクラス平均以上の結果となったので来年度も引き続き同じ結果となるよう努める。
	電子材料特論	専2	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	（2名で担当する科目。前半年度）前年度に引き続き、身の回りの現象から原理が理解できるよう心がけたい。授業中ノートをとることや演習を実施しますのでがんばってほしい。	記入不要	アンケート結果を閲覧できなかったので記載できない。
	センサ工学	専2	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	他学科においては、難しい内容になるかもしれませんが、理解度を確認することや時間をとることや、関連した研究内容を紹介し、実際のセンサや関連した玩具を授業中に回覧させるなど工夫していきたい。授業中ノートをとることを心がけてほしい。	記入不要	シラバスを理解しようがクラス平均よりそれよりも低い値となった。最初の授業、試験前に説明をしているが、試験確認時にも説明をするなど、繰り返し説明していきたい。理解しようとはしているが、演習に時間をとるなど工夫していきたい。
山本 浩一	電気電子材料	4	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	教科書だけでなくスライド資料による応用事例なども多く紹介して、興味をひきつける授業としたい。授業中の演習も継続し、授業内容についてよく考える機会を提供する。	記入不要	授業が一方的になった点について反省がある。スライドの説明が単調になってしまった点も改善点としたい。今後は動画コンテンツの整備が必要だと感じた。
	電子物性基礎	4	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	○	スライド資料を見せるだけでなく、手描きの補助的な書き込みも併用しながら、単調な授業にならないようにしたい。理解が容易にできるように授業内容を整理したい。	おおむね高い評価であったと認識しており、引き続きわかりやすい授業運営を心がけたい。	おおむね好評であったが、興味をひきつける点で反省があった。物性に興味をもつ学生が少しでも増えるように、学生とのコミュニケーションに注意して授業運営をしていきたい。
	電気磁気学Ⅰ	3	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	○	スライド資料を見せるだけでなく、手描きの補助的な書き込みも併用しながら、単調な授業にならないようにしたい。ノートをとりにくくするように配慮を工夫する。	授業のやり方についてはおおむね好評であったが、理解が難しい部分があったとの声もあり、より丁寧な説明を心がけたい。	トータルではおおむね好評であったと認識しているが、賛否が分かれた結果であったと考える。次年度以降には演習などを増やし、理解が深まるような工夫を実施していきたい。

電気電子工学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライ ドの使 用	インタ ラクテ ィブ ターペ ン電 子回 路の 活用	市販 教材 書の 使用	板書 体字 の配 付	BYOD による 授業 中の 資料 提供	マイク の使 用	反転 授業 実施	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善度の良否)
	電気電子工学実験	5	通年	○	×	×	○	×	○	○	○	○	アンケートの多くの回答項目でおおむね評価は高いと認識しているので、今後も継続する。	5年生の実験では細かい指導よりも実践的な経験を重視しており、有意義な体験から気付きを得られるようなテーマ設定としている。おおむね高評価であったと考えられるので、後期も引き続き方針は維持する。	後期のテーマについても実践的な内容としており、おおむね好評であったと認識している。今後も学生の実践的能力の向上のために説明内容の改善を進めていきたい。
	電気回路Ⅰ	2	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	スライド資料を見せるだけでなく、具体的な問題の解法を丁寧に説明するなど、理解が容易になるように工夫する。	記入不要	おおむね好評であったと認識しているが、理解を確かめる点でやや不足があったように思われる。もっと丁寧なコミュニケーションが必要であると考えており、改善していきたい。
	電気エネルギー総論	5	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	padを使用した講義を中心に、演習問題等もオンラインを活用して教員から学生への一方的な授業にならないよう工夫する。	記入不要	学生の理解度に留意して、や教え方に工夫しての点でどちらともいえないとの評価が入っており、来年度は担当ではなくなるが、引き続き他の科目への改善活かしていきたいと考える。
	電気回路Ⅲ	4	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	板書の量が多くわかりにくい分布定数回路の講義に関して、スライドと黒板の両方を使用して、学生にわかりやすい講義を行う。それ以外の講義も例題、演習を多く取り入れ学生の理解しやすいように努める。	前期の分布定数回路は難しいテーマだったが、アンケート結果はクラス平均と同程度の結果となり「そう思う」の回答を多く得られた。後期も引き続きわかりやすい授業を心掛けたい。	クラス平均と同程度の評価をいただいた。来年度も、引き続きわかりやすい授業になるよう改善していきたいと考える。
	電気電子製図	2	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	これまででは線、文字等、製図の基礎をメインとしていたが、今年度は具体的な製図例を使用することで、製図への理解を深めるよう試みる。	記入不要	アンケート結果はおおむねクラス平均より高かったので、引き続き学生がわかりやすい授業を心掛けていきたいと考える。
	電気電子工学実験	2	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	回路シミュレータTinkercadを用いた実験においては、基礎的回路の実験に加えて、簡単なArduinoの制御実習も取り入れることで、学生の実験へのモチベーションを上げる。 オシロスコープについては前期の履修と後期の実習をうまく連携させて、学生の理解度の向上につとめる。	Tinkercadについては独自のアンケートを実施したが、簡単だったという学生と難しかったという学生が混在する形となった。来年度は、難易度をかえ、学生のレベルに合わせた課題としたいと考える。	実験全テーマへの評価であるが、おおむねクラス平均より高い評価をいただき、来年度も引き続き学生がわかりやすい実験実習を心掛けていきたいと考える。

電気電子工学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの使 用	イン タラク ティブ ツール の活用 状況	市販 教材 の使 用	紙質 教材 の配 付	BYOD による 教材 の中 介利 用	マイク の使 用	反転 授業 実施	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進年科目のみ)	改善結果（改善後の良否）
山本 隆	電子回路Ⅱ	4	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	学生が興味を持てるような先端的なトピックスを提供し、電子回路を学習する意欲を高める工夫をする。	記入不要	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。
	電子回路Ⅰ	3	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	学生が興味を持てるような先端的なトピックスを提供し、電子回路を学習する意欲を高める工夫をする。	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。
	電気機器	3	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	学生が興味を持てるような先端的なトピックスを提供し、電気機器学を学習する意欲を高める工夫をする。	記入不要	授業アンケートにて、一定の評価を得られ大きな問題なく授業を実施できた。今後も、学生が興味を持てる授業、理解し易い授業を目指したい。
	ものづくり実習	1	前期	○	○	×	○	○	○	×	○	×	高専で行う初めての実習なので、安全に十分配慮し、学生へも安全の意識づけと安全教育を実施する。	記入不要	大きな事故がなく実習を終えることができた。授業開始時に安全の重要性を繰り返し指導、無理せず実習するように指導した成果だと感じている。
	電気電子工学実験	4	後期	○	○	×	○	×	○	×	○	○	これまでに蓄積してきた実験技術をベースとして発展的な内容を含めた実験実習を行い、応用的な実験能力の習得を目指す。	記入不要	先端なAIロボット実習や、PLC制御、電子回路実験、電気機器実習を予定通り実施でき、学生はこれまでに学習した内容を実験により理解を深めることができた。授業アンケートでも良好な評価をすることができた。
	電気理論特論	専1,2	前期	×	×	×	×	×	×	×	○	×	本科で学習した電気・電子回路の知識をベースに新しい視点（グラフ理論）を与え、さらに回路の特徴への理解を深める。	記入不要	計画通りにグラフ理論の特徴と回路解析への応用を理解させることができ、定期試験でも十分に学生が理解できていることを確認することができた。
山本 隆	電力システム工学	5	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	授業アンケートの結果、例年おおむね平均以上のスコアが得られている。特に興味や関心を持たせることができる魅力的な授業を心がけたい。	記入不要	本年度授業アンケートの結果、目標としていた興味や関心を持たせる魅力的な授業かの項目で平均以上のスコアが得られた。一方、質問しやすかったがについては若干平均を下回ったため、次年度は質問時間を延ばすなどの対策を取りたい。
	電気電子工学実験	2	通年	○	×	×	○	○	×	×	○	○	低学年授業のため、ここでつまづかないようにわかりやすく、丁寧な解説を心掛けた。	前期は講義中心であったが、丁寧な授業ができたのではないかと思っている。	わかりやすく丁寧な説明を心掛けた結果、学生からは自ら理解しようとして実験に取り組んでいるように見受けられた。
	電気電子工学実験	5	通年	○	×	×	○	×	×	×	○	○	これまでの産学講座で学習してきた内容との繋がりが意識できるような実験を心がけたい。	できるだけ産学講座との関連を意識させる実験を心掛けることが出来た。	授業アンケートの結果、概ね満足できる評価を受けた。今後も原研を意識して実験に取り組んでもらえるように努めたい。
	パワーエレクトロニクス	5	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	例年、アンケート結果は良好であるため、今年度も学生に興味や関心を持たせる魅力的な授業を心がけたい。	記入不要	概ね満足できるアンケート結果であった。今後も学生に関心を持たせる魅力的な講義になるように心掛けた。
山本 隆	情報通信工学	5	前期	○	×	×	○	○	×	×	○	×	授業アンケートの結果、概ねクラス平均前後を推移している。現実社会での利用例等を更新しつつ実社会と結びつけた講義を心がける。	記入不要	授業アンケートの結果、概ね高い評価を受けているため、引き続き興味の内容となるように心がけていく。
	電気機器	4	通年	×	×	○	○	○	×	×	○	×	ホワイトボードとなったものの、板書中心の講義は維持したうえで、適切な説明を心がける。	授業アンケートの結果、全体を通じてクラス平均前後であったため、引き続きこの内容で進めていく。ただし、ホワイトボードに変わったこともあり、板書が一部わかりづらいという意見があったため、板書については十分に注意しながら進める。	授業アンケートの結果、概ね高い評価を受けているため、引き続き興味の内容となるように心がけていく。ホワイトボードでの板書について文字サイズについて授業内で指導があったため、漢字等の記述について工夫する。
	電気電子製図	3	前期	×	○	×	○	○	○	×	○	○	最低限の課題のみでなく、挑戦的な課題を用意して積極的に取り組める環境づくりを心がける。	記入不要	授業アンケートの結果、概ね高い評価を受けているため、引き続き興味の内容となるように心がけていく。
	電気電子工学実験	2	通年	○	×	×	○	×	×	×	○	○	Microsoft Officeの使い方を始め、今後のレポート作成において必要な知識や技術をきちんと身につけられるようにこまめな指導を行っていく。	授業アンケートの結果、クラス平均から見ても比較的高い評価を受けている。後期からは実習が始まるため、効果的に実験に取り組めるように引き続き工夫する。	授業アンケートの結果、概ね高い評価を受けているため、引き続き興味の内容となるように心がけていく。また、PCを用いたレポート作成が主流となっていることから、授業内でも適切に指導できるように心がける。
	ものづくり実習	1	前期	○	×	×	○	×	×	×	○	○	ものづくりに興味を持てるような話題を提供しつつ、実際にものづくりに触れながら進めるような内容を実施できるように心がける。	記入不要	授業アンケートの結果、概ね高い評価を受けているため、引き続き興味の内容となるように心がけていく。

電子情報工学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライド の使用	インタラク ティブ ル(クッ ペン、電 子黒板な ど)の使 用	市販機 器の使 用	紙媒体 資料の 配付	BYOD による 設備中 の資料 閲覧	マイク の使用	反転課 室実施	質問受 付時間	フリー タイム カッショ ン時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
山本 隆	電子回路Ⅱ	4	前期	○	×	○	○	○	○	×	○	×	聴病のため大きな声が出せない場合があります。マイク併用で改善しようと思います。	記入不要	全評価項目でクラス平均以上の値となった。
	電子情報工学実験	4	後期	○	×	×	×	○	○	×	○	×	聴病のため立ち上がれない・歩けない場合があります。TAの学生と技術職員の方々に助けてもらいながら何とかこなそうと思っています。	記入不要	多少凹凸はあるが、実験実習平均とほぼ等しい評価が得られた。
	電子回路Ⅰ	3	後期	○	×	○	○	○	○	×	○	×	聴病のため大きな声が出せない場合があります。マイク併用で改善しようと思います。	記入不要	多少凹凸はあるが、クラス平均とほぼ等しい評価が得られた。
	情報通信ネットワーク	3	通年	○	×	×	○	○	○	×	○	×	聴病のため大きな声が出せない場合があります。マイク併用で改善しようと思います。	評価項目①はクラス平均より低い値となった。気を付けたい。	評価項目①はクラス平均とほぼ同じ値となった。
	電子情報工学実験	2	通年	○	×	×	×	○	○	×	○	×	聴病のため立ち上がれない・歩けない場合があります。TAの学生と技術職員の方々に助けてもらいながら何とかこなそうと思っています。	多少凹凸はあるが、実験実習平均とほぼ等しい評価が得られた。	多少凹凸はあるが、実験実習平均とほぼ等しい評価が得られた。
															年度末に記入
山本 隆	電子材料工学	5	前期	×	○	○	×	○	×	×	×	×	興味・関心を持ってもらえるように、身近な電子材料の具体的な使用例を挙げて説明する。教科書の記載以外のウェブ情報などから、わかりやすい情報を随時紹介する。	記入不要	学習時間が少ない学生が多いので、自習時間確保につながるような教材になるウェブリンクなどを紹介し、単なる調査レポートではなくこれまでの専門知識を関連付けて調べ自分の考えを記入するようなレポートを今後検討する予定である。
	集積回路工学	4,5	後期	×	○	○	×	○	×	×	×	×	フラッシュメモリやFPGA以外の一般に前工程は学生の興味関心が無いので、製造工程の歩留まりや品質改善に行われている原料ガスから基盤への取り付け実装までの一連の工程をわかりやすく説明する。	記入不要	教科書記載以外のことを随時説明しGoodNotesでプロジェクトに投影しながらメモ書きと説明をするにあたり、低ノート学生にも時間を考慮して進めているつもりだが一部の学生からは進捗が遅いという意見があった。来年度以降は入学時にタブレットを全員購入した学年となるが、ノートをとる時間をより意識する必要があると思われる。
	制御工学	4	通年	×	○	○	×	○	×	×	×	×	シラバス記載の古典・現代制御の基礎までの学習内容を講義しつつ、できるだけ学生の理解度を見ながら授業を進めた。	数学基礎の復習をすると予定講義内容の説明が不足しがちなというジレンマがあり、学生の理解を高めるための時間を不足している。テキスト記載の公式の導出過程などは自習レポートとして提出してもらい、ゼミ/バリの講義としたい。	学習の理解度と授業の進捗速度に、アンケート結果から二極化する傾向にあった。授業内の説明だけで理解できない学生向けに、今後も授業メモをMoodleに載せるとともに、Moodle小テスト問題を今後より多くするなどの工夫が必要であるので次年度以降充実したい。
	電子工学Ⅰ	3	通年	×	○	○	×	○	×	×	×	×	計算問題とは異なり概念を理解してもらふ科目の性格上、画像と文字を多く書く必要がある。書所が異にくいという意見があるので、できるだけ読みやすい図と文字を書く。	自習時間が学生により大きくなりすぎたため、自習教材としてMoo le小テストを作成する予定。	自習時間の増加を期待して、図と文章からなるMoo le小テストを作成した。板書文字については、GoodNotes6のOCR機能を用いてフォントへの置き換えを次年度以降検討したい。
	電子情報工学実験	3	後期のみ担当	○	×	×	×	×	○	×	×	×	説明がわかりやすい実験指導書を作成。	記入不要	実験指導書の説明はわかりやすいという評価が高い。提出されたレポートは、想定しているレベルであり今後もわかりやすい実験指導書を提供する。
	電子情報工学実験	1	後期のみ担当	○	×	×	×	×	○	×	×	×	説明がわかりやすい実験指導書を作成。	記入不要	実験指導書の説明はわかりやすいという評価が高い。提出されたレポートは、想定しているレベルであり今後もわかりやすい実験指導書を提供する。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	×	×	×	○	×	×	×	説明がわかりやすい実験指導書を作成。	記入不要	実験指導書の説明はわかりやすいという評価が高い。提出されたレポートは、想定しているレベルであり今後もわかりやすい実験指導書を提供する。
	電子材料特論	専2	前期	×	○	○	×	○	×	×	×	×	異なる専門学科出身の学生にとっても興味関心を持つてもらえるような講義内容とする。物性知識を活用する面白さと、モノづくり製造現場のノウハウについて理解してもらうことで、将来の進路で生かしてもらえるようにしたい。	記入不要	概ね興味を持ってもらえた。より見やすい板書となるよう、部分的にGoodNotes6のOCR機能の利用を今後検討したい。
山本 隆	情報数学	5	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	○	自己学習用の演習問題を提供します。	記入不要	自己学習用の演習問題は提供できたが、授業内容とともに関連するように工夫していきたい。
	データ構造とアルゴリズム	3	通年	○	×	○	×	○	○	×	○	○	アルゴリズムだけでなくコードもなるべく提示します。	理解しやすいコードの提示を心がけます。	いくつかアルゴリズムの説明のみで、コードまで提示できない内容があった。
	プログラミング	1	前期のみ担当	○	×	○	×	○	○	×	○	○	プログラミング言語の文法がきちんと理解できるように授業します。	記入不要	きちんと授業できたように思うが、問題の難易度をもう少し上げていきたい。
	応用情報工学	専1	後期	○	×	○	×	○	○	×	○	○	実際のデータ分析に繋がるように授業します。	記入不要	データ分析の演習を実施したが、1度しかできなかった。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	○	×	○	○	×	○	○	プログラミング演習の時間を確保するために使います。	記入不要	プログラミングの授業とうまく繋げることができた。
														記入不要	年度末に記入
														記入不要	年度末に記入
山本 隆	ソフトウェア工学	4	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	適宜質問がないか確認する。	1名のみやや質問にくいとの回答があった。質問の機会とタイミングに気を付ける。	質問にくいとの回答はなくなった。引き続き質問しやすいよう声掛けをする。
	オペレーティングシステム	3	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	×	よく聞こえる声で授業を行う。	1名のみ聞き取りにくいとの回答があった。声の聞こえ具合を確認するようにする。	聞き取りにくいとの回答はなくなった。引き続き適切な声の大きさを意識する。
	プログラム設計	2	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	よく聞こえる声で授業を行う。	記入不要	数名やや聞き取りにくいとの回答があった。声の聞こえ具合を確認するようにする。
	電子情報工学実験	2	前期	○	×	×	×	○	○	×	○	×	提出されたレポートのフィードバックをする。	記入不要	Moo leを用いてレポートのチェック結果を返した。フィードバックした時期が遅かったので、次年度は遅れようにする。
	電子情報工学実験	4	後期	○	×	×	×	○	○	×	○	×	提出されたレポートのフィードバックをする。	記入不要	Moo leを用いてレポートのチェック結果を返した。フィードバックした時期が遅かったので、次年度は遅れようにする。
														記入不要	年度末に記入
	プログラミング	1	後期のみ担当											記入不要	概ね想定したような結果であった。問題の難易度をブルームの階層のどこかわかりやすいようにし、学生自身の学習・認知レベルを自覚できる形にする。

電子情報工学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライド の使用	インタラク ティブ ツール (タッチ ペン、電 子黒板な ど)の使 用	市販教 科書の 使用	紙媒体 資料の 配付	BYOD による 設備中 の資料 閲覧	マイク の使用	反転課 室実演	質問受 付時間	フリー ディス カッション 時間	目標・改善方針	実用アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	データ工学	5	前期	○	×	×	×	○	○	×	○	×	実習・演習時間を増やす	記入不要	実習内容を新たに作成した。内容によって、理解が深まるころまで至らないものもあったため、改善する必要がある。
	IoTシステム工学	4	前期	○	×	○	×	○	○	×	○	○	実習・演習時間を増やす	記入不要	実習内容を一新した。想定していたより時間がかかったので弱いところを補強する課題を考える必要がある
	IoTシステム特論	専2	前期	○	×	×	×	○	○	×	○	○	実習・演習時間を増やす	記入不要	実習内容を一新した。想定していたより時間がかかったので弱いところを補強する課題を考える必要がある
■■■■	電気磁気学Ⅱ	4	後期のみ担当	○	×	○	×	○	×	×	○	×	適宜質問がないか確認する。	記入不要	演習の時間によく質問が出るようになり、学生が積極的に課題に取り組めるようになった。
	電気磁気学Ⅰ	3	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	理解を助けるよう授業中に適宜質問の時間をとります	記入不要	演習の時間によく質問が出るようになり、学生が積極的に課題に取り組めるようになった。
	電気電子基礎Ⅱ	2	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	適宜質問がないか確認する。	記入不要	演習の時間によく質問が出るようになり、学生が積極的に課題に取り組めるようになった。
	電気電子基礎Ⅰ	1	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	適宜質問がないか確認する。	記入不要	演習の時間によく質問が出るようになり、学生が積極的に課題に取り組めるようになった。
	電子情報工学実験	3	後期のみ担当	○	×	×	○	○	○	×	○	×	適宜質問がないか確認する。	記入不要	実験中により頻繁に声掛けするようにして、質問しやすいため、効果があつたと考える。
	電子情報工学実験	2	後期のみ担当	○	×	×	○	○	○	×	○	×	適宜質問がないか確認する。	後期のみ担当	実験中により頻繁に声掛けするようにして、質問しやすいため、効果があつたと考える。
	電子情報工学実験	1	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	適宜質問がないか確認する。	記入不要	実験中により頻繁に声掛けするようにして、質問しやすいため、効果があつたと考える。
■■■■	電子情報工学実験	2	後期のみ担当	○	×	○	×	○	×	○	○	○	実験の到達の速いに対応するため、事前にすべての実験資料をmoodleに展開します。	記入不要	実験の進度が速う学生に対して対応することができた。
	電子情報工学実験	4	後期	○	×	×	×	○	×	×	○	○	学習したことをアウトプットを意識した実験を展開します。	記入不要	5年の卒業研究では各種コンテストに参加し、表彰されるなどアウトプットを残せた。
	電気回路論Ⅰ	3	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	○	演習問題を増やし、解答例を丁寧に説明する。授業理解度の確認のためmoodleによる小テストを導入する。	小テストを導入したことにより授業の振り返りができた。	小テストを導入したことにより授業の振り返りができた。
	電気回路論Ⅱ	4	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	○	演習問題を増やし、解答例を丁寧に説明する。授業理解度の確認のためmoodleによる小テストを導入する。	小テストを導入したことにより授業の振り返りができた。	小テストを導入したことにより授業の振り返りができた。
	計測工学	5	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	○	授業理解度の確認のためmoodleによる小テストを導入する。	記入不要	小テストを導入したことにより授業の振り返りができた。
	マイクロコンピュータ基礎	2	後期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	moodleのフォーラム機能などを活用し、学生間での学びの機会を増やします。	記入不要	学生が積極的に授業に参加できるようになった。
■■■■	デジタル回路	3	通年	○	○	○	×	×	×	×	○	×	分かりやすい板書を心がけます		概ね良好な結果が得られた
	電子情報工学実験	1	後期	○	○	×	○	×	○	×	○	×		記入不要	年度末に記入
	工学基礎実験	1	前期	○	○	×	○	×	○	×	○	×		記入不要	前期末に記入
	電子情報工学実験	3	前期のみ担当	○	○	×	×	×	○	×	○	×		記入不要	前期末に記入
	電子情報工学実験	4	後期	○	○	×	×	×	○	×	○	×		記入不要	年度末に記入
	基礎組込みシステム	5	前期	○	○	○	○	×	○	×	○	×		記入不要	前期末に記入
														記入不要	年度末に記入
■■■■	情報セキュリティ概論	3MEOS	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	演習時間を多くとり、主体的な学びを促進する。また、周りとディスカッションを促進するような内容を演習課題に盛り込むことで、より深い学びに繋げたい。	記入不要	おおむね目標通りに進められたと思うが、もう少しディスカッションを促進できる工夫があった方がよかったかもしれない。次年度以降の課題としたい。
	情報処理Ⅱ	2MEOS	後期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	演習時間を多くとり、主体的な学びを促進する。また、周りとディスカッションを促進するような内容を演習課題に盛り込むことで、より深い学びに繋げたい。	記入不要	おおむね目標通りに授業を進められたと思うが、演習問題の題材が数学に寄りすぎたかもしれない。次年度以降の課題としたい。
	電子情報工学実験	1	後期											記入不要	年度末に記入
	情報処理Ⅱ	2	後期	○	○	○	×	×	○	×	○	×	言語にPythonを使用します。基本はコードを書くのには生成AIにてコードを作成させて単純化を行い、検証などに時間を大きく割こうと考えています。	記入不要	年齢制限の理由で生成系AIの利用はできませんでしたが、ただプログラムを作成するだけでなく、思い通りの動作が行えるかテスト評価までのプロセスを学生に取らせる事はできたと思います。
	マルチメディア工学	4	後期	○	×	○	×	○	×	×	×	×	新規科目ですが、多様なメディアの特性や日ごろ使用している隠れた技術について学べるようにしていこうと考えています。	記入不要	複数のメディアの特性などを提示し、身近なメディアに含まれる技術についても紹介できたと思います。画像処理は重要ですが、少し進捗が悪かったのだから改善を図りたいです。

電子情報工学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライド の使用	インタラク ティブ ル(タッチ ペン、電 子黒板な ど)の使 用	市販機 料金の 使用	紙媒体 資料の 配付	BYOD による 設備中 の資料 閲覧	マイク の使用	反転機 能活用	夏期受 付時間	フリー タイム カッショ ン時間	目標・改善方針	事前アンケートを受けての改善方針 (通年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	情報理論	4	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	×	過去の試験問題を利用して、理論と実際の事例に当てはめるとどのような話しへ発展するかを紹介し、理解を深められるように進めています。	各テスト前の授業にて演習を行いました。また、目標通りではありませんでしたが、授業資料以外の分かりやすい資料を複数提示し、学生の理解の促進は図れたと思います。後期の継続できたらと思います。	後期の前期同様の事ができ、学生の理解の促進を図れたと思います。
	電子情報工学実験	3	前期のみ担当	○	○	×	×	×	○	×	○	×	レポートのフィードバック不足を指摘されたので、確実に返せるように実験を進めています。	記入不要	レポートの評価と学生への通知に気を付けました。期末試験の所でタイミングに齟齬があった感じがしたのでお互い余裕が出るようにもっと改善していきます。
	情報セキュリティ応用	5	後期	○	○	×	○	×	○	×	○	×	リスクを伴う実験を行うので、インシデントとならないように配慮して進めていきつつ、指示に従わない学生が居た場合は厳しく指導していきます。		特に問題なく授業＋演習が進められたと思います。ほとんどのリスクをあらかじめ封じ込めていたのも要因だと思えます。
	情報セキュリティ基礎	4	後期	○	×	×	○	×	○	×	○	○	ゲーミフィケーションだけでなく、実技を取り入れるので、学生の作業能力に合わせた講義になるように構成していきます。	記入不要	お互いの進捗をすり合わせて授業を進められたと思います。特に問題は無かったと思います。

生物応用化学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライドの 使用	インフラ ワーク シート (カンパ ン、電 子書籍 などの 活用)	市販 教材 等の 活用	紙媒体 教材 の活用	BYOD による 教材中 の活用	マイク の使用	反転 授業	学習 支援 時間	フリー ディス カッション 時間	目標・改善方針	前開アンケートを受けての改善方針 (前年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	工業化学	5	後期	○	×	×	×	×	×	×	○	×	授業中に多くの演習を行い、また、演習の解法に関する解説時間を長めにとって理解度を向上させる。	記入不要	理解度を上げるに関して、アンケート項目③の学生の理解の程度に留意しながら授業を行っていたかについての評価が4.9であり改善されたと思う。
	無機化学Ⅰ	3	通年	×	×	○	○	×	×	×	○	×	授業中の演習を増やし、補足プリントを配布し、理解度を向上させる。	アンケート項目③の理解度の程度に留意については4.7の評価であった。②の板書の見やすさについては4.4でクラス平均を「取ったので」丁寧に板書することを心掛けた。	理解度を上げるに関してアンケート項目③の学生の理解の程度に留意しながら授業を行っていたかについての評価が4.8でありクラス平均と同じ値であったので今後さらに質問時間を確保する等の試みを行い向上に務めたい。
	生物応用化学実験（後期）	3	後期のみ担当	×	×	×	×	×	○	×	○	×	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように務める。	記入不要	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように、は、アンケート項目⑤のこの分野の理解度が深まったかについて4.8であり改善されたと思う。
	化学	2	前期	×	×	○	×	×	×	×	○	×	授業中、質問しやすい雰囲気づくりに力を入れ、また、演習問題について丁寧に解説して理解度を向上させる。	記入不要	質問のしやすさに関しては授業アンケートで4.5であった。アンケート項目②の見やすい板書であったかに関してのみ4.4でクラス平均 4.5)を下回っていたので板書を丁寧にするよう心がける。
	生物応用化学序論	1	前期	○	×	×	○	×	×	×	○	×	授業中、質問しやすい雰囲気づくりに力を入れ、また、演習問題について丁寧に解説して理解度を向上させる。	記入不要	授業アンケートの各項目について4.6以上の評価を得ている。③の理解度の程度を留意しながら項目について 4.6) そう思わない、ややそう思わないという回答があったので 各1名)もって学生に理解度を確認しながら授業を進めるように心がけた。
	工学基礎実験	1	前期	×	×	×		×	○	×	○	×	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように務める。	記入不要	授業アンケートのすべての項目で4.7以上であった。
	生物応用化学実験	1	後期	×	×	×	×	×	○	×	○	×	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように、はめるについて、アンケート項目⑤のこの分野の理解度が深まったかについて4.8であり改善されたと思う。	記入不要	実験の原理を理解できるように丁寧に説明し、安全かつ確実に操作できるように、器具・装置の使用法等が修得出来るように、はめるについて、アンケート項目⑤のこの分野の理解度が深まったかについて4.8であり改善されたと思う。
■■■■	化学工学Ⅱ	5	前期のみ担当	○	○	○	×	○	×	×	×	×	化学工業等の工場で、吸収や抽出・膜分離の装置がどの様に使用されているかを説明することにより、授業に興味を持ってもらい取り組んでもらうようにする。	記入不要	パワーポイントを使用し授業資料を予め配布して授業を添加したか、分かり難い興味・関心の持ち難い授業となっていた。
	化学工学Ⅰ	4	前期	○	○	○	×	○	×	×	×	×	プラントや装置の設計で流動や伝熱の知識がいかに必要かを説明し、授業に興味を持ってもらうようにする。	記入不要	概ね好評な授業を実施できたが、興味・関心を持たせることや、将来どのように役立つか、について十分に説明することが出来ていなかった。
	反応工学	4	後期	○	○	○	×	○	×	×	×	×	化学プラントの設計で反応器の選定や設計がいかに重要であるか理解し、授業に興味を持ってもらえるように務める。	記入不要	概ね好評な授業を実施できたが、興味や関心を持つことが出来る授業を実施することが出来ていなかった。
	生物応用化学実験	4	後期のみ担当										授業で学習した内容がいかに生かすことが出来るかを、手順を理解しながら進められるように務める。	記入不要	実験レポートで、結果の整理はしっかりとされていたが、考察が弱く指導が不足していた。
	化学工学Ⅰ	3	後期	○	○	○	×	○	×	×	×	×	化学工学を学ぶ理由を理解し、興味を持って授業に取り組んでもらうようにする。	記入不要	概ね好評な授業を実施できたが、受講生が試験勉強を実施する際にシラバスをあまり参照しなかったよう、もう少し要点を絞った授業を実施した方が良かった。
	生物応用化学実験	1	後期										安全かつ確実に操作できるように、ポイントや注意点を強調するなど、メタハリのある説明を行う。	記入不要	実験技術の向上に努め、報告書の作成について指導を入れた。一方、安全教育により時間を割くべきと感じた。
	移動現象論	専1	前期	○	○	○	×	○	×	×	×	×	様々な学科の出身者に対して授業内容を丁寧に説明することにより、自分の専門にいかにかかせるか考えもらえるように務める。	記入不要	概ね好評な授業を実施できたが、様々な学科出身の学生を対象とした授業であったため、一部聞ききれない内容があり理解が難しかった。
														記入不要	年度末に記入
■■■■	無機化学Ⅱ	5	前期	○	×	○	○	×	×	×	○	×	無機化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていきたい。	記入不要	無機化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていくことができた。
	生物応用化学実験	4	前期のみ担当	×	×	×	○	×	×	×	○	×	実験前に必要な知識について簡単な講義を行いたい。	記入不要	実験前に必要な知識について簡単な講義を行った後実験を行うことができた。
	物理化学Ⅰ	4	後期	○	×	○	○	×	×	×	○	×	物理化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていきたい。	記入不要	物理化学を身近に感じられるように具体例も含めて授業を進めていくことができた。
	物理化学Ⅰ	3	通年	○	×	○	○	×	×	×	○	×	パワーポイントを用いてと板書を用いての授業のバランスを考えながら授業を進めていきたい。	記入不要	パワーポイントを用いてと板書を用いての授業のバランスを考えながら授業を進めていくことができた。
	化学	1	前期のみ担当	○	×	○	○	×	×	×	○	×	授業中に、演習の時間を取ることに、授業内容をより理解してもらえようように努める。	記入不要	授業中に、演習の時間を取ることに、授業内容をより理解してもらえようように努めることができた。
	生物応用化学実験	3	後期のみ担当	×	×	×	○	×	×	×	○	×	実験前に必要な知識について簡単な講義を行いたい。	記入不要	実験前に必要な知識について簡単な講義を行った後実験を行うことができた。
■■■■	環境分析化学	4	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	分析機器の原理やスペクトルの読み方の解説だけでなく、実際に演習問題を解く時間をできるだけ設け、スペクトルを解く力が身につくように授業を進める。	記入不要	アンケート結果はシラバスに関する項目以外は全て4以上とおおむね良好であった。学生の様子を確認しながら、理解できていない箇所については繰り返し解説したこと、スベクトルを解く時間を増やすことが評価につながったと考えられる。
	工業化学	5	後期	○	×	○	○	○	×	×	○	×	すでに習った有機化学、高分子化学、分析化学、物理化学などの分野と関連を意識させることで、様々な知識を体系的に理解できるように授業を行う。	記入不要	学年末試験に書いてもらった自由記述の感想では、本講義を受講することで身近な材料と化学との関わりについて考えるようになったとの声が多数聞かれた。高分子材料を手にとってみてもらったり、自分が使っている化粧品、医薬品等品の成分を調べる課題を出したりしたことが評価につながったと考えられる。
	機器分析化学	3	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	×	様々な分析機器の解説だけでなく、理論・原理についての説明にも時間を割く。また、将来、社会に出た分析業務に深く必要になる重要な科目であることを理解して授業に取り組めるよう指導する。	記入不要	アンケート結果はシラバスに関する項目以外は全て4以上とおおむね良好であった。「授業の自分との関わり」も4.8の評価が得られ、どのコースに行っても将来必要な学習であることを意識してもらうことができたと思われる。
	有機化学	2	前期のみ担当	○	×	○	×	○	×	×	○	×	学生の理解度に注意して授業を進める。構造式の書き方や有機反応の考え方の基礎が身につくよう、また、予習や宿題を課すことで学生が自己学習する習慣をつけられるよう工夫したい。	記入不要	学生の理解度を高めるため、ほぼ毎回課題を出し、課題の解説や前週の復習をしてから授業に入るようにしたが、アンケート結果では「学生の理解度」に留意しながらの項目が3.8と昨年度の4.4から下がった。来年度の課題とした。
	生物応用化学実験	2	後期のみ担当	○	×	×	○	○	○	×	○	○	基本的な実験操作を正しく身に付けられること、また、座学で習った内容と実験が結びつこう指導することを目標とする。	記入不要	分析化学で学んだ内容について実際に実験を行うことで、学生の理解を深めることができ、アンケート結果も良好であった。今年度は実験テキストの紙媒体での配布をやめ、学生たちはタブレットでテキストを見ながら実験を行ったが、特に問題はなかった。
	化学	1	後期のみ担当	○	×	○	×	○	×	×	○	×	化学について興味や関心を持ってもらい、これから化学を勉強していく上で基礎を十分に身につけることができるよう指導する。予習や宿題を課すなどで、学生が自己学習する習慣をつけられるよう、宿題や冬休みの課題を出す。	記入不要	これから専門を学んでいく上で必要な化学の基礎知識について、1年を通して学習し修得することができた。授業アンケート結果もシラバスに関する項目以外は全て4以上とおおむね良好であった。自己学習するよう宿題を出し、勉強時間が昨年度より増えた傾向がみられたが学生による「9ツツ」が現れたことと課題となった。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	実験テーマについての実験操作上の注意点と実験の原理等を十分理解させたうえで、実験の知識と技術を修得できるようにする。	記入不要	アンケート結果は全て4.7以上となり、学生たちが興味・関心をもって実験に取り組んでくれたことが分かった。
	界面化学	5	前期	○	×	○	○	○	×	×	○		界面化学は製造業のいたるところで必要になる科目なので、界面化学の工業的応用を5年生に紹介することに注力したい。	記入不要	教員が主体となっているすべてのアンケート項目において平均評価が4.0を超えた。

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

生物応用化学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 ライブの 使用	インフラ ワーク シート (カンパ ン、電 子書 などの 活用)	市販 教材の 使用	紙質 教材の 活用	BYOD による 講義中 の資料 閲覧	マイク の使用	反転 授業	授業 受付 時間	フリー ディス カッション 時間	目標・改善方針	前年度アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	物理化学Ⅱ	4	通年	○	×	○	○	○	×	×	○		直近の授業アンケートにおいて、教員が主体となっているアンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だった。チームズ上のチャットによる質問対応をしっかりと行っているつもりなので、そのことを履修者に周知するとともに、質問内容と回答を共有していきたい。	全項目において平均評価が4.0を超えた。項目「質問しやすいかどうか？」の評価が上がった理由は、チームズ上での質問対応を丁寧に行うよう心がけたところにあると思うので、後期もこれを継続していく。	教員が主体となっているアンケート項目のうち、「質問しやすいかどうか？」の項目のみ平均評価が4.0を下回った。前期アンケートから評価が下がった原因として、後期の授業内容に量子化学が含まれることが考えられる。数字の理解が不十分な学生に対するフォローの仕方を検討する必要がある。
	有機化学	3	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	×	直近の授業アンケートにおいて、教員が主体となっているアンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だった。チームズ上のチャットによる質問対応をしっかりと行っているつもりなので、そのことを履修者に周知するとともに、質問内容と回答を共有していきたい。	全項目において平均評価が4.0を超えた。項目「質問しやすいかどうか？」の評価が上がった理由は、チームズ上での質問対応を丁寧に行うよう心がけたところにあると思うので、後期もこれを継続していく。	教員が主体となっているすべてのアンケート項目において平均評価が4.0を超えた。
	生物応用化学実験	2	前期のみ担当	×	×	×	○	○	×	×	×	×	昨年度実験操作を見直し、定められた時間内でほぼ実験を完了させられるようになったので、今年度もスムーズに実験を進められるようガイダンスも含めて留意したい。また、2年次に学習しない実験操作を内潜に行うことができるよう、BYODの導入も引き続き進めていく。	記入不要	教員が主体となっているすべてのアンケート項目において平均評価が4.0を超えた。
	有機化学	2	後期のみ担当	○	×	○	○	○	×	×	×	×	直近の授業アンケートにおいて、教員が主体となっているアンケート項目のうち「質問しやすい雰囲気でしたか？」の平均評価が4.0未満だった。チームズ上のチャットによる質問対応をしっかりと行っているつもりなので、そのことを履修者に周知するとともに、質問内容と回答を共有していきたい。	記入不要	教員が主体となっているすべてのアンケート項目において平均評価が4.0を超えた。項目「質問しやすいかどうか？」の評価が上がった理由は、チームズ上での質問対応を丁寧に行うよう心がけたところにあると思う。
	生物応用化学実験	4	後期のみ担当		×	×	○	○	×	×	×	×	有機合成、機器分析に加えて今年度から計算化学に関する実習を取り入れるので、その理論的背景を理解させたうえで角実験操作を有機的に結びつけられるよう留意したい。	記入不要	教員が主体となっているすべてのアンケート項目において平均評価が4.0を超えた。
■■■■	生命工学	専2	後期	○	×	×	×	×	×	×	×	×	細胞膜を通じた細胞機能の維持や、細胞内の情報伝達について、C科以外の学生にも理解しやすい授業を心がける	記入不要	結果として履修学生はC科の1人だけであり、その意味では丁寧な授業ができた。
	細胞工学	5	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	3年生「生物化学」の復習の要素を盛り込みながら、代謝の意義が理解できるような授業を心がける	記入不要	アンケート結果はおおむね良好で、おおむね目標を達成できた。成績としても満額試験対象者もなく、問題なかった。
	分子生物学	4	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	3年生「分子生物学」の復習の要素を盛り込みながら、特に遺伝子の機能について理解が深まる必要を心がける	記入不要	アンケート結果はおおむね良好だったが、再試験対象者が多く、満額試験対象者も(去年度よりはずっと減った)1名いた。3年次の理解が不十分なまま高年度な授業となり、理解が追い付かない学生がいたことが予想され、次年度以降の課題である。
	生物応用化学実験	4	後期のみ担当	×	×	×	×	×	×	×	×	×	簡単な遺伝子クローニングとその発現解析について、各々の操作の意味を理解しつつ実験が行えるようになることを心がける	記入不要	遺伝子工学の授業と対応させることで、学生には内容が分かりやすかったのではないかと考えている。レポートでも意義が理解できていることが確認できた。ただ、ノーザンブロットにおけるプローブの反応性が悪かったので、この改善が来年度以降の課題である。
	遺伝子工学	4	後期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	「生物応用化学実験」の内容を意識しつつ、基礎的な遺伝子工学の原理ができるようになることを心がける	記入不要	アンケート結果はおおむね良好だった。再試験対象者もなく、授業としてはよかったが、あとは学習した内容を実践的に卒業研究等でどれだけ利用できるかである。
	基礎細胞生物学	3	後期のみ担当	×	×	○	×	×	×	×	×	×	前期に分子生物学的内容について扱うので、後期はややマクロな生物学を扱い、生物に興味を持ってもらえるような授業を心がける	記入不要	アンケートはおおむね良好で、生物学に興味を持ってもらうという当初の目的はほぼ達成せられたと考えている。ただ、通年授業としての課題であるが、不合格者がいたのは残念であり、来年度はさらに理解しやすい工夫したい。
	分子生命科学	専1	前期	○	×	○	×	×	×	×	×	×	授業タイトルにある「分子」を意識しつつ、より広範な生物学について扱い、社会の中における生物学の位置や、その知識が私たちの生活に与える影響も含めて説明する。	記入不要	専攻科生のアンケート結果はやや点数が早く出るが、その中でもやはり点数が高かった。生物を専門とするわけではない学生対象の授業ではあるが、社会における生物学の意義や、自分たちの研究との関係性を考えさせるといふ意味での目的は達せられたと考えている。
■■■■	生体-機能材料工学	5	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	機能材料について、4年生の高分子化学の知識をさらに深め、実践に即した知識への応用を意識して説明を行う。	記入不要	高分子化学の知識を実践を意識した説明をすることで、就職活動にも活かすことができ、授業アンケートも概ね良好 outcomes だった。
	高分子化学Ⅰ	4	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	化学コース、生物コースの両コースが対象の授業であるため、広く深く、両分野でも即した知識を厳選して説明を行う。	記入不要	アンケート結果より、生物コースの学生にも比較的、理解してもらえるように授業が進められたと思う。
	高分子化学Ⅱ	4	後期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	化学コースのみの授業になるため、高分子化学で習った知識を深く掘り下げることで、新たな内容をしっかりと説明する。	記入不要	アンケート結果より、化学コースの学生の知識をしっかりと深めることが出来たと思う。
	化学	1	後期	×	×	○	×	×	×	×	○	×	有機化学の導入教育になるため、広く広く、有機化学に興味を持ってもらえるように分子モデルを用いて説明する。	記入不要	一年生に対して、有機化学をある程度理解してもらえたとと思う。分子モデルを使用していることが良い結果につながっていると思う。
	有機化学特論	専1	前期	×	×	○	×	×	×	×	×	×	C科よりも他学科出身の学生が多いため、有機化学の基礎から応用まで、短期間に分かりやすく説明する。	記入不要	専攻科の授業であるが、他学科にも理解できるように基礎的な概念を解説したが、単位修得できなかった学生が多かったため、今後の授業の進め方を検討していきたい。
	生物応用化学実験	4	通年	○	×	×	×	×	○	×	×	×	ガイダンスをしっかりと行い、安全に正確に実験を動められるように配慮する。	実験中にスマホなどで時間つぶしをしている学生が多いので、安全のために中止する。	実験は事故無く無事に進めることが出来た。レポートの提出に関して今後指導していく必要があると思われる。
	生物応用化学実験	2	前期のみ担当	○	×	×	×	×	○	×	×	×	2年生なので、まだ、完全には実験になれていないので、ガイダンスでは動画を置いて丁寧に実験のイメージを持ってもらえるように配慮する。	記入不要	実験は自己無く無事に進めることが出来た。動画を使った解説はかなり有効に思えたが、それでも実験操作を間違える学生がいるので、ガイダンスでさらに補足をしていく予定である。
														記入不要	年度末に記入
														記入不要	
■■■■	情報処理応用	4	前期	○	×	×	×	○	○	○	○	×	レポート、実験データの解析、プレゼンテーション資料作成を自らの知識と技能で作成可能である。	記入不要	他の科目でもプレゼンテーション資料作成、適切な実験レポートの作成が行えていることを確認しており、目標を達成できたと考えている。
	生物化学	3	通年	○	×	○	○	○	○	×	○	×	予習・復習がやりやすいようにテキストに沿った講義を実施する。	授業資料のアップロードが授業開始直前になることが多かったため、1日前にはアップロードできるように心がける。	4分の1の学生が、自己学習時間が10時間以内と短かった。これは復習が十分でない可能性があった。ただし、学生の授業理解度は高いため、今後は講義内容に工夫をしていきたい。
	生物応用化学実験(前期)	3	前期	○	×	×	×	○	○	×	○	×	実験テーマの目的を理解し、実験に必要な技能を習得する。	記入不要	実験の進行が確실히行われていたこと、提出されたレポートが一定のレベルに到達していたことから、当初の目的を達成できていたといえる。
	基礎細胞生物学	3	前期のみ担当	○	×	○	○	○	○	×	○	×	一般「生物」で得られた知識を深め、細胞生物学の基礎的な知識を理解できる。	記入不要	細胞生物学に関する専門用語の理解、事象を説明できることから目的を達成できている。
	生物応用化学実験	4	後期のみ担当	○	×	×	×	×	○	○	○	×	実験データ処理について、化学工学で学んだ知識、情報処理応用で修得したデータ処理法を利用して適切な実験レポートが作成できるようにする。	記入不要	提出されたレポートの9割以上が、適切なデータ解析を行っていたことから目的は達成されたと見える。
	化学工学Ⅱ	5	後期のみ担当	○	×	○	○	○	○	○	○	×	これまでに学習してきた他分野の科目・卒業研究との関連付けを行い、学習意欲を高める	記入不要	卒業研究との関連づけをなるべく行うようにした結果、本科目に対する理解・意義が深まっていると考えられる。
														記入不要	年度末に記入
														記入不要	
■■■■	環境工学序論	5	前期	○	○	×	×	○	×	×	×	×	「ものづくり」の現場で必要となる水処理(上水)を中心として、仕事で活かすことができるような(仕事で必要となってくる)内容について、8学科同時開講科目でバックグラウンドが違うところをふまえて、わかりやすく説明する。	記入不要	教員からの説明が多くなった。ワークや練習問題を取り入れて、学生に考えたり解かせたりする時間を増やしたい。
	環境工学総論	5	後期	○	○	×	×	○	×	×	×	×	「ものづくり」の現場で必要となる水処理(排水処理)を中心として、仕事で活かすことができるような(仕事で必要となってくる)内容について、8学科同時開講科目でバックグラウンドが違うところをふまえて、わかりやすく説明する。	記入不要	教員からの説明が多くなった。ワークや練習問題を取り入れて、学生に考えたり解かせたりする時間を増やしたい。

生物応用化学科 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義ス ライドの 使用	インフラ クラウド ワーク シート (カンパ ン、電 子教案 など)の 活用	市販 教材 等の 活用	紙基 教材 等の 活用	BYOD による 授業中 の資料 閲覧	マイク の使 用	反転 授業	授業 受付 時間	フリー ディス カッション 時間	目標・改善方針	前開アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
山本 真由美	分析化学	2	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	×	授業中でのグループ学習を中心とした授業展開を行う。教員からの一歩進行授業をやらない。 演習問題を中心に授業展開し、学生が自ら解き、解答をもとに考えるスタイルで授業を進める。	グループ内で協力しあいながら演習問題を解かせた。分からないところを学生自身がお互いに教えあいがらんだに取 り組んでいた。アンケート結果も良好であり、特に改善の必要はない。	前期と同じようにグループ内で問題の回答に取り組みしており、学生自身がお互いに協力しながら解くことで理解度を深める ことができた。前期に引き続き、アンケート結果も良好であった。
	環境科学特論	専2	前期	○	○	×	×	○	×	○	×	○	地球環境問題に関する知識について、SDGsの内容をふまえて、他者に対してアウトプットできるワークを行う。	記入不要	予定通りに発表形式でアウトプットを要する授業を展開でき、内容の理解を深められた。
	環境保全工学	専1	後期	○	○	×	×	○	×	×	×	×	出身学科が異なっていることをふまえて、地球規模で起こっている環境問題の概要をわかりやすく説明する。	記入不要	環境問題について分かりやすい解説を行ったつもりであったが、單元によっては教員の説明のみでは難解なところがあっ たようである(試験の得点が低い学生がいたことから)。理解度を高められるように演習やワークを取り入れたい。
	生物応用化学実験	2	後期のみ担当	○	○	×	×	○	○	×	○	○	分析化学の座学の内容と関連付けてガイダンスを行い、実習を受けもらい、座学の内容をより理解する。	記入不要	分析化学の座学と関連させて、より内容の理解を深めさせることができたと思う(実習中の学生とのやりとり多数あり)
	生物応用化学実験	4	前期のみ担当	○	○	×	×	○	×	×	○	○	分析化学・機微分析化学の座学の内容と関連付けてガイダンスを行い、実習を受けもらい、座学の内容をより理解する。また、分 析系の仕事に直結することを意識づける。	記入不要	分析化学・機微分析化学の座学と関連させて、より内容の理解を深めさせることができたと思う(実習中の学生とのやりと り多数あり)
山本 真由美	タンパク質化学	5	前期	○	×	×	○	×	×	×	×	×	生物学と化学 特(分析化学分野)の繋がりを意識した構成とする。タンパク質を使った応用についても紹介し、タンパク質を解析す ることの重要性を強調したい。加えて、練習問題も作成し、基本的な考え方を身につけられるようにする。	記入不要	アンケート結果は概ね良好であった。練習問題も自主的に取り組んでいた様子が見られて良かった。
	微生物学	4	通年	○	×	○	○	×	×	×	×	×	微生物の人間社会への影響、微生物を使った技術など、自身の生活に繋がる内容を取り上げる。また、進化・生態・遺伝といった高 専では重視されない生物学分野ともリンクさせ、生物学を使った受験にも役立つようにする。	アンケート結果は概ね良好であった。基本から応用を考える練習ができるように練習問題を作成したい。	アンケート結果は概ね良好であった。過去問に解説を添付し、考えかたの練習を促した。
	生体機能工学	専2	後期	○	×	×	○	○	×	×	○	×	生物学・化学に馴染みのない学生でも理解できるよう、生体物質の基本から入る。分野別で応用例を紹介し、どこには興味を持 てる点がある構成としたい。	記入不要	履修者が少なかったため、コミュニケーションを取り、理解度を確認しながら進めることができた。
	生物応用化学実験	3	前期のみ担当	○	×	×	×	○	○	×	×	×	生物化学の講義の遂行に合わせて実験実習を行う。iPad導入済みのクラスであるため、実習テキストをPDF配布とする。	記入不要	アンケート結果は概ね良好であった。PDF配布も特段問題なかった。
	生物応用化学実験	4	前期のみ担当	○	×	×	○	×	○	×	×	×	微生物学の講義 前期末試験範囲)に繋がるような説明・実習内容とする。	記入不要	アンケート結果は概ね良好であった。担当テーマは3週目の続きものなので、前回の操作がどうなるのかを考えながら実 験できた。
	生体・機能材料工学	5	前期	○	×	×	○	○	×	×	×	×	中間試験以降の後半を担当する。生体組織・器官・臓器の機能と、生体材料の求められる条件・用途がリンクできるような構成にす る。加えて、練習問題も作成し、基本的な考え方を身につけられるようにする。	記入不要	アンケート結果は概ね良好であった。練習問題も自主的に取り組んでいた様子が見られて良かった。

材料工学科 令和6年度													目標・改善方針	実習アンケートを受けての改善方針 (進科目目のみ)	改善結果(改善策の良否)
教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	動画スラ イドの使 用	インフラ クティブ ツール (Ansys等)	市販 品の 活用	低価 体資 料の 活用	BYODに よる機 能の中 の資料 活用	マイク の使 用	反復 練習 実施	実習 受付 時間	フリー・デ ィス カッ ション時 間			
山口 真由美	高分子科学	4	前期										授業用pd ファイルをTeamsで配布し、PPTを使用したXBT授業を実施する。重要な部分は教科書も併用し学びを深めるようにしている。また、演習問題と単元終了ごとに質問時間を設け、より理解できるように努めたい。	記入不要	PPTを使用し、はっきりとした大きな声で授業を進めた。その結果、良く聞かえる。易やすい授業の項目は比較的良い評価であつた。また、質問しやすい環境づくりを心がけたところ、質問押しやすさやこの分野の理解が深まったという項目も良い評価であつた。
	有機材料	3	後期										授業用pd ファイルをTeamsで配布し、PPTを使用したXBT授業を実施する。重要な部分は教科書も併用しゆっり明確に話し理解度を高められるようにしたい。また、トピックスの紹介や質問時間を設け、有機材料に興味関心を持ってもらうようにしたい。	記入不要	重要な部分は教科書も併用しゆっり明確に話し理解度を高められるようにしたところ、授業アンケートは全般的に良い評価であつた。
	材料工学実験	3	前期										材料工学実験では実験ノートおよびレポートの書き方から、薬品やガラス器具の取り扱い方、測定法など化学基礎実験を担当している。グラフや表をはじめ、レポート書き方など基本事項から安全・安心を重視した化学実験手法など学べるように心がける。また、その日の実験内容に関する簡単な口頭試験を実施し理解度の向上に努めたい。	記入不要	比較的良いアンケート結果となっており、現状を継続したい。実験指針等を、より分かりやすくするために改善を検討したい。
	有機材料工学	専2	後期										授業で使用する資料(pdfファイル)をTeamsで配布し、PPTを使用した授業を実施している。重要な部分は教科書も併用し学びを深めるようにしている。また、主な単元ごとに質問時間を設けるとともにトピックスなども紹介する。いつでも気軽に質問できる雰囲気づくりもしたい。	記入不要	受講生なし
山口 真由美	情報処理応用	5	前期	○	×	×	×	○	○	○	○	○	選択科目から必修科目へと変更され、受講者が増大したため、受講者の理解度により層ばらつきが生じることが予想される。受講者の理解度を見極めながら、Teamsを活用して授業時間外での質問等に対応し、シラバスの内容を確実に実施する。	記入不要	Teamsに質問を投稿し、回答するチャネルを作成し、受講者全員が質問に対する回答を共有できるようにした。これにより、質問をしにくい学生に対しても、保護った疑問に対する回答を閲覧できる環境が整った。
	設計製図Ⅳ	4	前期	○	×	×	×	○	○	○	○	○	3次元CADソフトを初めて使用する学生への授業であるが、従来、授業の進行度合いNに応じて課題を提示してきた。本年度は自己学習を促進する目的で、課題を早期に提示し、各自の理解度に応じて課題に取り組める環境を整える。	記入不要	課題を早期に提示することで、多くの学生が任意課題に取り組み、自己学習によって3D-CADのスキルがアップしたと理解できる。また、製造工学にも3D-CADを活用している様子がうかがえ、3D-CADを工学分野に活用できるスキルを身につけられた。
	設計製図Ⅲ	3	後期	○	×	×	×	○	○	○	○	○	2次元CADソフトを初めて使用する学生への授業であるが、従来、授業の進行度合いNに応じて課題を提示してきた。本年度は自己学習を促進する目的で、課題を早期に提示し、各自の理解度に応じて課題に取り組める環境を整える。	記入不要	課題を早期に提示することで、多くの学生が任意課題に取り組み、昨年度よりも課題の提出量が増加した。自己学習により、2D-CADのスキルアップが加速したと理解できる。
	材料評価学	3	前期	○	×	×	○	○	○	×	○	○	材料の機械的性質を評価する知識と技術とを修得する授業であるが、従来、プリントを配布して座学形式で授業を行ってきた。本年度は機械的性質に関する物理量を求める計算等において、PCを活用し、より高度なスキルの教授に努める。	記入不要	PCを用いて単純な計算をするだけでなく、与えられた問題に対して、PCをどのように活用すればよいかを教授することができた。一部の学生は独自にPCを使いこなし、紹介した方法以外の手法で課題の解き方に取り組んでいる様子もうかがえた。
	材料工学実験	2	前期	○	×	×	×	○	○	×	○	○	ゴムツールを用いて7種類の結晶系と14種類のプラベ-樹脂-樹脂子を作製し、複眼的に結晶モデルを理解するとともに、PCを用いて結晶モデルを解析するスキルを養う実験である。従来、材料工学科の学生はPCをネットワークに接続する方法が理解できていない様子であり、PCをネットワーク環境下で活用するスキルが確実に身に附けられるように努める。	記入不要	学生自身の力でPCを学内ネットワークに接続し、海外のデータベースから結晶データをダウンロードできるまでに理解を深めることができた。

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

材料工学科 令和6年度																							
教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	録画ス ライドの 使用	インテ ラティブ ツール の活用	市販 教材の 活用	録画 教材の 活用	BYODに よる機 械の中 の資料 閲覧	マイク の活用	反復 読みの 活用	実験 実習 時間	フリーデ ィス タンス ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (選科目目的)	改善結果(改善策の良否)								
	統計熱力学	5	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	講義スライドの改良・修正しながら、数式を丁寧に整理し、熱力学と量子力学の繋がりとなっている重要な科目であることを学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、テスト前に、演習問題と解説をおこない、質問時間も取りながら、学生の理解度を深める。	記入不要	前期の選択科目の量子力学を受講していない学生にも分かるように講義スライドの改良・修正し、数式を丁寧に整理し、学生の理解度を確認しながら授業を進め、テスト前に、演習問題と解説を行い、授業の最後に質問時間と設け、学生の理解度を確かめた結果、アンケートでは、パワーポイント、学生の理解度確認がクラス平均程度で、他も良好であった。								
	反応速度論	5	後期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	今年度、久しぶりに受け持ったので、講義スライドを作成しながら、改良・修正しながら、丁寧に数式整理する。また、反応速度式を用いて実験データを解析できるように演習を交えて学生の理解度を確認しながら授業を進める。	記入不要	講義スライドを新規に作成し、改良・修正しながら、丁寧に数式整理しながら、演習を交えて学生の理解度を確認しながら授業を進めた結果、学生の理解度は平均以上のアンケート結果が得られた。しかし、パワーポイントを用いた授業ははじめてもあり、もう少し工夫は必要であるアンケート結果であった。								
	量子力学	5	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	講義スライドを修正しながら、演習問題を取り入れ、量子力学が必要な物性や分析法についても話をしながら、興味を持たせるようにして、学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、テスト前に、演習問題と解説をおこない、質問時間も取りながら、学生の理解度を深める。	記入不要	アンケート結果から、見やすいスライド、学生の理解度にも配慮しながら、興味関心を持たせ、質問し、暑い雰囲気の授業を達成出来たと感じている。この授業に興味をもって選択してくれた学生であったことが大きいと思っているので、今後もその興味に応えられるように少しでも改善を図りたい。								
	材料機器分析	5	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	講義スライドと実験で使える演習問題を作成し、学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、テスト前に、演習問題と解説をおこない、質問時間も取りながら、学生の理解度を深める。	記入不要	概ね学生の理解度を確認しながら、質問し暑い雰囲気をつくって授業が進められていたが、さらに、より良くするように、もう少し演習を入れたら対応したい。								
	材料工学実験	3	後期のみ担当	○	×	×	×	×	○	×	×	○	ヘキサアンモニウム塩化物(配位化合物)の合成とその熱安定性、耐熱試験から評価し、配位子場理論を確認しながら、着色と吸収分光法を理解できるように、スライドを利用して実験を進める。また、実験後については、基礎的なことも教えるながら丁寧に進める。	記入不要	ヘキサアンモニウム塩化物(配位化合物)の合成実験の間に、スライドを利用してレポートの書き方を、結果や考察などに収める計算方法、必要な着色原因を配位子場理論を用いて丁寧に教えた。その結果、学生から提出された実験レポートは非常に良く出来ていた。								
	無機化学	3	前期	○	○	○	×	○	×	×	○	○	講義スライドと演習問題のスライドを作り、学生が理解できるように演習の解説も交えて授業を進める。また、質問し易いように学生に声をかけるとともに、学生に質問しながら、理解度を確認して授業を進める。最低限必要な知識については小テストも取り入れ、理解度しやすくする。	記入不要	質問し暑い雰囲気はおおむね達成できているが、分かり易いパワーポイントではあるが、学生にとっては、結晶構造や原子・分子軌道など立体的な図については、少しでも分かり易いように、色使いなどの改善が必要だと感じている。								
	物性工学	専2	前期	○	×	×	×	×	○	×	×	○	他学部出身の学生もいるため、分かり易い数式講義スライドを用いて行い、基礎的なところを中心に、シュレーディンガー方程式から数式展開しながら、学生の理解度を確認して、原子の構造、電子の状態を理解し、電子の運動から生み出される現象の発現を理解できるようにする。	記入不要	様々な学部の学生が参加して、このアンケート結果でそれほど満足できていないと感じている。専攻科のスクリーンが狭いこともあるので、スライドは見やすい点に思える。今後は、数式をもう少し見やすくすることも検討し、他学部の学生に理解を促せるような工夫を行いたいと思う。								
	材料保証学	5	後期	○	×	×	×	×	○	×	○	○	×	予め配布したスライド、補足資料(動画など)、演習問題を用いた授業を行い、破壊力学の基礎から実践的な知識までを学生が容易に理解できるように努力する。学生の理解度を確認し、授業内容や速度の調整を都度行う。授業時間外の質問にも積極的に対応する。該当み型の授業とならないように留意する。	記入不要	開講して2年目の科目であるが、①～⑦、⑧の項目で5.0の高い評価を得ることができた。一方、⑨(シラバスの記載内容の参考)については4.0であり他の項目より評価が低かった。⑨ならびに⑩の評価であった⑩、⑪について今年度の学生の理解度を確認し、次年度の講義内容や授業進行を改善していく。破壊力学という新たな学習に真摯に取り組んでくれた全受講生に感謝する。							
	鉄鋼材料	4	前期	○	×	○	×	×	○	×	○	○	×	スライド、補足資料(動画など)、自己学習課題を用いた反転型の授業を行い、鉄鋼材料の基礎から実践的な知識までを学生が容易に理解できるように努力する。学生の理解度を確認し、授業内容や速度の調整を都度行う。授業時間外の質問にも積極的に対応する。該当み型の授業とならないように留意する。	記入不要	⑨(シラバスの記載内容の参考)については昨年と同じように他の項目より評価が低かった。前期と連年の間に役立つビジュアルなども教材に盛り込んでも、これらの項目について学生が参加できるように改善していく。真摯に学習に取り組んでくれた全受講生に感謝する。							
	材料力学	4	後期	○	×	○	×	×	○	×	○	○	×	教科書だけでなく補足資料や演習問題を作成し、材料力学の基礎知識が容易に理解できるように授業設計を行う。事前の資料配布とグループワークを取り入れた授業進行により、全学生の理解度の向上を目指す。学生の理解度を確認し、授業内容や速度の調整を都度行う。授業時間以外の質問にも積極的に対応する。該当み型の授業とならないように留意する。	記入不要	⑨(シラバスの記載内容の参考)については4.2であり、例年と同じように他の項目より評価が低かった。他の項目では4.6以上の高い評価を得ることができた。今年度の結果を踏まえて、講義後に練習問題に取り組む時間を設ける。講義時間以外に、自由参加できる練習問題を設けると、継続して学生の理解度向上とできている。今年度、真摯に学習に取り組んでくれた全受講生に感謝する。							
	材料工学実験	3	後期のみ担当	○	○	×	×	×	○	×	×	○	本年度はBYODのipadを利用しながら実験手順を確認し、実験と結果整理への理解がより深まるように努める。	記入不要	全項目について4.2以上の評価であり、実験実習科目に必要な設備、教員配置、テーマ設定、1テーマあたりの学生数について概ね良好であると考えられる。次年度も学生の理解度が高まるように改善を進めていく。今年度、真摯に事件次選、レポート作成に取り組んでくれた全受講生に感謝する。								
	金属材料	3	前期	○	×	○	×	×	○	×	○	×	予め配布したスライド、補足資料(動画など)、演習問題を用いた授業を行い、金属材料の基礎から実践的な知識までを学生が容易に理解できるように努力する。学生の理解度を確認し、授業内容や速度の調整を都度行う。授業時間外の質問にも積極的に対応する。該当み型の授業とならないように留意する。	記入不要	⑨(シラバスの記載内容の参考)については昨年と同じように他の項目より評価が低かった。前年度のアンケート結果を参考にして、スライド、補足資料、動画などを調整するとともに、授業方法も改善した。⑩授業の予習・復習以外の項目では4.6以上の高い評価を得ることができた。真摯に主体的に学習に取り組んでくれた学生の皆さんに心から感謝する。								
	材料強度工学	専2	前期	○	×	○	×	×	○	×	○	×	材料工学を専門分野としない学生に対しても、本分野の基礎知識、実践的内容が容易に理解できるように補足資料を用いた授業を行う。事前に配布した資料への学生の理解度を都度確認し、授業内容や速度の調整を行う。授業時間以外の質問にも積極的に対応する。本科目と社会との繋がりが身近に感じられるような授業進行を心掛ける。	記入不要	材料工学を専門分野としない学生に対しても、本分野の基礎知識、実践的内容が容易に理解できるように補足資料を用いた授業を行う。事前に配布した資料への学生の理解度を都度確認し、授業内容や速度の調整を行うことで、①～⑥の項目で4.6以上の高い評価を得ることができた。今後は、⑩と⑪の項目について授業改善を行っていく。真摯に主体的に学習に取り組んでくれた学生の皆さんに心から感謝する。								
	成形工学	5	前期	○	○	○	×	○	×	×	×	○	昨年度からの開講科目で、講義の進め方など、昨年度の改善点を整理して取り組む。鍛造工学および塑性加工を中心として、関連する最近のトピックなどを盛り込ませながら、成形工学の現状把握と理解が深まるように努め、動画や図などを用いた視覚的コンテンツを含めた授業を心がける。また、演習等で理解度を確認しながら授業を進める。	記入不要	昨年度からの開講科目で、講義の進め方など、昨年度の改善点を整理して取り組んだ。鍛造工学および塑性加工を中心として、興味や関心をもたせようとして、視覚的コンテンツも活用した。								
	非鉄金属材料	4	後期	○	○	○	×	○	×	×	×	○	非鉄金属材料について、適切な材料選択ができるような知識を得られるように、授業を進める。また、実験の製品例などの視覚的コンテンツを用いて、非鉄金属材料を身近に感じて理解が深まるように努める。	記入不要	非鉄金属材料について、適切な材料選択ができるような知識を得られるように、授業を進めた。実験の製品例の写真や、製造工程の動画などの視覚的コンテンツを用いて、身近に感じられるように努めた。スライドの見易さに、改善が必要と感じられる。								
	材料組織学	3	後期	○	○	○	×	○	×	×	×	○	材料組織学の考え方の基本となる状態図と熱力学、拡散現象、マルテンサイト変態について、分かりやすく、また理解しやすいような講義に努める。また、既習事項の確認と授業進行に応じて習熟度を確認しつつ、講義と演習のバランスを取りながら授業を進める。	記入不要	材料組織学の考え方の基本となる状態図と熱力学、拡散現象、マルテンサイト変態について、分かりやすく、また理解しやすいように教科書をベースにした講義に努めた。既習事項の確認と授業進行に応じて習熟度を確認しながら進めた。関心が高まるように、その活用事例などもより伝える必要を感じられた。								
	材料工学実験	3	前期のみ担当	○	○	×	×	×	○	×	×	×	○	昨年度までは、共通PCを主に使用しながら実験データの解析を行っていたが、本年度はBYODのipadを利用しながら解析を行い、実験結果の理解がより深まるように努める。	記入不要	BYODのipadでできると同じようなことがあったため、共通PCも併用しながら、データ整理を進めて生じている現象を理解できるように努めた。							
	設計製図Ⅱ	2	前期	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	前年度に学んだ設計製図Ⅰの内容を確認するとともに適切に利用しながら、設計製図に対する興味と関心が高まるような授業を心がける。特に、図面を描くという点だけでなく、製品と製図のつながりを分かりやすく(例示したのちに)、図面を考えて書くように配慮する。	記入不要	前年度に学んだ設計製図Ⅰの内容を確認するとともに適切に利用しながら、設計製図に対する興味と関心が高まるような授業を心がけた。特に、実習時に質問しやすい点はあったが、共通説明時に良く伝えるような配慮を心掛ける講義が良かった。							
	ものづくり実習	2	後期	×	×	×	×	○	×	×	×	○	○	実習を通して、ものづくりに関する関心が高まるように努める。BYODのipadを使用したレポートの提出の流れを検討し、より理解が深まるように配慮する。	記入不要	BYODのipadを使用したレポートの提出の流れを実施し、より効率的に理解が深まるように配慮した。おおむねうまく進んだと思われる。							
		材料環境科学	5	前期	○	×	○	○	○	×	×	×	×	環境科学に関する知識を習得するとともに、毎年環境に関するデータがアップデートされるので、アップデートされた資料も随分授業を行っている。材料環境科学という講義の中で、材料に関連したトピックも交えながら授業を行う。	記入不要	材料環境科学は、環境を取り扱うのでその年にデータがアップデートされるため、アップデートした内容を授業を行うことができた。							
先端高分子材料		5	後期	○	×	○	×	×	×	×	×	○	先端高分子の教科書が市販には無いので、参考図書から授業の内容を構成している。高分子の反応機構に関しても普及する。昨年度より難易度をあげる。	記入不要	本年は受講者層の能力が高いため、昨年度に比べ難しい内容のことも授業に組み入れることができた。								
分析化学		3	前期	○	×	○	○	×	×	×	×	×	教科書を用いて、教科書の必要最低限の内容を講義し、復習としてformを用いて小テストを行っている。教科書の内容が多いので、厳選して授業を行う。	記入不要	分析化学の教科書が厚いので、少しずつ内容を精選して、納得のいく内容で授業できた。								
材料工学実験		1	前期	○	○	×	○	×	×	×	×	○	実験後のレポートはPadで指導をするので、表や図の書き方に關しての知識をアップデートする。	記入不要	レポートの書き方で、ipadでできる内容を教えるとともに、自分の知識のアップデートも必要で、なかなか時間が取れない時は、適回りの内容を教えてしまっている可能性がある。								
工学基礎実験		1	前期	○	○	×	○	×	×	×	×	○	実験後のレポートはPadで指導をするので、表や図の書き方に關しての知識をアップデートする。	記入不要	レポートの書き方で、ipadでできる内容を教えるとともに、自分の知識のアップデートも必要で、なかなか時間が取れない時は、適回りの内容を教えてしまっている可能性がある。								
環境調和材料		専2	後期	○	×	×	×	○	×	×	×	×	○	環境に調和した材料に関する授業を行っている。内容は、エコマテリアルの考え方、持続可能性を加味した材料などをトピックに挙げ、発展としてどのような材料を用いるべきなのか考えられるように授業を行う。	記入不要	6年度は受講者がいなかったで、開講できませんでした。							
無機機能材料		4	後期	○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	無機材料について、身近な製品やデバイスを例に挙げ、その材料機能性と用途などを分かりやすく説明し、理解を深めるように心がける。	記入不要	授業アンケートの結果、概ね学生の理解度や授業自体の内容については問題はなかったが、より学生に興味関心を持ってもらう授業を心掛ける。							
	無機材料	3	後期	○	×	○	×	×	○	×	×	×	○	昨年度のアンケート結果をもとに、より授業資料やスライドなどを分かりやすく作成する工夫を改めて心がける。	記入不要	授業アンケートの結果、概ね学生の理解度や授業自体の内容については問題はなかったが、興味関心についての項目がやや低い評価となった。より学生に身近な事例などを挙げて興味関心を持ってもらうように心がけていきたい。							
	ものづくり実習	2	後期	×	×	×	×	○	×	×	×	○	○	実習を通して、ものづくりに関する関心が高まるように努める。BYODレポートの提出の流れを検討し、より理解が深まるように配慮する。	記入不要	レポートを電子化したことで、チェックや修正コメントなどが容易にかつ学生にも見渡すやすくなった。							

材料工学科 令和6年度														目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗率のみ)	改善結果(改善率のみ)
教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	授業ス ライドの使 用	インフラ クティブ ツール (Canvas)	市販 教材の 活用	紙 媒体 資料の 活用	BYODに よる講義 中の資料 活用	マイク の使 用	反 復 練習 回数	質問 受付 時間	フ リー デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 時 間				
■■■■	材料工学実験	2	前期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	高専5年間で初めての工学実験であり、実験の面白さを通じて工学的観点での考察やデータのまとめ方などを身に付けることができるように心がける。	記入不要		学生の理解度は高く十分な内容、進め方であると思われる。
	材料工学実験	1	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	材料工学実験を通じて、工学的観点での考察やデータのまとめ方などを身に付けることができるように心がける。	記入不要		学生の理解度は高く十分な内容、進め方であると思われる。
	工学基礎実験	1	前期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	高専5年間で初めての工学実験であり、実験の面白さを通じて工学的観点での考察やデータのまとめ方などを身に付けることができるように心がける。	記入不要		学生の理解度は高く十分な内容、進め方であると思われる。
	次世代エネルギー工学	専2	後期	○	×	×	×	○	×	×	○	×	次世代に必要なとされる新エネルギー、再生可能エネルギーについて原理を分かりやすく、かつ昨今のトピックス、国の政策や海外の情勢なども含めた希望や進路、課題について学生への理解を促す工夫をする。	記入不要		概ね高い評価を得ることができた。今後も継続していく。

教職教育科 人文社会教養 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライド の使用	インタ ラク ティブ ツール (タブレット 等)	学習 記録 の 活用	紙質 教材 の 活用	BYOD による 授業 の 活用	マイク の 活用	反復 練習 の 活用	質問 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前開アンケートを受けての改善方針 (進捗率目標のみ)	改善結果(改善後の改善)
■■■■■	日本文学	3	通年	○	○	×	○	×	×	○	○	×	タブレットの使用に習熟し、なるべくホワイトボードを汚さないようにしたい。講義スライド(パワーポイント)の字数をできる限り減らし、ノートテイクの負担を軽減したい。	タブレットの使用に習熟し、講義スライドの字数をできる限り減らし、ノートテイクの負担を減らす努力を継続したい。アンケートでは興味関心を持てるかの評価が低かったので、学生が積極的に参加する雰囲気を作りたい。	講義スライドの字数を減らし、ノートテイクの負担を減らす試みはあまり進まなかった。アンケートでは、「質問しやすかったですか」の項目が低かったため、学生が質問しやすい雰囲気を作りたい。
	国語Ⅱ	2	通年	○	○	○	○	×	○	○	○	×	タブレットの使用に習熟し、講義スライド(パワーポイント)の字数をできる限り減らし、ノートテイクの負担を軽減したい。	なるべくホワイトボードを汚さないように心掛けたが、もたらホワイトボードが汚くて字が見えにくい教室が目立つ。アンケートでは声が聞き取りにくいという評価が多く、拡声器等を活用したい。	アンケートでは、クラスにより評価がまちまちだったが、声が聞き取りにくいという評価がやや高く、取りあえず漢字テストの際には声帯を使用した。興味関心を持てるかの評価もやや低かった。学生が積極的に参加する雰囲気を作りたい。また、シラバスの内容や評価割合について改善を加えた際は、その程度を学生に周知徹底するように努めたい。
	言語表現学	4	前期	×	×	○	○	×	×	○	○	○	合併教室で黒板が自由に使えることをメリットと捉えて、その場で思いついたアドバイス等を板書したり、学生に出て来てさせて問題を解かせる機会を増やしたいと考えている。	記入不要	アンケートでは良い評価をいただきました。黒板のある教室で行うメリットを十分活用し、熟達の利(自由な感じ)の授業が実施できたと思う。学生の筆記の練習にもなるので、黒板のある教室を失くさないでほしい。
														記入不要	年度末に記入
■■■■■	文学概論Ⅰ	5	後期	○	○	○	×	×	×	×	○	○	国語を学ぶ最終学年であり、文学を学ぶ意義を考えさせる。そのために常に自らが問題意識をもつように心掛け、問題解決能力を身に付けるように工夫したい。	記入不要	これからの自主的な発表、討論を促すように授業を進めていきたい。
	国語ⅠA	1	通年	○	○	○	×	×	×	×	○	○	中学校における国語学習に差があると思われるので、なるべく丁寧に説明し、国語を学ぶ意義を考えさせたい。同時に漢字学習などの継続学習において国語学習を習慣づけたいと思う。	グループ学習を中心に、コミュニケーション能力を高めることを目標にした。作品の考察及び課題に取り組みにくく感じたように思う。授業はなるべくゆっくり進行し、じっくり考えさせるようにした。引き続き「考える」ことを中心に授業を進めていきたい。	アンケートではよい評価をもったので、継続するとともに、さらによい授業を心掛けた。特に、表現力の向上を目指し、積極的に発表できるように工夫したいと思う。また、質問できる雰囲気づくりを意図したい。
	言語表現学特論	専2	後期	○	○	○	×	×	×	×	○	○	演習形式で、学生に文学を通して考える場を提供する。授業は学生による発表形式で行い、学生たちによるディスカッションがうまくできるように授業を工夫する。	記入不要	アンケートではよい評価をもったので、継続するとともに、さらによい授業を心掛けた。
														記入不要	
■■■■■	国語ⅠB	1	後期	○	○	○	○	×	×	×	○	×	基礎での国語学習の初歩段階の学生たちが、古文・漢文について興味関心を持ち学んでいけるよう、わかりやすい授業を心がける。	記入不要	料によって評価に多少の差があるが、全体的に高い評価をいただいた。学生がもっと興味をもてる授業を目指すとともに、進め方や板書の行い方などにさらに工夫をこらし、より学生の理解が深まるように努めたい。
	日本文学	3	通年	○	○	○	○	×	×	×	○	×	評論や近代文学などを学ぶなかで、文章から筆者の主張などを正しく読み取ることでできる論理的思考力や教養を身につけることができるよう、わかりやすい授業を心がける。	学生の様子を見ながら聞き取りやすくかつわかりやすく話そうに心がけた。基本的に作成したパワーポイント資料を提示するが、padを使用し、説明とともに書き込みながら進めることで、今このことを話しているのか学生が分かるように工夫した。学生がもっと自分の身近な問題と関連付けて興味をもてる授業を目指すとともに、進め方や板書の行い方などにさらに工夫をこらし、より学生の理解が深まるように努めたい。	料によって評価に多少の差があるが、全体的に高い評価をいただいた。学生がもっと興味をもてる授業を目指すとともに、進め方や板書の行い方などにさらに工夫をこらし、より学生の理解が深まるように努めたい。
														記入不要	
■■■■■	歴史学概論	4	前期	○	○	○	○	○	○	○	○	×	東アジアにおける中国と近隣諸国の関係性及び今後の在り方を自らで模索出来る能力を養わせる。又、文章・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく例えて説明する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に歴史的著名人に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	記入不要	学生にわかりやすく伝えるために大きくはつきり繰り返ししゃべることを中心とした。学生の理解度を見ながら時間制限を設け、聞く時間を設けた。学生に興味を持てるようにゲームのキャラクターなどを用い、身近な話題も取り入れた。学生が自分達で調べて書き込んで答えるアクティブラーニングの時間を取り入れているので、今後も続けていきたい。全てにおいてiPadを用いた。楽しんで学習出来るように毎週と問題度のクイズも取り入れた。文章構成力とプレゼンテーションを付けさせるために歴史的事象をたのしみながら、興味・関心を高める授業に取り組む。特に現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく説明する。
	歴史Ⅰ	1	通年	○	○	○	○	○	○	○	○	×	歴史を学ぶことを通じ、学生に原因を追究し、問題を解決する能力(論理・思考)を養わせる。他者を理解し、コミュニケーションをはかる能力を養わせる。又、文章・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく例えて説明する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に歴史的著名人に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	学生にわかりやすく伝えるために大きくはつきり繰り返ししゃべることを中心とした。学生の理解度を見ながら時間制限を設け、聞く時間を設けた。学生に興味を持てるようにゲームのキャラクターなどを用い、身近な話題も取り入れた。学生が自分達で調べて書き込んで答えるアクティブラーニングの時間を取り入れているので、今後も続けていきたい。全てにおいてiPadを用いた。楽しんで学習出来るように毎週と問題度のクイズも取り入れた。文章構成力とプレゼンテーションを付けさせるために歴史的事象をたのしみながら、興味・関心を高める授業に取り組む。特に現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく説明する。	学生にわかりやすく伝えるために大きくはつきり繰り返ししゃべることを中心とした。学生の理解度を見ながら時間制限を設け、聞く時間を設けた。学生に興味を持てるようにゲームのキャラクターなどを用い、身近な話題も取り入れた。学生が自分達で調べて書き込んで答えるアクティブラーニングの時間を取り入れているので、今後も続けていきたい。全てにおいてiPadを用いた。楽しんで学習出来るように毎週と問題度のクイズも取り入れた。文章構成力とプレゼンテーションを付けさせるために歴史的事象をたのしみながら、興味・関心を高める授業に取り組む。特に現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく説明する。
	歴史Ⅱ	2M	前期	○	○	○	○	○	○	○	○	×	歴史を学ぶことを通じ、学生に原因を追究し、問題を解決する能力(論理・思考)を養わせる。他者を理解し、コミュニケーションをはかる能力を養わせる。又、文章・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく例えて説明する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に歴史的著名人に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	記入不要	学生にわかりやすく伝えるために大きくはつきり繰り返ししゃべることを中心とした。学生の理解度を見ながら時間制限を設け、聞く時間を設けた。学生に興味を持てるようにゲームのキャラクターなどを用い、身近な話題も取り入れた。学生が自分達で調べて書き込んで答えるアクティブラーニングの時間を取り入れているので、今後も続けていきたい。全てにおいてiPadを用いた。楽しんで学習出来るように毎週と問題度のクイズも取り入れた。文章構成力とプレゼンテーションを付けさせるために歴史的事象をたのしみながら、興味・関心を高める授業に取り組む。特に現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく説明する。
	歴史Ⅱ	2IS	後期	○	○	○	○	○	○	○	○	×	歴史を学ぶことを通じ、学生に原因を追究し、問題を解決する能力(論理・思考)を養わせる。他者を理解し、コミュニケーションをはかる能力を養わせる。又、文章・漢字書き取り能力を身に付けさせる。学生自身及び現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく例えて説明する。グローバルな社会で活躍出来るようにするため、主に歴史的著名人に関するレポート及びそのプレゼンテーションを行わせる。	記入不要	学生にわかりやすく伝えるために大きくはつきり繰り返ししゃべることを中心とした。学生の理解度を見ながら時間制限を設け、聞く時間を設けた。学生に興味を持てるようにゲームのキャラクターなどを用い、身近な話題も取り入れた。学生が自分達で調べて書き込んで答えるアクティブラーニングの時間を取り入れているので、今後も続けていきたい。全てにおいてiPadを用いた。楽しんで学習出来るように毎週と問題度のクイズも取り入れた。文章構成力とプレゼンテーションを付けさせるために歴史的事象をたのしみながら、興味・関心を高める授業に取り組む。特に現代社会の身近な例を取り上げてわかりやすく説明する。
■■■■■	経済学	5	前期											記入不要	前期末に記入
	技術者倫理入門	4	後期											記入不要	年度末に記入
	技術経営	4	後期											記入不要	年度末に記入
	現代社会Ⅱ	2	通年											前期末に記入	年度末に記入
														記入不要	年度末に記入

教職教育科 数学教養 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	講義 スライド の使用	12 ラフ アップ プリント (タッ ペ)	市販 教科 書の 使用	紙質 授業 用の 紙付	BYOD による 授業 用の 紙付	マイク の 使用	板書 授業	授業 受付 時間	フリー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前年アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善度の良否)
■■■■	線形代数Ⅱ	3M	前期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	線形代数の特徴から行列式や連立方程式、固有値といった計算が出来るようになってもらう時間をとつもりですが、何を何のために計算しているのかを説明し分かってもらい科学や技術への応用につながるように努力します。	記入不要	シラバスで明記していなかった前期末試験の再試を2人に対し行ったが、結果的に全員に単位を出すことが出来たのは良かった。ある程度は何を勉強しているのかを自覚してもらえた効果でなかったかと思う。
	確率統計	4I	後期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	難解的なデータ・確率の扱いから始め連続確率分布へと両者の理解がつながるように説明したい。エクセルを使った演習も取り入れるが、簡単な場合には手計算で確実にできるようにこなすことを徹底したいです。何を何のために計算しているのかを説明し分かってもらい科学や技術への応用につながるように努力します。	記入不要	年度末に記入
	微分積分Ⅱ	3EC	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	テイラー展開や変数の極値問題、微分方程式とソフトウェアの利用する方法を紹介しつつ基本的な問題は自力で解けるようになってもらうことを目指します。すでに言っている部分と新しく学習する内容を簡潔に説明し分かってもらい科学や技術への興味を保ってもらうように努力します。	板書等が見づらいとの意見があったので、パワポでの原稿がよりわかりやすくならないように心がけ精進もより丁寧にしたい。	年度末に記入
■■■■	数学特講Ⅱ	4	後期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多く取りたい。	記入不要	演習の時間は多く確保できた。
	微分積分Ⅰ	2MIS	通年	○	○	○	○	○	×	×	○	○	小テストの実施回数を少し増やしたい。	小テストの実施回数は少しは増やせた。	小テストの実施回数ややはり少なかったので、来年度以降はもっと増やしていきたい。
	代数学特講	専1	前期	○	○	○	○	○	×	×	○	○	学生に理解を深めてもらうため、演習の時間を多く取りたい。	記入不要	演習の時間は多く確保できた。
													記入不要		年度末に記入
■■■■	基礎数学B	1	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	○	内容の説明は書き込み式の「授業プリント」にまもておき、演習時間を確保する。演習問題の理解度を確認するため、Moodle上に小テストを設定し、次の授業までに満点にすることで基礎学力の定着を図る。問題演習の時間は質問およびディスカッションしてもよいことを伝える。	前期はMoodle上の小テストが設定できなかったで、後期から始める。演習の時間が取れないときが何度かあったので、時カッションしてよいことを伝える。	後期からMoodle上の小テストを開始し、全期で12回の小テストを行った。各回、3回まで受験可能とし、1回目の受験で間違えたところがあった場合は、なぜ間違えたのかを振り返り、正しい解き方を理解してから2回目の受験をするように指示した。3回まで受験可能としたので、大半の学生は満点にすることができた。
	微分積分Ⅱ	3S	通年	○	○	○	×	○	×	×	○	○	内容の説明は書き込み式の「授業プリント」にまもておき、演習時間を確保する。演習問題の理解度を確認するため、前回の授業で学習した内容に関する小テストを毎回実施して、基礎学力の定着を図る。問題演習の時間は質問およびディスカッションしてもよいことを伝える。	前回の授業内容に関する小テストは、毎回実施することができた。演習時間が取れないときがあったので、授業プリントの内容を確認するなどして、演習の時間を確保する。	各回の授業内容は、例題を含め授業プリント1～15枚に収まるようにして、演習時間の確保に努めた。後期も前期同様、前回の授業内容に関する小テストを毎回実施して、基礎学力の定着を図った。
													記入不要		記入不要
													記入不要		記入不要
■■■■	確率統計	4M	前期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	確率統計の数値イメージが持てるような課題を適宜課していきたい。	記入不要	二項分布と正規分布・ポアソン分布の関係を可視化する課題などにより、理論をコンピュータで確認する機会を持つことができた。
	確率統計	4C	後期	○	×	○	×	○	×	○	○	○	確率統計の数値イメージが持てるような課題を適宜課していきたい。	記入不要	二項分布と正規分布・ポアソン分布の関係を可視化する課題などにより、理論をコンピュータで確認する機会を持つことができた。
	微分積分Ⅰ	2EC	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	○	適切に小テスト・課題を課すことにより、自己学習時間の確保と学習の定着度の確認をしていく。	定期試験ごとに区切って、課題を課すことができた。後期は量を増やすことで、定着度を高めていきたい。	前期意みに課題・小テストを実施したが、大きく量を増やすことはできなかった。
	線形代数Ⅰ	2MS	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	○	適切に小テスト・課題を課すことにより、自己学習時間の確保と学習の定着度の確認をしていく。	定期試験ごとに区切って、課題を課すことができた。後期は量を増やすことで、定着度を高めていきたい。	前期意みに課題・小テストを実施したが、大きく量を増やすことはできなかった。
■■■■	基礎数学A	1MEI	通年	○	○	○	○	×	×	○	○	×	学生に理解を深めてもらうため、演習時間の確保や小テストの実施をしていきたい。	前期は演習時間がある程度確保できた。後期も引き続き演習時間の確保に努めたい。	演習時間を確保し、また、小テストも十分に実施することができた。学生の協力に感謝したい。ただ、小テストの精講を十分にすることができなかったのは、次年度以降の反省としたい。
	確率統計	E	前期	○	○	○	○	×	×	○	○	×	学生に理解を深めてもらうため、演習時間の確保をしていきたい。	記入不要	初めて担当する科目ということもあってか、時間配分が上手くいかない部分があった。後期の同じ科目では工夫したい。
	確率統計	4S	後期	○	○	○	○	×	×	○	○	×	学生に理解を深めてもらうため、演習時間の確保をしていきたい。	記入不要	前期の反省を活かす、演習時間を十分に確保しているとはいえないかった。
													記入不要		年度末に記入
■■■■	微分積分Ⅱ	2M	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	○	学生に理解を深めてもらうため、演習時間の確保をしていきたい。	演習時間は確保できたが、前年度までの内容を復習すべき学生が一定数見られたため、効果が薄かったように思えた。	演習時間の確保は問題なし。一方で、前年度までの内容を復習する時間を設けることができなかった。次年度以降の反省としたい。
	数学特講Ⅰ	4	前期	○	○	○	×	○	○	○	○	○	編入学試験に向けて、復習および新しい知見を提供できるような資料作りを目指す。	記入不要	理論的補完は十分できたと思う。一方で、講義内で演習時間を確保することは非常に難しいと感じた。
	数理解析学	専1	後期	○	○	○	×	○	×	○	○	○	計算方法だけでなく、理論部分の補完を意図した講義を目指す。	記入不要	理論的補完は十分できたと思う。一方で、講義内で演習時間を確保することは非常に難しいと感じた。
	基礎数学A	1CS	通年	○	○	○	×	○	×	○	○	○	学生に理解を深めてもらうため、演習時間の確保をしていきたい。	演習時間の確保については問題なし。後期でも引き続き演習時間の確保に努めたい。	演習時間の確保は問題なし。自主学習の習慣付けの施策を考えることを次年度以降の反省としたい。

教員教育 理科教室 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	膝上 サイズの 使用	インタラク ティブ ツール(タッチ ペン、電 子黒板など)の使 用	市販 教材の 使用	生徒 の参 与の 割合	BYOD による 授業 の活用	マイク の使 用	反 復 試 験 の 実 施	質問 受付 時間	フ リ ー チ ン グ カ ッ シ ョ ン 時 間	目標・改善方針	前期アンケートを基けた改善方針 (毎年科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	化学特講	4	後期	×	×	○	×	○	○	×	○	○	編入試験科目に「化学」がある大学の編入生を目指す学生のための演習科目である。学生からの質問に積極的に答えた い。学科検定授業であり、授業評価は学科によって異なるかもしれない。	記入不要	回答者数が3名のためコメントはない。
	化学	2ME	通年	○	×	○	×	×	○	×	○	×	双方向授業を心がけ、積極的に質問あるいは授業参加する学生にIPを付し、累計を成績に反映させる。デジタル教科書 とプロジェクトを使用した授業を行う。全体に⑤質問の評価改善に努める。	⑤質問項目の評価改善に努める。	⑤質問評価について目に見えた改善結果が得られなかった。質問時間は設けているが雰囲気か・・・。
	化学	ME	通年	○	×	○	×	×	○	×	○	×	来年初年度の学生を輩出してわかりやすい授業を心がける。積極的に質問あるいは授業参加する学生にIPを付し、累計を 成績に反映させる。デジタル教科書とプロジェクトを使用した授業を行う。全体に⑤質問の評価改善に努める。	概ね良好な授業が展開できた。	M科評価4.3～4.7、E科評価4.2～4.5と概ね良好な授業が展開できた。
■■■■	物理学特講	4	前期	○	×	○	○	○	×	×	○	○	前年度同様、対面と同時にTeamsを介したオンライン学習も可能とした授業形態を続けており、このやり方で欠席者も受講で き、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があり、ほぼ全てのクラス・項目において良好であっ たので、引き続き同様な進め方をしていきたい。	記入不要	5クラス中、2クラスで「学生の理解の程度に留意してしましたか？」がクラス平均以下だった。否を近い人数の選択科目な ので、なかなか改善が難しいと感じた。机間巡回することで、個人からの質問は素に受け付けるようにしている。
	物理Ⅳ	4C	通年	○	×	×	○	○	×	×	○	○	前年度同様、対面と同時にTeamsを介したオンライン学習も可能とした授業形態を続けており、このやり方で欠席者も受講で き、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があり、ほぼ全てのクラス・項目において良好であっ たので、引き続き同様な進め方をしていきたい。	全ての項目においてクラス平均を上回っている。この調子で後期も続けていきたい。	ほぼ全ての項目において、クラス平均と0.2ポイント以内の差異だったため、基本的にはこのままで良いと思われるが、「この授 業と将来の自分との関わりについて考えましたか？」の項目のみ、0.5ポイントも平均を下回っていたため、この点に関しては、 来期以降、物理と化学・生物との関わりについて、もっと意識させるような工夫が必要かもしれない。
	物理Ⅱ	2	通年	○	×	○	○	○	×	×	○	○	前年度、物理Ⅱにおいてやった方法と同様に、対面と同時にTeamsを介したオンライン学習も可能とした授業形態をとり、 このやり方で欠席者も受講でき、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があるため。	6クラス中、2クラスで「この分野の理解が深まりましたか？」がクラス平均以下だった。後期は実験になるので、来期に向けて より良い方向に改善を試みたい。	0.2ポイント以内で、ほぼ全ての実験実習平均と差異が無く、基本的にはこのままの実験実習のやり方で良いと思われる。ただ し、生物応用化学科においてのみ、「この授業と将来の自分とのかわりについて考えましたか？」の項目が平均より0.7ポ イントも低かったため、物理と化学・生物との関わりについて、もっと意識させるような工夫が必要かもしれない。
	物理学特論	専1	後期	○	×	×	×	○	×	×	×	×	前年度同様、対面と同時にTeamsを介したオンライン学習も可能とした授業形態を続けており、このやり方で欠席者も受講で き、前方のスクリーンが見えにくい学生にも手元で見ることが出来る利点があり、ほぼ全てのクラス・項目において良好であっ たので、引き続き同様な進め方をしていきたい。	記入不要	ほぼ全ての項目において、クラス平均を上回っている(最低点で平均点より0.2ポイント下)ので、このままで良いと思われる。
■■■■	物理Ⅳ	4E1	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	○	前期は力学、後期は熱力学を扱う。前期は復習の面が強いが、基礎として重要であるため丁寧な解説を心がける。	質点および剛体の力学分野、大きな改善点は要しないが、重要な例題は丁寧に説明していく。	熱力学分野、講義中の演習量を多めに設けた。アンケートは良好であったが、受講者にとって不慣れな分野であるため、引き 続き適切な理解が得られるように努める。
	物理Ⅰ	E1	通年	○	×	○	×	○	×	×	○	○	速度・加速度・変位から始まり、運動方程式、仕事とエネルギー、熱の範囲までを取り扱う。演習の時間を出来る限り多くとり、 基礎的な理解の定着に努める。	アンケートは良好であった。引き続き丁寧に徹底な解説を心がける。	概ね一定の理解度が得られたように思う。アンケートも良好である。引き続き丁寧に徹底な解説が行えるよう努める。
	物理Ⅱ	2MCS	後期のみ担当	×	×	×	○	○	○	×	○	○	物理学の実験を通し、測定結果の取り扱い方、誤差の算出、グラフの読み取り方やそこらの物理量を読み取り方といった、より 実践的な理工学分野の基礎力を身に付ける。	記入不要	誤差の取り扱いなど、概ね一定の理解が得られた感はある。次年度以降も個々の学生へのより丁寧な対応を心がける。ア ンケートは良好であった。
	物理Ⅲ	3MCS	前期	○	×	○	×	○	×	×	○	○	振動と波動、その具体例として音と光について学ぶ。工学の基礎としても自然現象としても重要な分野であり、丁寧な解説を 心がける。	記入不要	演習実験を多めに取り入れ講義を行った。アンケート結果は良好であったが、一方で演習量が少なめであったかもしれない。 次年度以降改善に努める。
	生命工学	専2	後期	×	×	×	×	×	×	×	○	○	細胞や生命現象を数理科学的な側面から分析し、生命現象の理解を深める。	記入不要	受講者の意向をふまえ、生命現象や細胞についての数理科学的な分析を主にした講義を展開した。非常に好評なようであ った。
■■■■	物理Ⅰ	MCS	通年	○	×	○	○	×	○	×	○	×	力学および熱力学の基礎についての講義を行う。分かりやすい説明を心がけるとともに、考える力を身につけさせる。	学生の理解度に留意し、丁寧な説明を心がける。	学生の興味関心を高められるよう、解説の仕方を工夫していきたい。
	物理Ⅱ	2E1	後期のみ担当	○	×	○	×	×	○	×	○	○	後期は実験を行う。主体的に取り組めるようにしていきたい。	記入不要	実験に関しては大きな問題がないので、これを継続する。
	物理Ⅲ	3E1	前期	○	×	○	○	×	○	×	○	×	力学および波動(音波・光波を含む)についての講義を行う。見えないものをイメージできるような説明を工夫する。	記入不要	質問しやすい雰囲気を作るように心がける。
	物理Ⅳ	4MS	通年	○	×	○	○	×	○	×	○	×	前期は力学、後期は電磁気学を行う。教科書を読んで理解できる力を身につけさせる。	学科ごとに基礎知識に差があることに留意して講義していく。	学生が自主的に学び続けられるような問いを投げかけていきたい。

令和5～6年度授業改善方針

資料2-4-4-(2)-02

教養教育科 外国語教育 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	授業 スタイル の使用	インタラク ティブ ツール (フラッシュ ペン、電子 黒板など) の使用	市販 教材 等の 使用	機材 活用 の 配付	BYOD による 教材 の 活用	マイク の 使用	反転 授業 の実施	授業 録画 の実施	フリ ー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前期アンケートを受けての改善方針 (進捗科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
山本 美穂	英語Ⅲ	3MCS	前期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	2023年度後期授業アンケート結果からは、③シラバスを活用したかの項目で回答平均値が4.0程度と低かった。各国の授業時に、次の進度等を告知することあり、あらためてシラバスを確認する必要があることもあったことと思われるが、定期的シラバス自体を確認するよう促すようにしたい。	記入不要	Moo leおよびTeamsを利用して授業に関する通知や学習教材の提供を順業に行ったため、シラバスを確認する必要はあまりなかったものと思われる。Moo leに接続した範囲でいいので、シラバス内容を定期的に参照するよう促していきたい。
	英語Ⅲ	3EI	後期	○	○	○	×	○	×	○	○	×	2023年度後期授業アンケート結果からは、③シラバスを活用したかの項目で回答平均値が4.0程度と低かった。各国の授業時に、次の進度等を告知することあり、あらためてシラバスを確認する必要があることもあったことと思われるが、定期的シラバス自体を確認するよう促すようにしたい。	記入不要	Moo leおよびTeamsを利用して授業に関する通知や学習教材の提供を順業に行ったため、シラバスを確認する必要はあまりなかったものと思われる。Moo leに接続した範囲でいいので、シラバス内容を定期的に参照するよう促していきたい。
	英語特講	3EI	前期	×	○	○	○	×	×	○	○	○	2023年度後期授業アンケート結果からは、③シラバスを活用したかの項目で回答平均値が4.0程度と低かった。次の予告に生かすため、定期的にシラバスを確認するようTeams、Moo leを利用して促すようにしたい。	記入不要	Moo leおよびTeamsを利用して授業に関する通知や学習教材の提供を順業に行ったため、シラバスを確認する必要はあまりなかったものと思われる。Moo leに接続した範囲でいいので、シラバス内容を定期的に参照するよう促していきたい。
	英語特講	3MCS	後期	×	○	○	○	×	×	○	○	○	2023年度後期授業アンケート結果からは、③シラバスを活用したかの項目で回答平均値が4.0程度と低かった。次の予告に生かすため、定期的にシラバスを確認するようTeams、Moo leを利用して促すようにしたい。	記入不要	Moo leおよびTeamsを利用して授業に関する通知や学習教材の提供を順業に行ったため、シラバスを確認する必要はあまりなかったものと思われる。Moo leに接続した範囲でいいので、シラバス内容を定期的に参照するよう促していきたい。
	実践英語Ⅰ	4	後期のみ担当	○	○	○	○	○	○	○	○	×	2023年度後期授業アンケート結果からは、③シラバスを活用したかの項目で回答平均値が4.0程度と低かった。次の予告に生かすため、定期的にシラバスを確認するようTeams、Moo leを利用して促すようにしたい。	記入不要	Moo leを利用した毎授業の学習オンラインシート形式において、演習直後に結果 得点を知りたいとの希望があり、設定を修正した。意欲のある学生の動機づけのため、自主学習における効率も継続的に改善していきたい。
															年度末に記入
山本 美穂	実践英語ⅡB	5	前期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go l for his c ouse was to improve students' ability at s p-selec ing English speech topics, wri ng English spee hes, and English oral communica on ability.	記入不要	W h his c ouse, I need to c nider provi ng group-w rk opportuni es in lass to promote quality spee h wri ng.
	実践英語ⅡC	5	後期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go l s f r this course were to help students develop more adv nced cogni ve and prac ical experience rea ing more detailed English spee h out ines, to improve heir English oral communica on skill, and to fur h r improve their En lish essay wri ng bility.	記入不要	I need o recon id r altering group compo sition for ea h speech contest in rder to broad n relation hipsto increase he low of speech ideas and to s imulate motivation.
	コミュニケーション英語Ⅰ	4	前期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go l s f r this course were to give stud nts prac ice brainst rming, speech t pic ; construc ing rough, speech ou line ; inding r levant data, sta is ics, and/or uota i ns fr m he btt met or o h r s ource ; and to prac ice rehear ing and improving h r oratory skills by enga ing in ext mporeaneous, persuasive, motiva i nal, and informative, speech contests.	記入不要	It may be a good idea to de rease gr up size in order to ive students more opportunity to p rcipate in speech wri ng and presenta ons.
	コミュニケーション英語Ⅰ	4	後期	○	○	×	○	○	×	×	○	○	My go l s f r this course were to give stud nts prac ice brainst rming, speech t pic ; construc ing rough, speech ou line ; inding r levant data, sta is ics, and/or uota i ns fr m he btt met or o h r s ource ; and to prac ice rehear ing and improving h r oratory skills by enga ing in ext mporeaneous, persuasive, motiva i nal, and informative, speeches.	記入不要	This course may bene fit from diff r nt types of speech contests han those off red in he frst s mester class.
	英語ⅡA	2	通年	○	○	×	○	○	○	○	×	○	My go l s f r this course were to help students prac ice s p-selec ing En h h speech t pics, dev loping three main p ints concerning t pics, dev loping three corre ponding inst-level ub-p ints for ea h main point, rac i ng devel ping three second-level sub-points o respo nding to heir rst-level sub-p ints, and to prac ice En h h-speaking by i ng En h h-ten ugen speeches in which hey are instructed n or i c munication h h s such as p u ing eye contact, using appropriate gestures, and to learn prac ic l and useful words, phrases nd expres ions f r ral res nta ns. Stud nts w ll be tau ht how to prep re En h h r l presenta ons by shaping heir ideas into lo ic l out ines nd corre pon ing PowerPoint presenta ons.	Overall, he evalua i ns were posi ve, but item ③: "Did he stud nts ref r to he syllabus?" received a lower ra ing. Since he syllabus provides only a brief e pl na i n, I be lieve he lower ra ing re flects the fact that more emphasis is placed on pl na i ns given during re ul r asses nd he u h TEAMS.	More h u ht to gr up compo sition may b ne it speech wri ng in his c ouse.
	技術英語Ⅰ	専1	前期	○	○	×	○	○	○	×	○	○	My go l s f r this course were to help students' devel p En h h r l presenta on ability by studying effective pres nta on techniques u h as eye-c ntact, gestures etc. and to learn prac ic l and useful words, phrases nd expres ions f r ral res nta ns. Stud nts w ll be tau ht how to prep re En h h r l presenta ons by shaping heir ideas into lo ic l out ines nd corre pon ing PowerPoint presenta ons.	記入不要	Allowing students more freedom in pres nta ns technu en ht h l w h stud nt mt ovation.
山本 美穂	実践英語ⅡA	5	前期	×	×	×	○	×	×	○	○	○	The goals of this course re for her improve stud nts' ability to create nd iv En h h r l presenta ons by focusing on group ope ra on through an naly is of group selec ion techniques and an im- lass lecture reg r ing he import nce of teamwork to acquire script. PowerPoint le coordina i n and PowerPoint slide transition k ll h igh lectures and prac ical po sition as hey create effec ive presenta ons.	記入不要	Ha ing students fo us heir presenta ion on he social impl m ntation of h r res rch could off r m re prac ical application to his course.
	英語ⅡA	2	通年	○	○	○	○	○	×	○	○	○	英語総合問題集を使った授業の半期とタイプB教員とのチームティーチングにオールを中心とした半期で構成される。授業を通じて「読む・書く・聞く・話す」の学生の英語力の向上を目指す。	全体的に評価は高いが、⑧「授業の予告・復習・試験勉強にシラバスを参考にしたか」についてはやはり評価が低かった。それでも他教科との平均値と比較すると評価はむしろ良いと言える。 MoodleやTeams上の教材の周知を更に強化することで、教材の活用を予習・復習に向けて行いたい。	全体的に評価は高いが、⑧「授業の予告・復習・試験勉強にシラバスを参考にしたか」についてはやはり評価が低かった。平均値を見ると全体的な傾向として評価することもできる。 課題の提出状況やMoodle上の利用、eをを見る限り、十分活用していると言える。
山本 美穂	英語ⅡB	2	通年	○	○	○	○	○	×	○	○	○	⑧についてやはり難しいであるが、予習や辞書など、シラバスの要点はつかんで日々の授業に臨んで代わっていることからはわかるので、良いと思う。⑦の「成績がシラバスの評価方法・基準に沿うのか」では高い評価を得ているので、評価方法についても周知できている。	⑧についてやはり難しいであるが、予習や辞書など、シラバスの要点はつかんで日々の授業に臨んで代わっていることからはわかるので、良いと思う。⑦の「成績がシラバスの評価方法・基準に沿うのか」では高い評価を得ているので、評価方法についても周知できている。	
	実践英語Ⅰ	4	前期のみ担当	○	○	○	○	○	○	○	○	×	これまで培ってきた文法・読解力、リスニング力を用いて、TOEIC形式の問題に慣れ、速さと正確さを身に付け、英語運用能力を高める。	記入不要	習熟度別の授業であるが、概して大変高い評価を得た。非常勤の先生方に感謝したい。非常勤の先生方と連携を取りながら、今度も学生のTOEIC得点向上のため尽力したい。
山本 美穂	英語ⅠA	1	通年												前期末に記入
															年度末に記入
山本 美穂	英語表現論	専1	後期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英文学作品の縮約版をテキストに、これまでの4年間で培ってきた英文法と語彙を生かして、英文学解釈内容を理解する。その上で、英文を要約したり物語の時代背景やテーマについて調べることにより、自らの考えを英語で表現し、発表する。	記入不要	全体的に評価は高かったが、⑧「学生の理解の程度に留意しながら授業を行っていたか」については若干低かった。質問の時間を設けていたが、口頭ではあまり出なかった。アンケート形式で紙に書きさせるなどして、質問方法を工夫していきたい。
	英語ⅠB	1	通年	○	○	○	○	○	×	○	○	○	英文を読解力めと身近な話題について英語で話すことができることを主眼に置く。英文を読解する上で必要な英文法や語彙を基礎から教える。評定者記録簿やパワーポイントによる英単語練習を通して、発音や英語の練習を行う。	全体的に評価は高かったが、⑧「授業と自身の自分のとの関わりについて考えたか」の項目は若干低かった。読解するだけでなく、授業で扱った題材について学生たちが主体的に考え、意見を英語で表現する機会を増やしたい。	

教職教育科 体育教員 令和6年度

教員氏名	科目名	学年 クラス	開講時期	課題 スライドの 使用	イン タフ フット ボール (タフ ペン、 電子 黒板)	市販 教材 の使用	紙質 授業 資料の 配付	BYOD による 授業 中の 資料 閲覧	マイク の使用	反転 授業 実施	質問 受付 時間	フリ ー ディス カッ ション 時間	目標・改善方針	前年アンケートを受けての改善方針 (選手科目のみ)	改善結果(改善策の良否)
■■■■	保健体育	3全	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	コロナで集団で活動する時間が取れなかったことがどのように影響するかを見極めながら、クラス全体で協力して活動できるようにすすめていく。	予想通り、実技科目では積極的に取り組む学生が多いクラスとそうでないクラスに分かれたので、実技時間以外に協力しながら活動していくことの大切さを話す時間も作りながら授業を展開していった。	アンケートの結果もよかったので、授業の進行としては良かった。ただし、これからもっと能力差が出てくる中で授業展開していかねばならないので、能力に合わせて課題達成度を評価する必要がある。
	保健体育	4E	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	大学生年代なので出来るだけ自主的に考えて行動できるように、きっかけを与えてそれにどう取り組むかを課題として進めていく。	積極的に取り組む学生とそうでない学生がいたので、全体には再度注意喚起しつつ、授業の合間に個々にアドバイスをしながら対応した。	後期から今まで行ってきた実技科目に取り組んだことで、
■■■■	保健体育	1全	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	実技では、準備や片付け等、協調性を示さなければいけないところで、振りが出ないようにしたい。また、前期はゲーム競技になるので、チームワーク等もはぐくんできたい。保健では、これからの日常生活において必要不可欠な情報を取り入れ、健全な生活を送れるよう動員していく。	底ね、協調性を示しながら進めることができたと思う。後期も引き続き継続して行う。	後期授業では、前期と同様に協調性をもち、主体的に動いてくれる学生が多くなっていった。こちらからの指導動員は最小限にとどめ、できる限り学生への活動時間としていたこともあり、十分に活動時間も確保できた。
	保健体育	4CS	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	協力する気持ちを大切に授業を進めていく。また、準備片づけ等もしっかり行い、自ら学ぶ姿勢を養いたい。体育授業最終年度であるので、チームワーク等もはぐくんできたい。保健では、これからの日常生活において必要不可欠な情報を取り入れ、健全な生活を送れるよう動員していく。	テニスというこれまでに経験したことのない科目であるため、ボールコントロールがうまく行かず苦労入苦する学生も見えたが、皆積極的に体を動かすことを楽しんでいる様子であった。生涯体育のひとつの選択技として、良い経験をしてもらえていると感じている。	後期は、テニスに加え、これまでに学習した種目を中心とした内容であったため、学生同士のコミュニケーションも多くはかられら。自由記述のアンケートでも「楽しく運動できた」との回答を得た。次年度も継続して学生主体で協調しあいながら運動展開ができる授業構成を準備し、実施していく。
■■■■	保健体育	2全	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2年生では、実技能力の向上を目指しつつも、集団的な行動ができるようになるために、時間を守ること、チームやペアで協力し合うこと、人とのコミュニケーションが取れること等を目標とする。	前期はソフトボールの種目を行ったが、学生の運動能力に応じた授業内容を段階的に展開できた。後期の他の種目についても、同様に工夫して1人1人、成績評価基準が学生には理解と捉えられているようであったため、今後授業内で適切な説明をしていく。	全体を通して、学年全体で一人一人の集団的な行動に対する意識が少し高くなってきたと感じた。全クラスで授業の満足度が上がった。また、運動量や技術レベルは適切であることや実技の技術、技能が向上したと回答する学生が多かった。成績評価基準については、アンケート結果の評価も改善され、授業内の丁寧な説明が学生理解に繋がった。
	保健体育	MI	通年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	生涯体育に繋がるために、運動を通して自分や周りの人とのように向き合い、取り組むことができるかを考えながら行動できるように進めていく。加えて、これまで3年間で経験・習得してきた運動技能を再確認する。	前期のテニスでは、技能習得に積極的に取り組む学生がいたが、生涯体育へ繋がるような授業展開ができなかった。自分たちで何ができて何ができないかの課題を整理し、課題解決に向けた授業を展開できるように工夫が必要であると感じた。周りと人と協調して活動することについては、概ねできていた。	後期は、これまで経験・習得してきた運動を自分たちで選択し、取り組む授業が多かったが、できるだけ自主的に取り組めるように、場面のみを設定した。体育館内で行うことができる種目が限られていることもあり、これまで行ってきた運動以外の種目をしたという意見があったが、今後行う際には安全面や学生の運動能力を考慮して実現可能かを判断する必要がある。

○ 鈴鹿工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則

平成19年4月1日

規則第5号

最終改正令和7年3月6日

鈴鹿工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則

(目的)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第10条の規定に基づき、鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び事務分掌に関し必要な事項を定めるものとする。

(事務部)

第2条 本校に事務部を置く。

2 事務部に、事務部長を置く。

3 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を統括する。

(課)

第3条 事務部に総務課及び学生課を置く。

(課長)

第4条 課に、課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

(課長補佐)

第5条 課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、上司の命を受け、高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の事務を処理するとともに、課長の事務を補佐する。

(係長)

第6条 課に係長を置き、必要に応じ専門職員を置くことができる。

2 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

3 専門職員は、上司の命を受け、専門的知識若しくは経験を必要とする特定又は一定範囲の分野の事務を直接処理する。

(総務課)

第7条 総務課に課長補佐、総務企画係、人事給与係、財務・経理係、調達係及び施設係を置く。

2 総務課に社会連携室及び経理室を置く。

3 社会連携室は、次に掲げる事務を処理する。

(1) 研究協力に関すること。

(2) 産学官連携に関すること。

(3) 地域社会及び産業界との連携・交流に関すること。

4 経理室は、次に掲げる事務を処理する。

- (1) 予算配分及び決算に関すること。
- (2) 会計及び契約の監査に関すること。
- (3) 施設に関すること。

5 社会連携室及び経理室にはそれぞれ室長を置き、課長補佐をもって充てる。

第8条 総務企画係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 事務部の所掌事務を総括し、他の課、係との連絡調整に関すること。
- (2) 学則、その他諸規則の制定及び改廃に関すること。
- (3) 機密に関すること。
- (4) 広報、渉外及び秘書に関すること。
- (5) 儀式及び会議に関すること。
- (6) 学術団体及び独立行政法人国立高等専門学校機構等との連携に関すること。
- (7) 公文書の接受、配布、発送、整理及び保存に関すること。
- (8) 公印の管守に関すること。
- (9) 郵便物の受領及び発送に関すること。
- (10) 学校要覧その他刊行物の編集、配布に関すること。
- (11) 掲示に関すること。
- (12) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (13) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
- (14) 中期目標、中期計画等の策定及び活動報告等に関すること。
- (15) 教育改善及び学校運営システムの調査に関すること。
- (16) 国際交流（留学生関係を除く。）に関すること。
- (17) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (18) その他企画調査に関すること。
- (19) 研究協力に関すること。
- (20) 産学官連携に関すること。
- (21) 共同研究、受託研究及び寄付金の受入に関すること。
- (22) 科学研究費（経理を除く。）に関すること。
- (23) 公開講座に関すること。
- (24) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (25) その他地域連携に関すること。
- (26) その他他の係に属さないこと。

第9条 人事給与係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 教職員の任免、分限、懲戒に関すること。
- (2) 教職員の職階及び給与に関すること。
- (3) 教職員の定員及び定数に関すること。
- (4) 教職員の選考及び資格認定に関すること。
- (5) 教職員の勤務評定に関すること。
- (6) 教職員の服務、勤務時間及び休暇に関すること。

- (7) 教職員の研修及び出張に関する事。
- (8) 内地研究員及び教員の海外派遣に関する事。
- (9) 教職員の災害補償に関する事。
- (10) 教職員の栄典及び表彰に関する事。
- (11) 諸給与の経理に関する事。
- (12) 退職手当及び共済組合給付に関する事。
- (13) 教職員の社会保険に関する事。
- (14) 教職員の福利厚生に関する事。
- (15) 教職員の健康管理に関する事。
- (16) 職員宿舎に関する事。
- (17) 教職員の身分証明その他諸証明に関する事。
- (18) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (19) その他人事に関する事。

第10条 財務・経理係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 予算及び決算に関する事。
- (2) 会計の検査、監査に関する事。
- (3) 会計の諸規程に関する事。
- (4) 運営費交付金等に関する事。
- (5) 収入及び支出に関する事。
- (6) 寄附金の経理に関する事。
- (7) 債権の管理に関する事。
- (8) 旅費及び諸謝金の経理に関する事。
- (9) 科学研究費の経理に関する事。
- (10) 計算証明に関する事。
- (11) 独立行政法人の財産に関する事。
- (12) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (13) その他財務・経理に関する事。

第11条 調達係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 物品の管理、運用及び計算証明に関する事。
- (2) 物品の購入及び役務等の契約に関する事。
- (3) 物品の検査に関する事。
- (4) 物品の寄附受入に関する事。
- (5) 不用物品の処分及び売払いに関する事。
- (6) 官公需についての中小企業者の受注の機会の確保に関する事。
- (7) 自動車の運行に関する事。
- (8) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (9) その他調達に関する事。

第12条 施設係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 施設整備に関する事。

- (2) 営繕工事に関すること。
- (3) 校内の環境整備に関すること。
- (4) 校内の安全管理に関すること。
- (5) 防火管理に関すること。
- (6) 所掌事務の調査統計に関すること。
- (7) その他施設に関すること。

(学生課)

第13条 学生課に課長補佐、教務係、入試係、学生支援係、寮務係及び図書・情報係を置く。

第14条 教務係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 学生課内の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 教育課程に関すること。
- (3) 授業及び休業等に関すること。
- (4) 学生の研修、インターンシップ及び見学に関すること。
- (5) 学生の入学、修学及び卒業に関すること。
- (6) 学生の休学、退学等学籍に関すること。
- (7) 学籍簿の整理及び保存に関すること。
- (8) 学生の学業成績及び卒業証明等に関すること。
- (9) 学生の表彰に関すること。
- (10) 教科書、教材等に関すること。
- (11) 授業料債権の発生及び変更通知に関すること。
- (12) 学生の教養、体育行事に関すること。
- (13) 研究生に関すること。
- (14) 留学生に関すること。
- (15) 教室の管理運営に関すること。
- (16) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (17) その他教務に関すること。

第15条 入試係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 入学者の選抜に関すること。
- (2) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (3) 入試広報室に関すること。
- (4) その他入学試験に関すること。

第16条 学生支援係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 学生の課外活動に関すること。
- (2) 学生の就職、アルバイトに関すること。
- (3) 学生の保健衛生及び救急処置に関すること。
- (4) 学生の相談に関すること。
- (5) 学生の通学・安全に関すること。
- (6) 入学金免除に関すること。

- (7) 授業料免除及び徴収猶予に関する事。
- (8) 奨学生及び奨学金に関する事。
- (9) 広報誌「鈴風」の編集、配布に関する事。
- (10) 学生の規律及び賞罰に関する事。
- (11) 学生の団体、集会、催物及びその他の行事に関する事。
- (12) 学生の印刷物の配布及び掲示に関する事。
- (13) 学生の旅客運賃割引証及び通学証明に関する事。
- (14) (独) 日本スポーツ振興センター(経理を除く。)に関する事。
- (15) 所掌事務の調査、統計その他報告に関する事。
- (16) その他学生の福利厚生に関する事。

第17条 寮務係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 学寮の管理運営に関する事。
- (2) 学寮の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (3) 寮生の給食に関する事。
- (4) 学寮生活の日課等の実施計画及び指導助言に関する事。
- (5) 学寮における諸行事の計画及び実施に関する事。
- (6) 学寮における保健衛生及び栄養管理に関する事。
- (7) 寄宿料債権の発生及び変更の通知に関する事。
- (8) 学寮の防災管理に関する事。
- (9) 学生の入寮、退寮に関する事。
- (10) 在寮証明に関する事。
- (11) 寮監の宿日直に関する事。
- (12) 寮生の郵便物受領、配布に関する事。
- (13) 寮母の役務に関する事。
- (14) 所掌事務の調査、統計その他諸報告に関する事。
- (15) その他学寮に関する事。

第18条 図書・情報係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 図書館資料の管理に関する事。
- (2) 図書館資料の購入、計画に関する事。
- (3) 図書館資料の選択及び検収に関する事。
- (4) 図書館資料の分類及び目録の作成に関する事。
- (5) 文献の利用、調査に関する事。
- (6) 寄贈図書の受入れに関する事。
- (7) 寄託図書の保管に関する事。
- (8) 紀要に関する事。
- (9) 図書館資料の貸出及び閲覧に関する事。
- (10) 図書室における検索指導に関する事。
- (11) 閲覧室、書庫の整理に関する事。
- (12) 視聴覚機器の管理取扱いに関する事。

- (13) 学術情報の利用等に関する事。
- (14) 事務情報化に係る企画、推進及び連絡調整に関する事。
- (15) 情報セキュリティの事務に関する事。
- (16) 情報処理センターの事務に関する事。
- (17) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (18) その他図書館及び情報処理センターの事務に関する事。

附 則

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 事務組織及び事務分掌規則（平成16年規則第5号）及び技術組織運営規則（平成16年規則第6号）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成21年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月14日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附 則

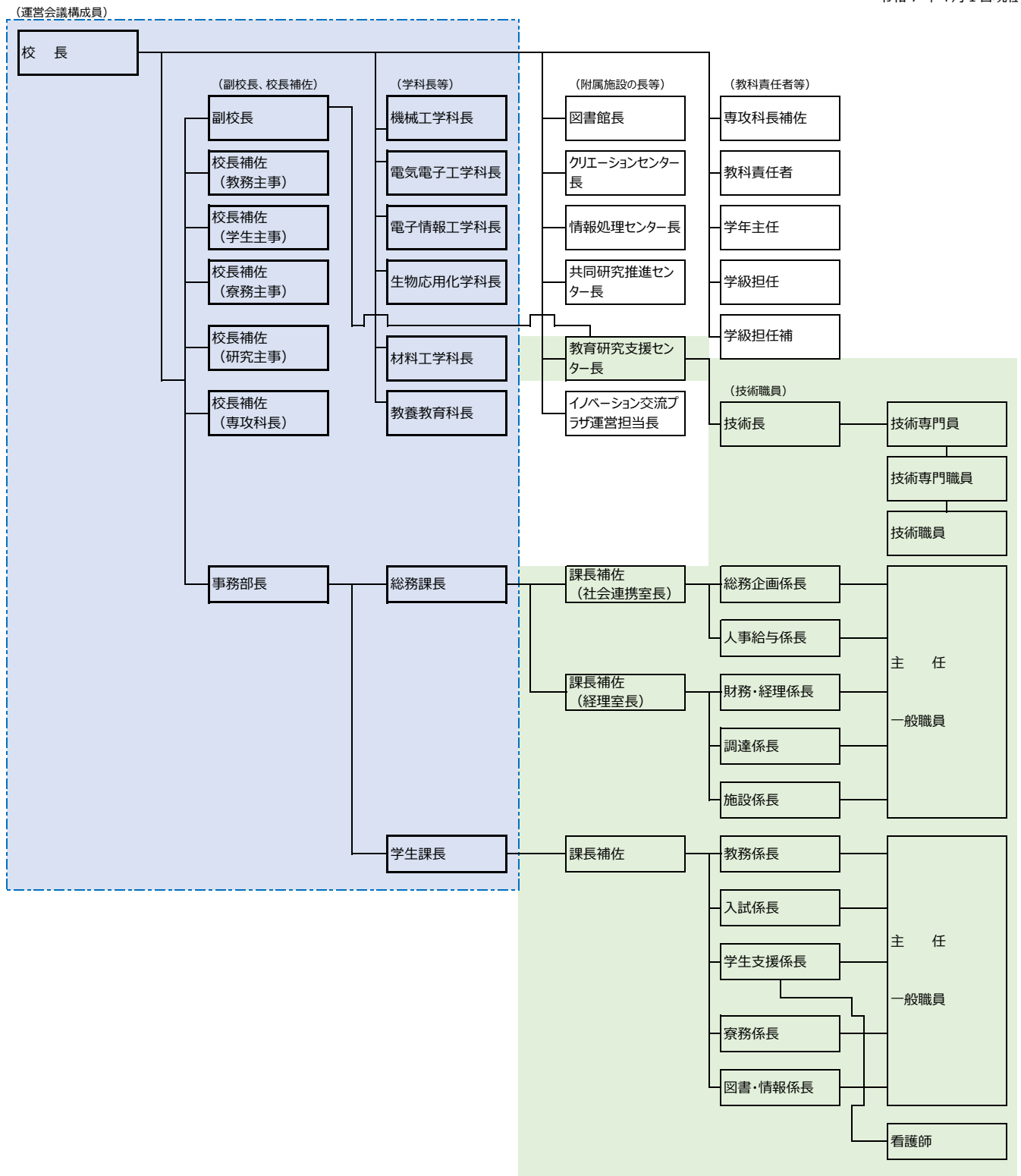
この規則は、令和4年5月11日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

鈴鹿工業高等専門学校 教職員組織図

令和 7 年 4 月 1 日現在



独立行政法人国立高等専門学校機構における技術専門員及び技術専門職員 の配置等の取扱いについて

平成17年2月8日

一部改正 平成18年10月10日

一部改正 平成23年 3月 4日

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

(目的)

第1条 本裁定は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）規則第1号）第5条第7項及び独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（機構規則第6号）第12条第2項に基づき、技術専門員及び技術専門職員の配置等を行うに際して、必要な事項を定めることを目的とする。

(技術専門員)

第2条 技術専門員の配置は、次の各号に掲げるところに基づき、極めて高度に専門的な技術を有することが客観的に明らかな者の中から行うものとする。

- 一 職務に関する技術系の国家資格試験（大卒程度を想定した試験以上。ただし、国家公務員等の採用試験は除く。）に合格した者
- 二 職務に関する特許取得等の独創的な技術開発を行った者
- 三 学会賞等を受賞した者
- 四 科学技術研究費補助金等の公募採択型の各種補助金を受けた者
- 五 修士以上の学位を有する者
- 六 学会等において職務に関連する論文の発表（査読付）を行った者
- 七 その他、校長が前各号と同等以上の資格等を持つと判断した者

2 前項第七号に該当するものとして技術専門員に配置する場合は、あらかじめ、別紙様式1により理事長に協議を行うものとする。

(技術専門職員)

第3条 技術専門職員の配置は、次の各号に掲げるところに基づき、高度の専門的な技術を有することが客観的に明らかな者の中から行うものとする。

- 一 前条第二号から第五号までに該当する者
- 二 職務に関する技術系の国家資格試験（国家公務員等の採用試験は除く。）に合格した者
- 三 技術発表会等において職務に関連する技術発表等を行った者
- 四 学会等において職務に関連する論文発表等を行った者
- 五 その他、校長が前各号と同等以上の資格等を持つと判断した者

2 年度末年齢が33歳以下の者を技術専門職員に配置する場合は、あらかじめ、別紙様式2により理事長に協議を行うものとする。

(その他)

第4条 理事長は、この裁定の実施に関し、必要な事項を別に定めることができるものとする。

附 則

この裁定は、平成17年3月1日から施行する。

附 則

この裁定は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この裁定は、平成23年4月1日から施行する。

令和 5 年度 職員研修・発表会実施状況一覧

連番	件 名	開催日	参 加 者	参加人数（職種別）		
				事務職員	技術職員	図書館職員
1	令和5年度第1四半期総務省情報システム統一研修	オンライン及びe-ラーニング	■		1	
2	令和5年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修	6/19-20 オンライン	■	1		
3	令和5年度独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会	5/29-31	■■■■■	1	2	
4	令和5年度独立行政法人国立高等専門学校機構新任課長研修会	オンライン7/21 集合7/24-25 動画視聴	■	1		
5	東海北陸近畿地区高専技術職員研修	8/30-9/1	■■■■■		2	
6	令和5年度東海地区国立大学法人等中堅職員研修	オンライン 9/14-15	■■■■■	2		
7	令和5年度東海地区国立大学法人等新任課長補佐研修	9/28-29	■	1		
8	令和5年度東海・北陸地区国立大学法人等人事担当者（係長級以下）研修	R5.10.17	■	1		
9	実践的サイバー防御演習 CYDER B-2コース	R6.1.19	■		1	
10	第15回高専技術教育研究発表会in松江	2/29-3/1	■■■■■			
11	令和5年度技術職員研修・活動報告会（第15回）	R6.3.18	■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■		15	
	合計			7	21	0

令和6年度 職員研修・発表会実施状況一覧

連番	件 名	開催日	参 加 者	参加人数（職種別）		
				事務職員	技術職員	図書館職員
1	令和6年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修	5/16-5/17	■■■■■■■■■■	1	2	
2	令和6年度第11四半期 総務省情報システム統一研修	集合研修（WEB） eラーニング	■■		1	
3	【本部学務課】令和6年度学務担当者向けオンデマンド研修（第1回）		■■	1		
4	令和6年度（第22回）高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会	8/19-8/20 オンライン併用	■■			1
5	令和6年度東海地区国立大学法人等係長研修	7/18-19	■■	1		
6	令和6年度東海地区国立大学法人等リーダーシップ研修	9/26-9/27	■■	1		
7	令和6年度東海地区国立大学法人等中堅職員研修	9/5-9/6 オンライン研修	■■	1		
8	【本部学務課】令和6年度学務担当者向けオンデマンド研修（第2回）	9/1-11/30（3か月）	■■	1		
9	令和6年度東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会	10/2-10/4	■■	1		
10	IT人材育成研修会	1/29-1/31	■■■■■■■■■■		1	
11	毒物劇物安全対策講習会	R7.2.12	■■■■■■■■■■		2	
12	第16回高専技術教育研究発表会in木更津	3/3-3/4	■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■		15	
13	令和6年度技術職員研修・活動報告会（第16回）	R7.3.17	■■■■■■■■■■		2	
14	東海北陸近畿地区高専技術職員研修	3/26-3/28	■■■■■■■■■■		2	
15	【本部学務課】令和6年度学務担当者向けオンデマンド研修（第2回）		■■	1		
	合計			8	25	1